TOA

操作説明書

IP コミュニケーションシステム
CX-1000 シリーズ

このたびは、TOA IP コミュニケーションシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの操作説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

安全上のご注意 7

第 1 章　システムの概要

概　要 1-2

特　長 1-2

システム仕様 1-3

システム例 1-4

各部の名称とはたらき 1-5
- システムマネージャー CX-SM1000 1-5
- ビデオ多機能端末 CX-OP1700 1-6
- ビデオドア端末 CX-CL1750 1-8
- 標準端末 CX-OP1500 1-9
- ドア端末 CX-CL1550 1-11
- タッチパネルリモコン CX-RM1700 1-12
- 音声インターフェース 6 入力 2 出力 CX-AF1062 1-14
- アンプ 120/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240 1-16
- 制御入出力ユニット CX-CC1016 1-18

システムの機能一覧表 1-19

代表機能 1-22
- 選択応答 1-22
- ドアリモート 1-22
- 業務放送 1-24
- ボイススタック放送（CX-OP1700/RM1700 のみ） 1-24
- 映像確認放送（CX-OP1700/RM1700 のみ） 1-25
- 接点ブリッジ 1-25
- 緊急モード 1-25
- 緊急放送 1-26
- IP-A1 への放送 1-27

第 2 章　表示灯の状態と液晶画面の表示

ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態 2-2
- 放送先選択時の表示灯 2-3
- 放送キーの表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-3
- 業務／ BGM 放送時の表示灯 2-4
- 業務放送パターン起動／停止時の表示灯 2-4
- ベースパターン起動、ベースパターン停止時の表示灯 2-5
- ボイススタック時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-5

緊急メッセージ放送パターン起動時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-6
緊急メッセージ放送パターン停止時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-6
緊急シーケンス停止時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-7
緊急シーケンスフェーズ移行時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-7
緊急復旧時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-8
緊急メッセージ放送時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-8
故障受理時の表示灯（CX-AF1062/PA1120/PA1240 のみ） 2-9
故障リセット時の表示灯 2-9
オーディオシーン変更時の表示灯 2-10
接点ブリッジ時の表示灯 2-10
タイマー運用パターン変更時の表示灯 2-11
外部カメラ映像確認時の表示灯（CX-RM1700 のみ） 2-11

液晶画面上のダイレクトキーの表示状態 2-12
放送先選択時の表示 2-13
業務／ BGM 放送時の表示 2-13
業務放送パターン起動／停止時の表示 2-14
ベースパターン起動時の表示 2-14
ボイススタック時の表示 2-14
緊急メッセージ放送パターン起動時の表示 2-15
緊急メッセージ放送パターン停止時の表示 2-15
緊急シーケンス停止時の表示 2-16
緊急シーケンスフェーズ移行時の表示 2-16
緊急復旧時の表示 2-17
緊急メッセージ放送時の表示 2-17
故障リセット時の表示 2-18
オーディオシーン変更時の表示 2-18
接点ブリッジ時の表示 2-18
タイマー運用パターン変更時の表示 2-19
外部カメラ映像確認時の表示 2-19

作動表示灯の状態 2-20

状態表示灯の状態 2-21
CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の状態表示灯 2-21
CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016
の状態表示灯 2-21

アイコン一覧 2-22
CX-CL1750/CL1550 の表示灯 2-22
CX-OP1700/RM1700 の液晶画面に表示されるアイコン 2-23

メニュー画面の遷移 2-26
CX-OP1700/RM1700 のメニュー画面 2-26
CX-OP1500 のメニュー画面 2-29

第 3 章　通話機能と操作のしかた

呼び出し 3-2
個別呼び出し（CX-OP1700/OP1500 のみ） 3-2
短縮ダイヤル 3-3
電話帳（CX-OP1700 のみ） 3-4
リモートダイヤル 3-5
グループ呼び出し 3-6

応答 3-7
着信選択 3-7

通話 3-12
音声通話 3-12
ビデオ通話（CX-OP1700/CL1750 のみ） 3-14

保留（CX-OP1700/OP1500 のみ） 3-16
通話保留 3-16

転送（CX-OP1700/OP1500 のみ） 3-17
手動転送 3-17
自動転送 3-19

その他の通話機能 3-26
ドアリモート（CX-OP1700/OP1500 のみ） 3-26
スピーカー出力切り換え
（CX-OP1700/OP1500/CL1750/CL1550 のみ） 3-27
ビデオプレビュー機能 3-27

第 4 章　放送機能と操作のしかた

放送機能 4-2
放送機能の概要 4-2
ダイレクトキー設定例 4-3
操作例 4-5

外部機器制御 4-16
接点ブリッジを操作する 4-16

第 5 章　緊急モード機能と操作のしかた

緊急モードの使いかた 5-2
緊急モードを起動する方法 5-2
設定例 5-2
緊急メッセージ放送の操作のしかた 5-3

緊急モードになったら 5-5
緊急モード時の動作 5-5
緊急放送 5-5

緊急復旧 5-6

第 6 章　外部システムとの接続

外部電話システムとの接続 6-2
外部電話システムとの通話のしかた 6-2
外部電話システムへの発信 6-2
外部電話システムへの転送 6-4
外部電話システムからの着信 6-13
外部電話システムとの通話 6-15

SIP 電話機接続 6-16
SIP 電話機からの呼び出し（個別呼び出し） 6-16
SIP 電話機からの呼び出し（グループ呼び出し） 6-16
SIP 電話機での応答 6-17
SIP 電話機からの制御出力操作（接点ブリッジ） 6-17
SIP 電話機からのドアリモート操作 6-18
SIP 電話機の外部電話システムとの接続 6-19

外部システムへの放送 6-20

第 7 章　その他の機能

CPU OFF 切換スイッチを使用した一斉放送 7-2

優先制御 7-3
優先の判定方法 7-3
優先呼び出し 7-4

時間制限 7-5
呼び出し時間制限 7-5
通話時間制限 7-5
放送時間制限 7-5

外部機器制御 7-6
制御出力 7-6
音声出力 7-7

音声通知 7-8
音声通知 7-8
チャイム 7-8

プログラムタイマー 7-9
タイマーイベント起動 7-9
パターン変更 7-9

広域放送 7-10

録音 7-11

時刻調整 7-11
NTP 7-11
時刻補正 7-11

オーディオシーンの変更 7-11

機器交換 7-12

第 8 章　故障検知

自己点検 8-2
定期点検と手動点検 8-2
手動点検のしかた 8-3

故障受理と故障リセット 8-7

第 9 章　データの登録と書き出し

SD カードを使ったアップロードとダウンロード 9-2
SD カードから CX-SM1000 へアップロードするとき 9-2
CX-SM1000 から SD カードへダウンロードするとき 9-3

第 10 章　故障かなと思ったら

故障かなと思ったら 10-2

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け

⚠警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源の供給を止めて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）（CX-PA1120/PA1240 のみ）
- 音が出ないとき
- 画面が映らないとき

強　制

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない（CX-PA1120/PA1240 のみ）

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

裸火を上に置かない

たとえば火のついたローソクのような、裸火を本機の上に置かないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠注意　誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用するとき

上に重いものを置かない（壁設置の場合）

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小にする

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

AC アダプターは指定のものを使用する

（CX-PA1120/PA1240 を除く）

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

強　制

定期的に内部の掃除をする（CX-PA1120/PA1240 のみ）

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。

強　制

電源プラグやコンセント部の掃除をする

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

（CX-PA1120/PA1240 のみ）

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

製品の上に乗らない（壁設置の場合）

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

警告
本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

第１章

システムの概要

概　要

ビデオ通話と放送を統合した IP ネットワークコミュニケーションシステムです。
ビデオインターカムシステムと多元業務放送システムを融合したシステムを構築することができます。

特　長

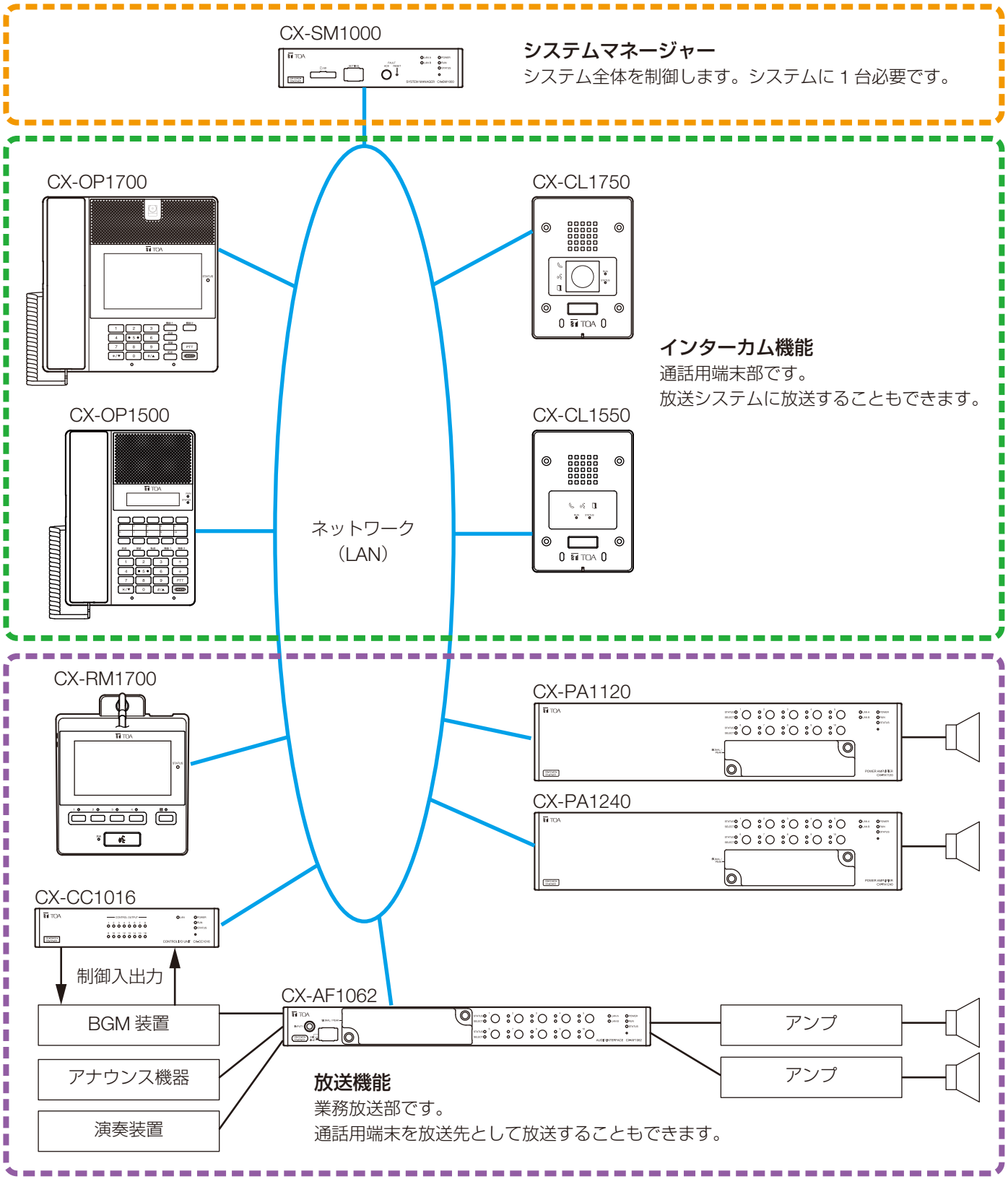
- 最大 3000 回線への出力が可能な多元業務放送システムです。
- システム内に最大 3000 台の端末を接続することができます。
- 汎用 IP ネットワークを利用し、システムの分散配置が可能です。
- 故障検知機能により、信頼性の高いシステムを構築できます。
- SIP プロトコルに対応しているので、汎用 SIP 電話から通話が可能です。
- ONVIF® プロトコルに対応したネットワークカメラの映像を端末で確認することができます。
- アンプ付きスピーカーセレクターユニットを使用することで、多回線の放送システムを構築できます。

※ ONVIF は ONVIF Inc. の登録商標です。

システム仕様

システム仕様		
	音声入力	最大 3000 系統
	音声出力	最大 3000 系統
	放送グループ数	最大 999 グループ
	スピーカー回線出力	最大 3000 回線
	制御入力	最大 12000 系統
	制御出力	最大 15000 系統 通常制御出力＋ ATT 制御出力
	LAN	各機器に 2 ポートまたは 1 ポート搭載 RJ45 端子 ネットワーク仕様は下記「ネットワーク仕様」参照。
	音声リンク数	システム最大：通話 1500 リンク、放送 200 リンク 通話端末　　：通話、マルチ／ユニキャスト放送用 1 リンク
	システム設定	専用設定ソフトウェアによりシステムマネージャーへ設定をアップロード（LAN 経由 /SD カード）
ネットワーク仕様		
	ネットワーク I/F	100BASE-TX
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、RTSP、IGMP、NTP、SIP、FTP、RSTP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト（放送送信数：最大 16 カ所／台） マルチキャスト（放送送信数 ⇒ マルチキャスト制御：最大 2999 カ所、ユニキャスト制御：最大 200 台または 500 回線）
音声伝送仕様		
	サンプリング周波数	・48 kHz（PCM） ・16 kHz（G.722） ・8 kHz（G.711） ソフトウェア切り換え式
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	PCM、G.722、G.711 μ -Law/a-Law
	音声パケット欠落補正	無音挿入
映像伝送仕様		
	画像符号化方式	H.264、JPEG
	解像度	1280 × 720、640 × 480、640 × 360、320 × 240、320 × 180
	フレームレート	H.264 ：最大 20fps JPEG ：最大 10fps

システム例



本書では CX-SM1000、CX-PA1120 などのラックに組み込んで使用できる機器をユニット、CX-OP1700、CX-RM1700 などそれ以外の機器を端末と呼びます。

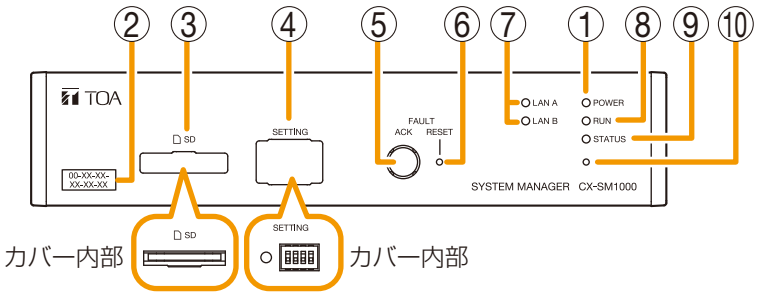
ご注意

システムは CX-SM1000 が制御していますが、本書の動作説明図の中では CX-SM1000 を省略しています。

各部の名称とはたらき

■ システムマネージャー CX-SM1000

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）

電源を入れると点灯します。

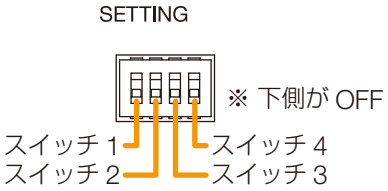
② MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

③ SD カードスロット［SD］

SD カードを挿入します。
設定データの転送をするとき、および動作履歴・故障履歴を CX-SM1000 本体から読み込むときに使用します。
（☞ 第 9 章「データの登録と書き出し」）

④ 設定スイッチ［SETTING］



（工場出荷時：すべて OFF）

ご注意

カバーを取り外すとき、強く引っ張らないでください。カバーが本体から抜け落ちたり、破損する恐れがあります。

- **スイッチ 1**
  本機に SD カードを挿入し、このスイッチを操作することで、ログと設定データの保存ができます。（☞ 第 9 章「データの登録と書き出し」）
- **スイッチ 2**
  本機に SD カードを挿入し、このスイッチを操作することで、設定データを本機にアップロードできます。
  （☞ 第 9 章「データの登録と書き出し」）
- **スイッチ 3**
  CX-1000 システム内での故障発生時および発生中のブザー音について設定します。
  OFF：ブザー音が鳴ります。（工場出荷時）
  ON　：ブザー音は鳴りません。

  ご注意

  スイッチ 3 の設定にかかわらず、機器検出ソフトウェアで「見つける」ボタンを押した場合は、ブザーが鳴ります。
- **スイッチ 4**
  使用しません。

⑤ 故障受理キー［FAULT ACK］

システムの異常を検出した場合、ブザー音が鳴ります。このキーを押すことで、ブザー音が停止します。
ブザー音が発生しないようにするためには、設定スイッチ④のスイッチ 3 で設定します。

⑥ 故障リセットキー［FAULT RESET］

このキーを押すと、システムの故障検知情報がリセットされます。

⑦ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）

ネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑧ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑨ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

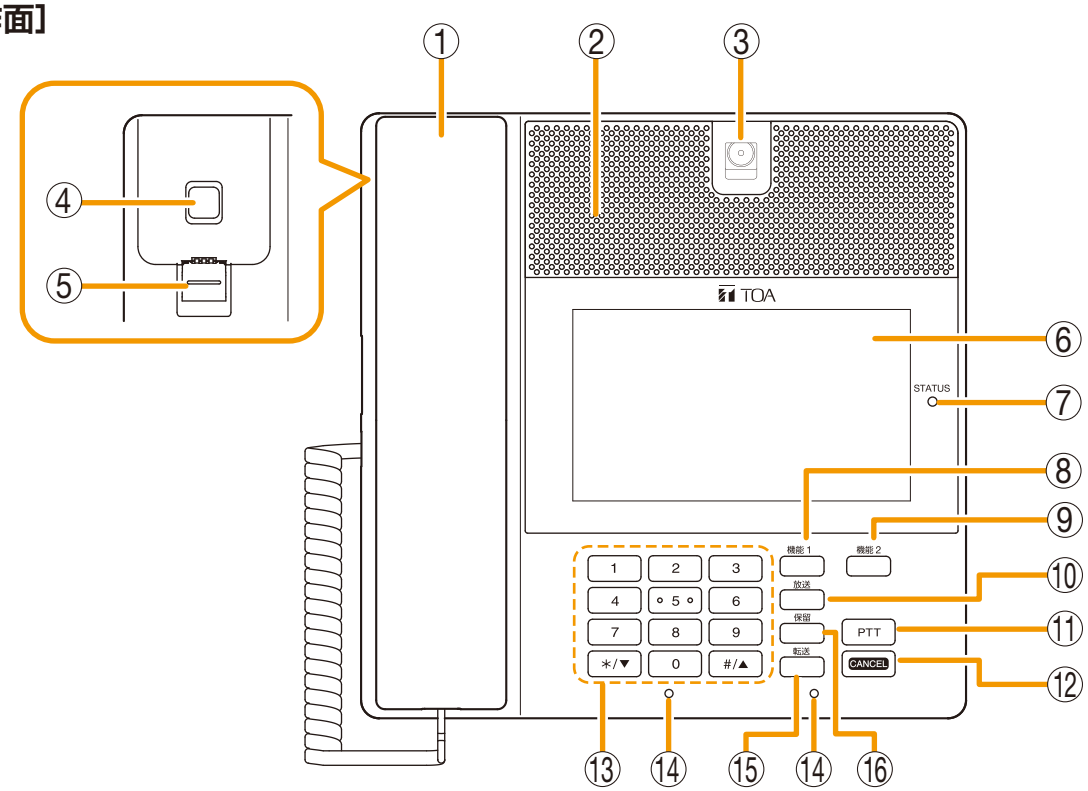
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」）

⑩ リセットキー
このキーを押すと、本機は再起動します。

ご注意
- システム稼働中に本機を再起動すると、その間はシステムが停止します。
- CX-SM1000 の STATUS LED が点滅している間は、電源を切らないでください。

■ ビデオ多機能端末 CX-OP1700

[操作面]



① ハンドセット
ハンドセット通話やマイク放送時に使用します。

② スピーカー
放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

③ カメラ
設定に応じて、通話時、相手に映像を映します。

④ フックスイッチ
ハンドセットのオンフック、オフフックの状態を検知します。

⑤ ハンドセットフック
ハンドセットを引っ掛けます。外して向きを変えることができます。爪のある方を上向きにすると、端末に傾きがあるときにハンドセットが落下しにくくなります。（☞ 別冊の設置説明書「ハンドセットフックの向きの変えかた」）

⑥ 液晶画面
タッチ操作に対応した液晶画面です。
文字、画像（静止画、動画）、および機器の状態を表示し、タッチ入力で各種イベントを操作します。

⑦ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「状態表示灯の状態」）

⑧ 機能 1 キー
転送先の設定や、ドアリモートの操作時に使用します。

⑨ 機能 2 キー
使用しません。

⑩ 放送キー
放送をするときに使用します。

⑪ PTT キー
ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。
着信中に押すことで、通話を開始します。
（☞ 第 3 章「通話機能と操作のしかた」）

⑫ キャンセルキー
操作の取り消しや終話などに使用します。

⑬ ダイヤルキー
通話相手の呼び出しや機能の設定などに使用します。

⑭ マイク
ハンズフリー通話やマイク放送時に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

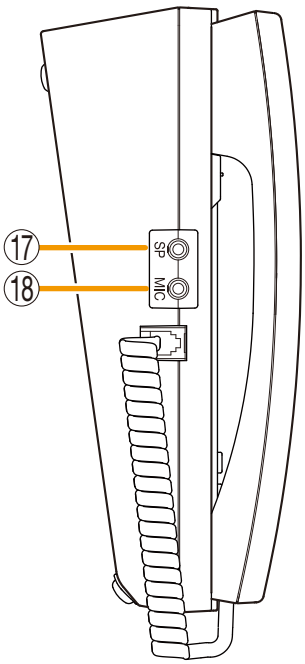
⑮ 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）

⑯ 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ P. 3-16「保留（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）

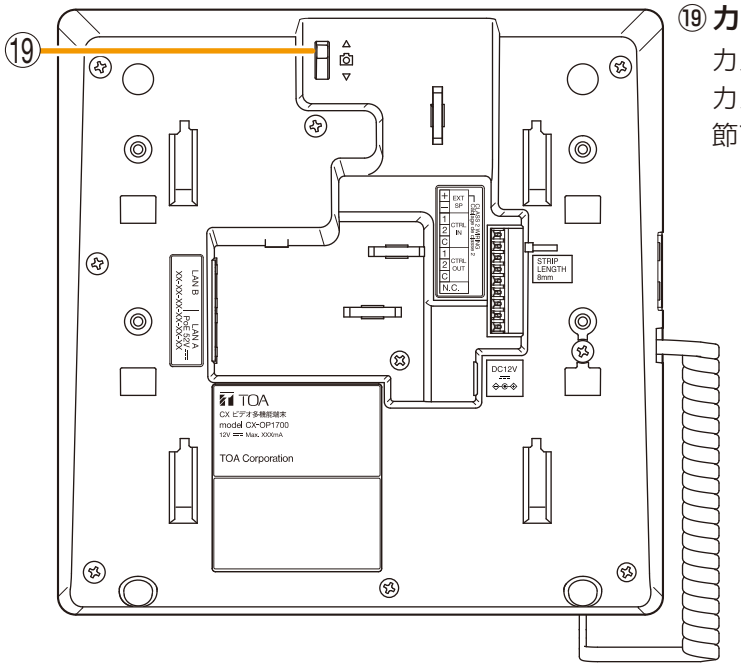
⑰ ヘッドセット用スピーカー接続端子［SP］
3.5 mm のヘッドセットスピーカー端子を接続できます。

⑱ ヘッドセット用マイク接続端子［MIC］
3.5 mm のヘッドセットマイク端子を接続できます。

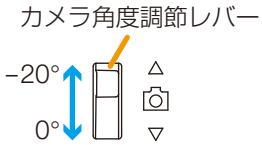
［左側面］



［底面］

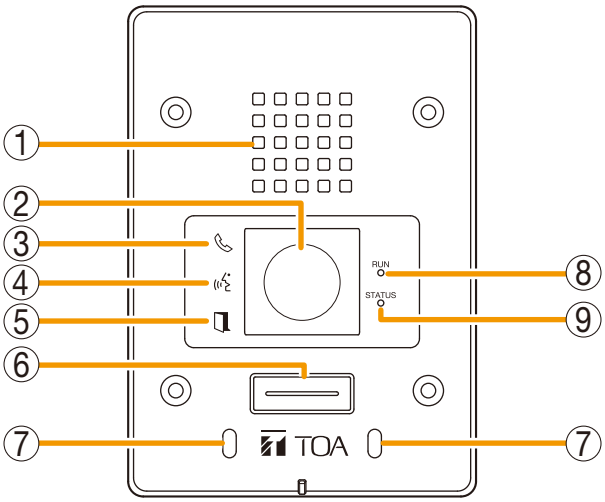


⑲ カメラ角度調節レバー
カメラの角度を調節できます。
カメラの角度は上下方向に −20 ～ 0° の範囲で調節できます。



■ ビデオドア端末 CX-CL1750

[前面]



① スピーカー

放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、通話に使用します。

② カメラ

設定に応じて、通話時、相手に映像を映します。

③ 呼出表示灯（黄）

呼び出しているときに点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）
あらかじめ端末番号を設定し、ダイレクトキーに呼び出し先を登録しておいてください。

④ 通話表示灯（緑）

通話しているときに点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）

⑤ 解錠表示灯（緑）

電子錠システムからドア開放状態検知を受信した時に点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）

⑥ ダイレクトキー／カメラ照明

このキーを押すと、キーに割り当てられている機能が実行されます。
設定により、必要なときに話者を照らすことができます。
キーへの機能の割り当ておよびカメラ照明の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」「照明の設定」）

⑦ マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑧ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑨ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

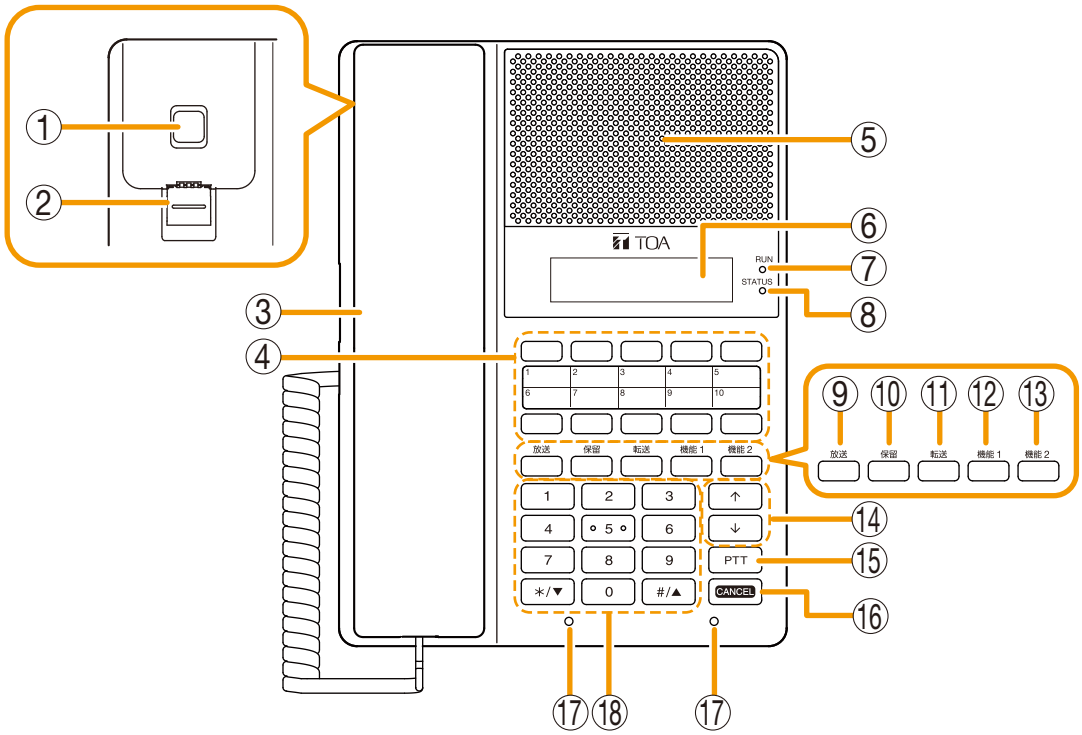
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「状態表示灯の状態」）

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
	前面	通話の呼び出し状態を示します。
	前面	通話中の状態を示します。
	前面	ドアの解錠状態を示します。

■ 標準端末 CX-OP1500

[操作面]



① フックスイッチ
ハンドセットのオンフック、オフフックの状態を検知します。

② ハンドセットフック
ハンドセットを引っ掛けます。外して向きを変えることができます。爪のある方を上向きにすると、端末に傾きがあるときにハンドセットが落下しにくくなります。（☞ 別冊の設置説明書「ハンドセットフックの向きの変えかた」）

③ ハンドセット
ハンドセット通話やマイク放送時に使用します。

④ ダイレクトキー
各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑤ スピーカー
放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

⑥ 液晶画面
16 桁 × 2 行の表示で、操作ダイヤルや通話相手の番号などを表示します。

⑦ 作動表示灯［RUN］（緑）
本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑧ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「状態表示灯の状態」）

⑨ 放送キー
放送をするときに使用します。

⑩ 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ P. 3-16「保留（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）

⑪ 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）

⑫ 機能 1 キー
転送先の設定や、ドアリモートの操作時に使用します。

⑬ 機能 2 キー

液晶画面⑥にメニューを表示するときに使用します。

⑭ 矢印キー

システム設定（☞ P. 2-29「CX-OP1500 のメニュー画面」）をするときに使用します。

⑮ PTT キー

ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。
着信中に押すことで、通話を開始します。
（☞ 第 3 章「通話機能と操作のしかた」）

⑯ キャンセルキー

操作の取り消しや終話などに使用します。

⑰ マイク

ハンズフリー通話やマイク放送時に使用します。

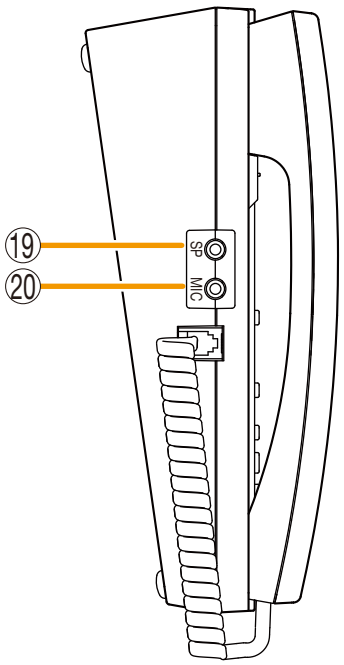
ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑱ ダイヤルキー

通話相手の呼び出しや機能の設定などに使用します。

［左側面］



⑲ ヘッドセット用スピーカー接続端子［SP］

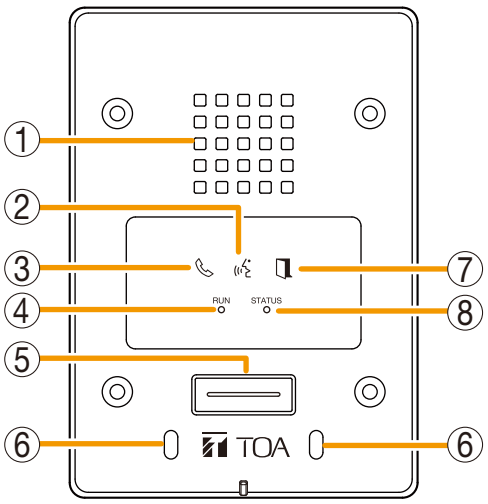
3.5 mm のヘッドセットスピーカー端子を接続できます。

⑳ ヘッドセット用マイク接続端子［MIC］

3.5 mm のヘッドセットマイク端子を接続できます。

■ ドア端末 CX-CL1550

[前面]



① スピーカー

放送・通話用のスピーカーです。受信した放送の拡声、信号音の再生、ハンズフリー通話に使用します。

② 通話表示灯（緑）

通話しているときに点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）

③ 呼出表示灯（黄）

呼び出しているときに点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）
あらかじめ端末番号を設定し、ダイレクトキーに呼び出し先を登録しておいてください。

④ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑤ ダイレクトキー

このキーを押すと、キーに割り当てられている機能が実行されます。キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）
このキーは、設定により照光させることができます。設定は CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「照明の設定」）

⑥ マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

マイクをふさがないでください。通話品質に支障を来す可能性があります。

⑦ 解錠表示灯（緑）

ドアが解錠されたときに点灯します。
（☞ P. 2-22「アイコン一覧」）

⑧ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

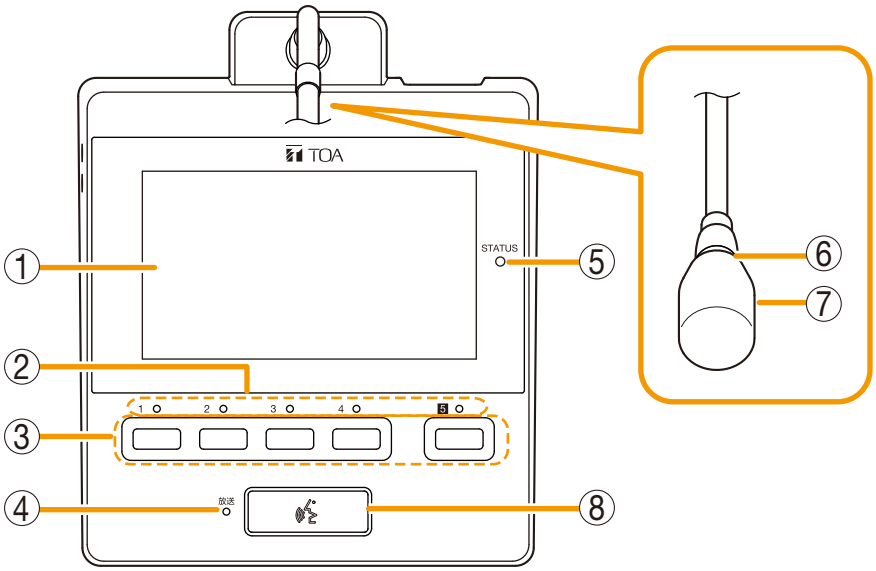
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「状態表示灯の状態」）

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
	前面	通話の呼び出し状態を示します。
	前面	通話中の状態を示します。
	前面	ドアの解錠状態を示します。

■ タッチパネルリモコン CX-RM1700

[操作面]



① 液晶画面

タッチ操作に対応した液晶画面です。
文字、画像（静止画、動画）、および機器の状態を表示し、タッチ入力で各種イベントを操作します。

② 選択表示灯［1 ～ 5］（緑）

ダイレクトキーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
（☞ P. 2-2「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

③ ダイレクトキー［1 ～ 5］

各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

ご注意

これらのダイレクトキー 1 ～ 5 は、CX-1000 設定ソフトウェア上でのキー種別「ダイレクトキー 101 ～ 105」に対応します。

④ 放送表示灯［放送］（緑）

放送キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
（☞ P. 2-3「放送キーの表示灯（CX-RM1700 のみ）」）

⑤ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」）

⑥ マイク表示灯（緑）

設定により、放送表示灯④と連動させることができます。
設定は本機の液晶画面で行います。（☞ P. 2-28「音量制御設定画面（CX-RM1700 のみ）」）

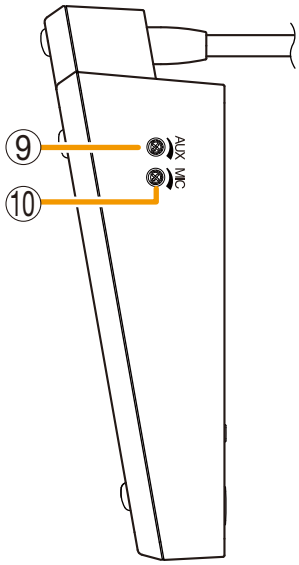
⑦ マイク

マイク放送時に使用します。
マイクの音量は、マイク音量調節器⑩で調節できます。

⑧ 放送キー

マイク放送時に使用します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間のみ放送することができます。
ロック式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
放送キーの動作の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

[左側面]



⑨ AUX 音量調節器［AUX］

AUX 入力の音量を調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。液晶画面①のメニュー画面で入力レベルを設定できます。
（☞ P. 2-26「CX-OP1700/RM1700 のメニュー画面」）

⑩ マイク音量調節器［MIC］

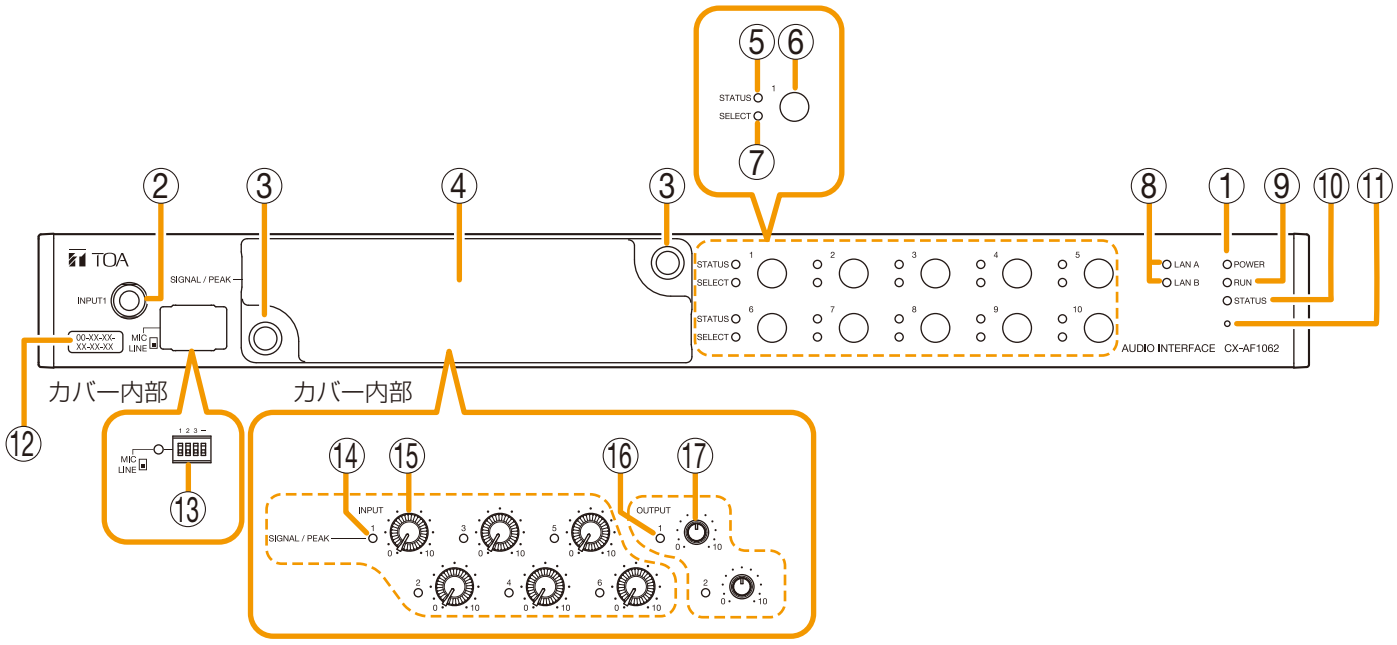
マイク⑦の音量を調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

[機器の表示についての説明]

機器の表示	表示位置	説明
	操作面	マイクによる放送を行うことを意味します。
	左側面	音量調節器：ドライバーで時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

■ 音声インターフェース 6 入力 2 出力 CX-AF1062

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）

電源を入れると点灯します。

② 音声入力端子 1［INPUT 1］

マイクのホーンプラグを差し込みます。
この音声入力 1 は、後面部の同じ音声入力 1 に対して優先の機能を持っています。この端子にホーンプラグを差し込むことにより、後面の音声入力 1 に接続された音声は無効となります。

③ 音量調節部カバーつまみ

両方のつまみを引くと、音量調節部カバー④が取り外せます。

④ 音量調節部カバー

このカバー内部に各入出力の音量調節器があります。

⑤ 状態表示灯［STATUS 1 ～ 10］（緑、赤、黄）

ダイレクトキー⑥に割り当てられた機能の状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
（☞ P. 2-2「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

⑥ ダイレクトキー［1 ～ 10］

各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑦ 選択表示灯［SELECT 1 ～ 10］（緑）

ダイレクトキー⑥の操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ P. 2-2「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

⑧ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）

本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑨ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑩ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」）

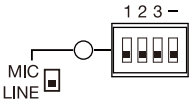
⑪ リセットキー

このキーを押すと、本機は再起動します。

⑫ MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑬ 入力レベル設定スイッチ



音声入力 1 ～ 3 の入力レベルをラインレベル（0 dB *）かマイクレベル（–60 dB *）に切り換えることができます。
スイッチ 4 は使用しません。
（工場出荷時：すべて下側）

ご注意

カバーを取り外すとき、強く引っ張らないでください。
カバーが本体から抜け落ちたり、破損する恐れがあります。

⑭ 音声入力信号表示灯［INPUT 1 ～ 6、SIGNAL/PEAK］（緑、赤）

音声入力用音量調節器⑮に設定されている入力の状態を表示します。
入力チャンネルに音声が入力されると緑色に点灯し、音声入力が過入力になると赤色に点灯します。

⑮ 音声入力用音量調節器［INPUT 1 ～ 6］

各音声入力の音量調節器です。左から音声入力 1 ～音声入力 6 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑯ 音声出力信号表示灯［OUTPUT 1/2］（緑、赤）

音声出力用音量調節器⑰に設定されている出力の状態を表示します。
出力チャンネルから音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

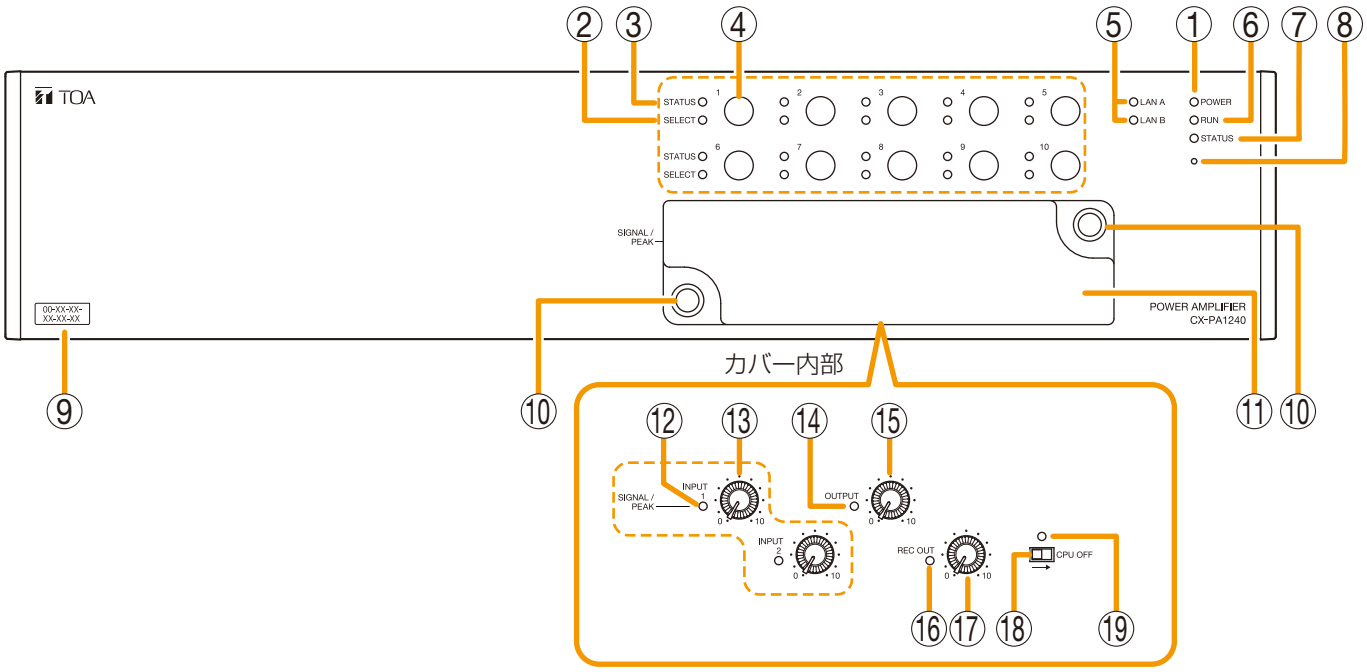
⑰ 音声出力用音量調節器［OUTPUT 1/2］

各音声出力の音量調節器です。左から音声出力 1、音声出力 2 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

* 0 dB = 1 V

■ アンプ 120/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240

[前面]



※ 図は CX-PA1240 です。

① 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

② 選択表示灯［SELECT］（緑）
ダイレクトキー④の操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ P. 2-2「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

③ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
ダイレクトキー④に割り当てられた機能の状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
（☞ P. 2-2「ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態」）

④ ダイレクトキー［1 ～ 10］
各キーを押すと、そのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

⑤ LAN A/B 表示灯［LAN A/B］（緑）
本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑥ 作動表示灯［RUN］（緑）
本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑦ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）
本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」）

⑧ リセットキー
このキーを押すと、本機は再起動します。

⑨ MAC アドレス
本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

⑩ 音量調節部カバーつまみ
両方のつまみを引くと、音量調節部カバー⑪が取り外せます。

⑪ 音量調節部カバー
このカバー内部に各入出力の音量調節器があります。

⑫ 音声入力信号表示灯［INPUT 1/2、SIGNAL/PEAK］（緑、赤）

音声入力用音量調節器⑬に設定されている入力の状態を表示します。
入力チャンネルに音声が入力されると緑色に点灯し、音声入力が過入力になると赤色に点灯します。

⑬ 音声入力用音量調節器［INPUT 1/2］

各音声入力の音量調節器です。左から音声入力 1、音声入力 2 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑭ スピーカー出力信号表示灯［OUTPUT］（緑、赤）

スピーカー出力用音量調節器⑮に設定されているスピーカー出力の状態を表示します。
スピーカー出力から音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

⑮ スピーカー出力用音量調節器［OUTPUT］

スピーカー音声出力の音量調節器です。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑯ 録音出力信号表示灯［REC OUT］（緑、赤）

録音出力用音量調節器⑰に設定されている録音出力の状態を表示します。
録音出力から音声が出力されると緑色に点灯し、音声出力が定格レベルを超えると赤色に点灯します。

⑰ 録音出力用音量調節器［REC OUT］

録音出力用の音量調節器です。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

⑱ CPU OFF 切換スイッチ［CPU OFF］

通常は下図のとおり、工場出荷時の設定で使用します。

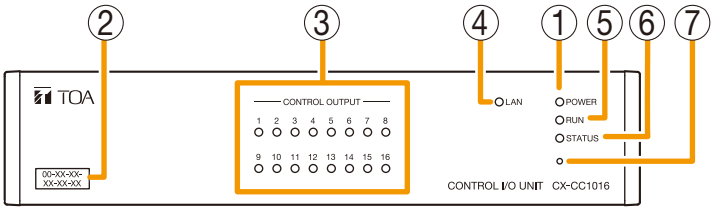
このスイッチを矢印方向にスライドさせて CPU OFF 側に設定すると、CPU 制御を介さないアナログ制御で、音声入力 1 に接続された音源を使った一斉放送を行うことができます。
（☞ P. 7-2「CPU OFF 切換スイッチを使用した一斉放送」）

⑲ CPU OFF 表示灯（赤）

CPU OFF 切換スイッチ⑱を CPU OFF 側に設定しているときに、点灯します。

■ 制御入出力ユニット CX-CC1016

[前面]



① 電源表示灯［POWER］（緑）

電源を入れると点灯します。

② MAC アドレス

本機の MAC アドレスです。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

③ 制御出力表示灯［CONTROL OUTPUT 1 ～ 16］（緑）

制御出力がオンのときに点灯します。

④ LAN 表示灯［LAN］（緑）

本機をネットワークに接続すると点灯し、データを送受信中は点滅します。

⑤ 作動表示灯［RUN］（緑）

本機が正常に動作しているか、示します。
（☞ P. 2-20「作動表示灯の状態」）

⑥ 状態表示灯［STATUS］（緑、赤、黄）

本機のイベント状態を表示します。
（☞ P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」）

⑦ リセットキー

このキーを押すと、本機は再起動します。

システムの機能一覧表

機能名		概要説明
呼び出し	個別呼び出し	通話したい相手の端末番号をダイヤルして、呼び出すことができます。
	電話帳	電話帳に登録した連絡先から、通話したい相手を選択し、呼び出すことができます。
	リモートダイヤル	制御入力を使用して、遠隔からダイヤル入力をすることができます。
	グループ呼び出し	グループ呼び出し番号をダイヤルして、一度に複数の端末を呼び出すことができます。
着信選択	自動応答	着信後、自動で通話状態になります。
	手動応答	着信時に応答操作をすることにより、通話状態にすることができます。
通話	音声通話	内蔵カメラのない端末（CX-OP1500、CX-CL1550）との通話は音声のみの通話になります。
	ビデオ通話	CX-OP1700 と内蔵カメラのある端末（CX-OP1700、CX-CL1750）との通話は、設定により音声通話かビデオ通話かを選択できます。ビデオ通話では、CX-OP1700 の液晶画面に通話相手の内蔵カメラの映像を映すことができます。
	ハンズフリー通話	ハンドセットを本体に置いたままで通話することができます。ハンドセットのない機種ではハンズフリー通話となります。
	ハンドセット通話	ハンドセットを持ち上げることにより、ハンドセット通話をすることができます。
	ヘッドセット通話	ヘッドセットを接続することにより、ヘッドセット通話をすることができます。ヘッドセット通話中にハンドセットを持ち上げるとハンドセット通話に切り換わります。
	交互通話	通話中に PTT キーを押すと、押している間は押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。
	音量設定	通話中の操作によって受話音量の調節ができます。
	照明制御	ビデオ通話開始時に CX-CL1750 の照明を点灯することができます。
	IP カメラ映像表示	通話相手端末の内蔵カメラの映像に加えて、汎用的な IP カメラプロトコル対応のネットワークカメラ映像を表示することができます。
保留	通話保留	通話中に保留キーを押すと両者に保留音が鳴って保留状態になります。もう一度押すと保留は解除され、元の通話に戻ります。
手動転送		転送キーを操作して、2 者通話状態から、第 3 者を呼び出して通話し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第 3 者の通話状態にすることができます。
自動転送	不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。転送先を設定すれば、すぐに不在転送状態になります。
	時刻連動不在転送	指定した時刻の間に着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。転送先を設定しても、指定時刻になるまでは不在転送状態になりません。
	話中転送	通話中に着信があったとき、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。
	不応答転送	着信があったとき、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。
	未接続転送	着信端末のネットワークに異常がありシステムマネージャーと通信ができない状態であるとき、自動的に転送されます。
その他	ドアリモート	通話中にダイヤル操作により制御出力をオン／オフすることができます。
	鍵解錠	通話中にダイヤル操作により鍵の解錠／施錠をすることができます。
	スピーカー出力切り換え	設定によって、内部スピーカー（ハンズフリースピーカー）または外部スピーカー（外部スピーカー出力端子に接続されたスピーカー）から音声、放送受信音、各種信号音を出力することができます。

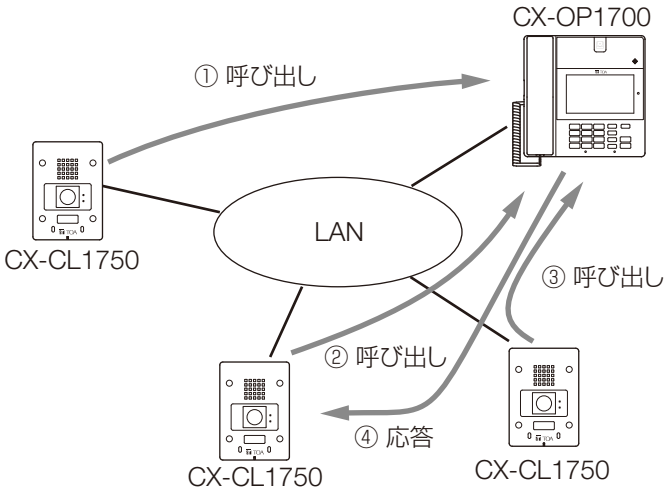
機能名		概要説明
放送	業務放送	選択した放送先や、あらかじめ設定された放送先に音源や音声を放送することができます。
	ボイススタック放送	端末に一時的に保存した音声を放送することができます。高優先度の放送が行われていても、その放送が終わってから自動で放送することができます。
	映像確認放送	汎用的な IP カメラプロトコル対応のカメラ映像を見ながら放送することができます。
緊急モード	緊急放送	緊急モード時に設定された出力先へ、音声による放送をすることができます。
	緊急メッセージ放送	緊急モード時に設定された出力先へ、あらかじめ録音された緊急メッセージを放送することができます。
	緊急復旧放送	緊急モードの終了時に設定された出力先へ、あらかじめ録音された緊急復旧メッセージを放送することができます。
外部電話システム	発信	VoIP アダプター、IP-PBX を使うと、他の電話システムを呼び出すことができます。
	転送	2 者通話状態から他の電話システムを呼び出して通話し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と他の電話システムの通話状態にすることができます。
	ダイレクトインライン	他の電話システムから着信して、あらかじめ設定された端末を呼び出しすることができます。グループ呼び出し番号を設定し、複数の端末を呼び出すこともできます。
	ダイレクトインダイヤル	他の電話システムから着信して、任意の端末番号をダイヤルすることができます。
SIP 電話	個別呼び出し	SIP 電話機から通話したい相手の端末番号をダイヤルして、呼び出すことができます。
	グループ呼び出し	SIP 電話機からグループ呼び出し番号をダイヤルして、一度に複数の端末を呼び出すことができます。
	応答	SIP 電話機で着信時に応答操作をすることにより、通話状態にすることができます。
	接点ブリッジ	SIP 電話機からのダイヤル操作で制御出力をオン／オフすることができます。
	ドアリモート	通話中に SIP 電話機からのダイヤル操作により制御出力をオン／オフすることができます。
IP-A1 への放送		IP-A1 シリーズへネットワークを通じて放送することができます。
優先呼び出し	救援通話	通常モード時の一番優先順位の高い呼び出し方法です。通話端末ごとに優先順位設定ができます。
時間制限	呼び出し時間制限	相手を呼び出しているときの最大時間を設定できます。最大時間を越えて相手が応答しなければ自動で待ち受け状態に戻ります。
	通話時間制限	通話の最大時間を設定できます。最大時間に達したとき自動で通話が終了します。
	放送時間制限	放送の最大時間を設定できます。最大時間に達したとき自動で放送が終了します。
制御出力	発信局表示	あらかじめ設定された特定の端末を呼び出しているときに、呼び出し先の端末の着信や通話などの状態に連動して、制御出力をオンにすることができます。
	発信・通話連動制御出力	操作する端末の呼び出しや通話の状態に連動して、制御出力をオンにすることができます。
	放送連動制御出力	放送の開始に連動して、制御出力をオンにすることができます。
	接点ブリッジ	端末またはユニットの操作により制御出力をオン／オフすることで、外部機器を制御できます。
	ATT 制御出力	緊急モードの放送出力に連動して、CX-PA1120、CX-PA1240 の ATT 制御ができます。
照明	キー照明	CX-CL1750 のダイレクトキー／カメラ照明および CX-CL1550 のダイレクトキー照明を点灯させることができます。
音声通知	通話通知音	通話中に短い信号音をスピーカーから出力します。通話していることを通知することにより、通話状態であることを検知できます。

機能名		概要説明
チャイム	放送開始チャイム	放送開始時にチャイムを流すことができます。
	放送終了チャイム	放送終了時にチャイムを流すことができます。
プログラムタイマー	タイマーイベント起動	放送の開始・終了、音量の変更、制御出力、時刻連動不在転送などを指定した時刻に起動することができます。
	タイマー運用パターン変更	タイマー運用パターンを変更することができます。
広域放送		一度に最大 2999 台の端末・ユニットへ放送することができます。
時刻調整	NTP	NTP サーバーを使用して、CX-1000 システムの機器の時刻を同期することができます。
	時刻補正	CX-SM1000 の時刻を 0 秒補正します。
ネットワーク	RSTP	ネットワークを 2 重化しても STP でループが起きないようにできます。2 重化することで、1 つの経路に障害が発生しても正常な方で通信することにより、耐障害性の高いサービスが提供できます。
故障検知	定期点検	1 日に 1 回、自動的に故障検知を実行します。音声ライン、ダイレクトキーなどに異常があればブザーや表示で通知します。端末やブラウザーでの操作により、臨時に手動で実行することもできます。
	常時点検	システム運用中は常時、故障検知を実行します。機器接続、温度などに異常があればブザーや表示で通知します。
	外部故障	故障発生時に制御出力で通知する外部機器を制御入力に接続しておくと、外部機器に故障が発生したことを通知します。

代表機能

■ 選択応答

CX-1000 システムは、着信先の端末が発信元端末を選択することによって、着信した順番に関係なく発信元端末に応答することができます。
また、発信元端末の優先度によって、発信元端末の情報を優先度の高い順に表示されるよう設定できるため、あらかじめ決められた場所からの重要な呼び出しにすばやく気づくことができます。
液晶画面、キー操作で選択する手段がない端末での応答、または自動応答では、そのとき一番優先度の高い発信元端末との通話になります。



- 呼び出しが複数入っている状態を確認。
- 発信元端末を選択して通話を開始する。

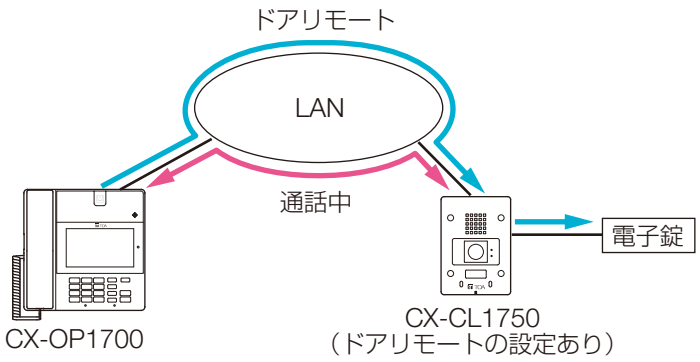
■ ドアリモート

2 者通話中にドアリモート操作で自機から通話相手の端末に連動させる制御出力をオンにすることにより、電子制御された鍵を解錠します。また、電子錠から解錠状態の信号を受信することにより、解錠音の鳴動、解錠表示灯の制御もできるようになります。
制御出力のパルス時間を設定すると、鍵を解錠する時間を指定することができます。その時間を過ぎると、電子錠へ施錠信号（ドアリモートでオンにした制御出力をオフ）を送信し施錠します。施錠と同時に通話も終了します。
鍵解錠状態で 2 者通話を終了した場合も、電子錠へ施錠信号を送信し施錠します。
使用イメージは P. 1-23 を参照してください。

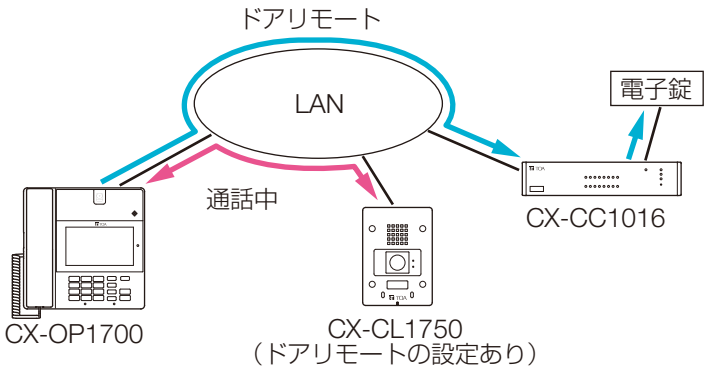
ご注意

- 電子錠が別途必要となります。
- 電子錠との接続はすべて制御入力／制御出力となります。
- ドアリモートは通話中にキー操作で電子錠などの制御出力グループを操作できる機能を指します。ドアリモートで電子錠の制御出力を操作しても、開錠状態信号がない場合は、鍵開錠に関するイベント（解除音、開錠表示灯、開錠時間）は有効になりません。

● ドア端末が鍵モジュールを制御して使用する例



● システム内のユニットが鍵モジュールを制御して使用する例



■ 業務放送

端末、タッチパネルリモコン、外部音源を接続したユニットから放送することができます。また、放送の出力先として端末およびユニットを選択することができます。目的や用途に応じて使い分けてください。

● マイク放送

端末やタッチパネルリモコンなどの操作で、選択した放送先に所属する端末やユニットに放送することができます。放送音源は、操作した端末またはタッチパネルリモコンのマイク音声となります。

● 業務放送

端末、タッチパネルリモコン、またはユニットなどの操作で、選択した放送先に所属する端末やユニットに外部音源（CD など）、機器内蔵の音源、タッチパネルリモコンの AUX 入力に接続した外部マイクからの音声、またはユニットの音声入力に接続した外部マイクからの音声をアナウンスまたは BGM として放送することができます。

● 業務パターン放送

端末、タッチパネルリモコン、またはユニットなどの操作で、あらかじめ設定した入力音源から個別の放送先または放送先パターンに対して放送することができます。入力音源はタッチパネルリモコンの AUX 入力、ユニットの音声入力、機器内蔵の音源、チャイムが選択できます。
また、放送と合わせて制御出力の制御もできます。

● ベースパターン放送

BGM 放送機器の音声信号のみが CX-1000 システムに入力されて行われる放送で、通常は小音量で流されます。ベースパターン放送は、BGM 音源、放送先の組み合わせから成るベースパターンを設定し、このパターンを端末またはユニットの制御入力またはダイレクトキーなどで起動させます。

■ ボイススタック放送（CX-OP1700/RM1700 のみ）

事前に録音した音声を放送することができます。
放送先が高優先放送中により放送ができない状況であっても、放送先を設定した上で、放送内容をあらかじめ録音しておくと、高優先放送終了後に自動で放送を行うことができます。
また、放送の前に音声の録音、録音データの確認を何度でも行えるため、伝えたい内容をミスなく確実に伝えることができます。

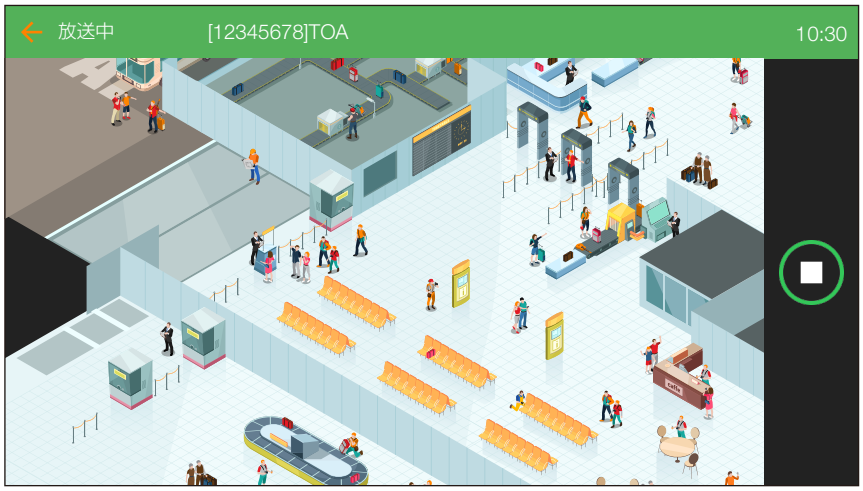
ご注意

- 録音できるデータは 1 台につき 1 つのみ、録音時間は 1 分です。再度録音をすると、録音済みデータに上書きされます。
- ボイススタック放送中に高優先度放送や着信があった場合はボイススタック放送は中断されます。高優先放送等が終わってもボイススタック放送は復帰しません。

■ 映像確認放送（CX-OP1700/RM1700 のみ）

放送先に設置してあるカメラ映像を確認し、カメラ映像を見ながら放送することができます。

（カメラ映像を見ながら放送するときの液晶画面例）

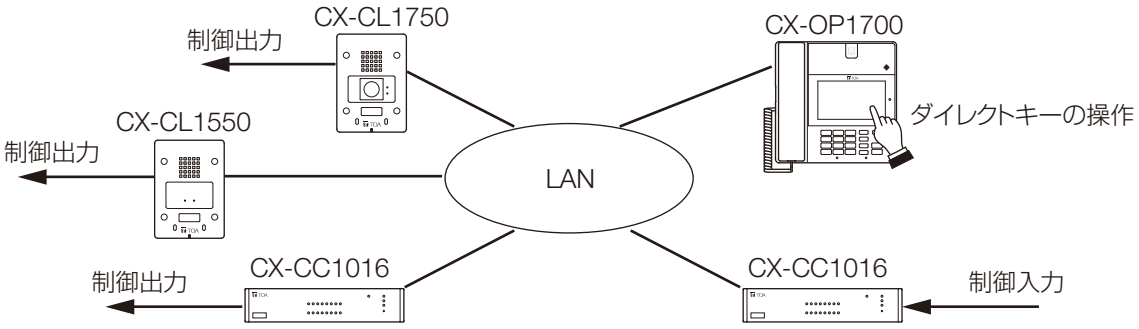


■ 接点ブリッジ

端末またはユニットの操作により、制御出力をオン／オフすることで、外部機器を制御できます。
制御入力信号だけでなく、端末のダイレクトキーからも操作ができます。

ご注意

端末のダイレクトキーから操作する場合は、パルス制御のみ行えます。



■ 緊急モード

不審者の侵入などにより緊急で避難を指示しないといけないとき、他の機能よりも優先的に放送をすることができます。
拠点単位でその拠点に含まれる CX-1000 シリーズの機器が緊急モード状態になると、通常時と表示や信号音が異なるため、すぐに緊急モード状態であることがわかります。
緊急モード状態にするには、端末またはユニットの操作または制御入力により緊急メッセージ放送パターンを起動します。
緊急モード状態では、BGM や業務放送は行えず、緊急放送が優先されます。

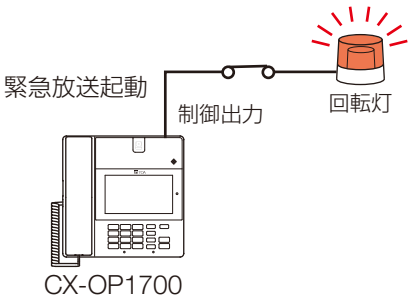
ご注意

緊急放送を終了しても緊急モードは継続します。通常モードに戻したいときは、緊急復旧操作をしてください。

■ 緊急放送

● 緊急マイク放送

緊急モード時に、用途が「業務･緊急」に設定された端末から放送すると、CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター／制御出力がオンになり、接続されたアッテネーターをバイパスできます。
放送時の開始チャイム、終了チャイムに業務放送のものと異なる音源を設定することで、緊急性の高い放送であることを伝えることができます。
また、緊急放送に制御出力を連動させることにより、外部の回転灯などを制御することができます。より大きな表示機器を制御することにより、緊急性を高めることができます。

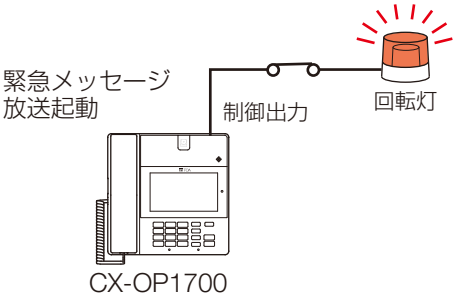


メ モ

CX-PA1120/PA1240、アッテネーター、およびスピーカーの接続については､別冊の設置説明書「CX-PA1120/PA1240 の接続」の「⑤スピーカー出力端子の接続」（2）（3）を参照してください。

● 緊急メッセージパターン放送

通常モード時または緊急モード時に緊急性の高いメッセージ放送パターンを起動することができます。
緊急メッセージ放送パターンを起動することで、起動した機器が所属する拠点および緊急メッセージ放送パターンの放送先が所属する拠点を緊急モードにすることができます。
緊急メッセージ放送パターンに制御出力を連動させることにより、外部の回転灯などを制御することができます。より大きな表示機器を制御することにより、緊急性を高めることができます。



緊急メッセージ放送パターンは最大 3 つのフェーズで構成されます。各フェーズの設定で決められた時間が経過すると、自動で次のフェーズに移行します。それぞれ、異なるメッセージ、放送先、制御出力などが登録できるため､「センサーが異常検知したので確認中です。」→「異常事態発生です。」→「避難してください」など、状況によって放送内容を分けることができます。また、自動だけでなく手動でもフェーズを移行することができます。

ご注意

登録できるフェーズは 3 つまでです。2 つ以下でも使用できます。
緊急事態が収束して緊急モードから通常モードに復旧するとき、復旧放送をすることができます。この放送が終了することにより、緊急モードが完全に終了したことがわかります。

● 緊急メッセージ放送

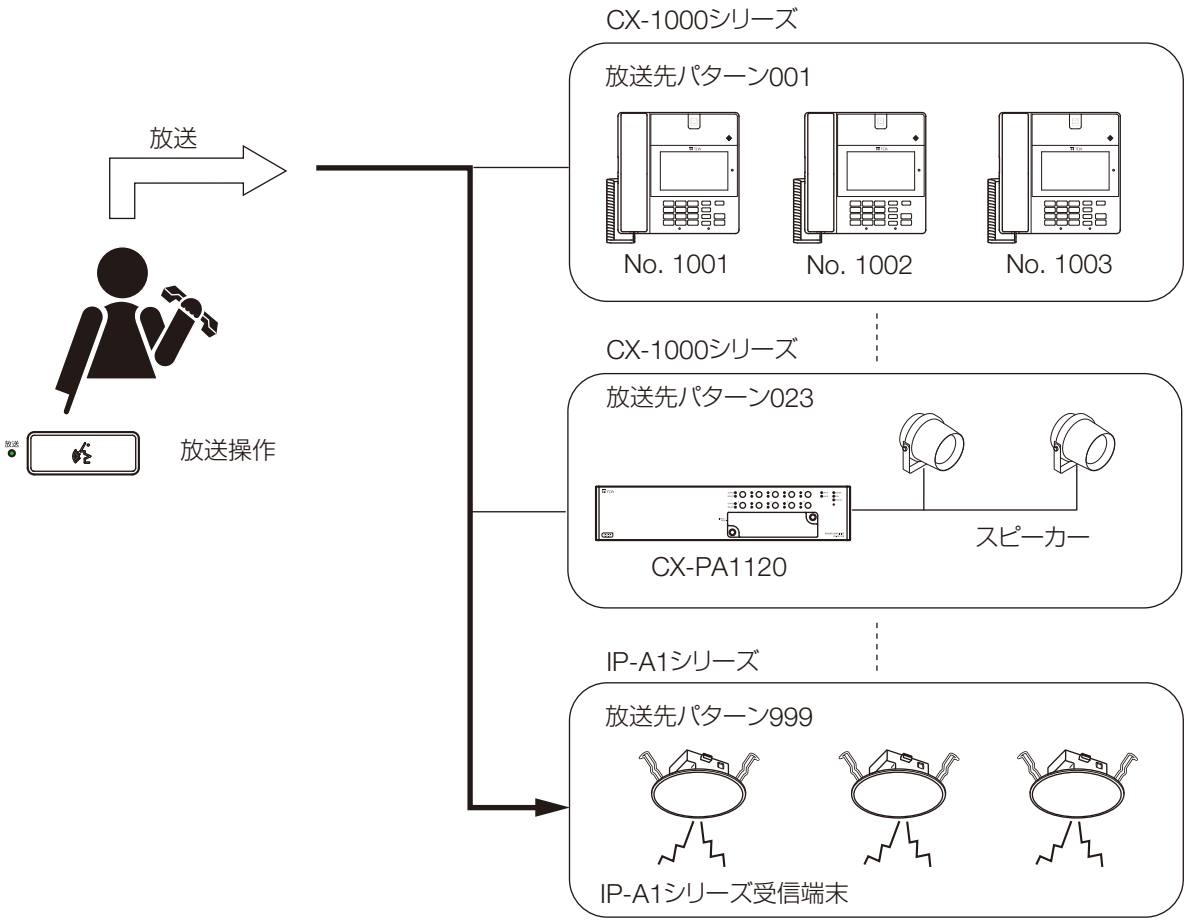
緊急モード時に、用途を「警報」または「避難」に設定したコンテンツを指定した放送先に放送することができます。

■ IP-A1 への放送

放送先に IP-A1 シリーズのマルチキャストアドレスを設定することによって、ネットワーク経由で直接 IP-A1 シリーズへ放送することができます。
放送のしかたは CX-1000 シリーズ機器へ放送する手順と同じです。

ご注意

- IP-A1 シリーズの機器での設定も別途必要です。
- IP-A1 シリーズから CX-1000 シリーズ機器への放送および制御はできません。
- IP-A1 についての詳しい情報は、IP-A1 の設定説明書などでご確認ください。



第２章

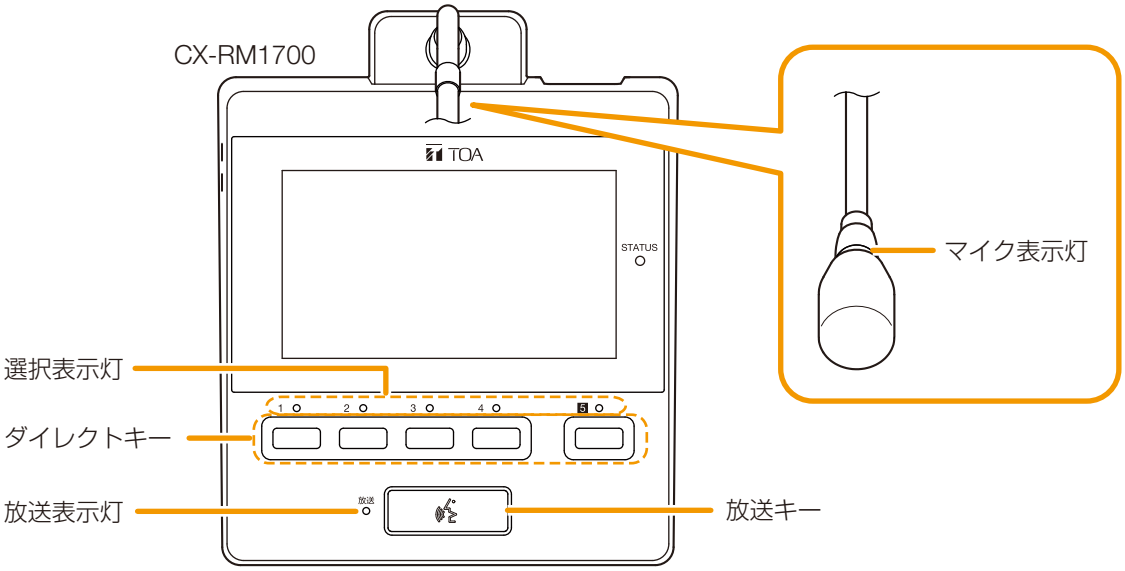
表示灯の状態と液晶画面の表示

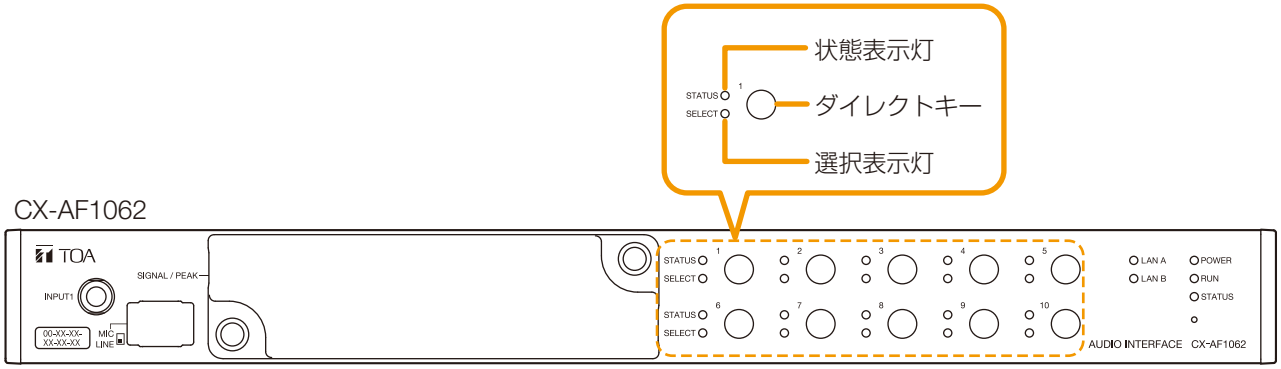
ダイレクトキーと放送キーの表示灯の状態

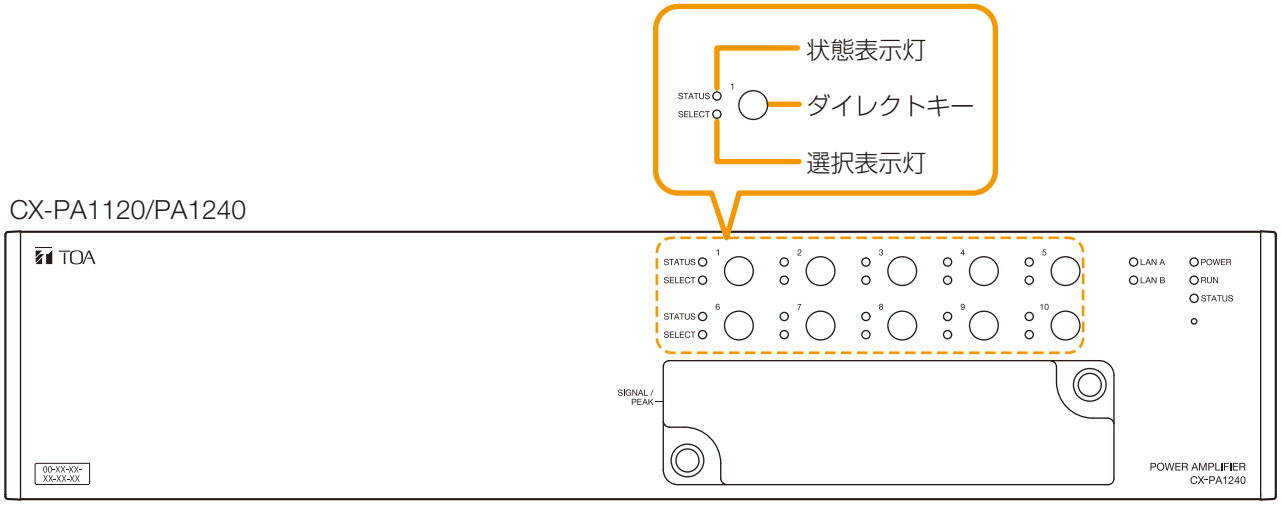
ここでは、CX-RM1700 のダイレクトキー（物理的にあるもの）と放送キー、および CX-AF1062/PA1120/PA1240 のダイレクトキーに連動する表示灯の状態について説明します。

メ モ

ダイレクトキーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）







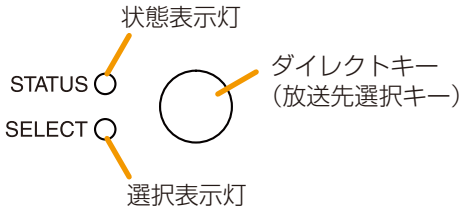
■ 放送先選択時の表示灯

ダイレクトキーに放送先選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、放送先の選択状態と放送状態がわかります。

ご注意

放送先選択のダイレクトキーに割り当てた放送先パターンの放送種別が広域放送の場合、状態表示灯は放送状態に関係なく常に消灯となります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］

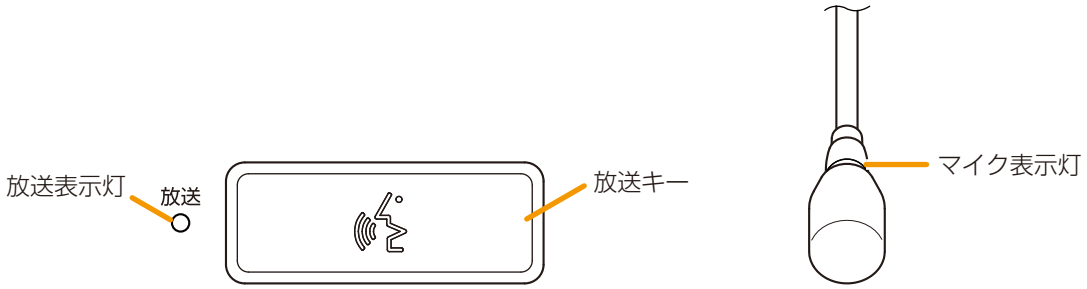


［CX-RM1700 の場合］

表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定されている放送先が未使用または BGM 放送中
	緑色点滅 ☀	このダイレクトキーに設定されている放送先の一部が本機の業務用途に設定された音声入力で放送中
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーに設定されている放送先がすべて本機で放送中
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

■ 放送キーの表示灯（CX-RM1700 のみ）

放送キー左横の表示灯で、放送状態がわかります。
液晶画面での設定により放送表示灯と連動してマイク表示灯が点灯、点滅します。（☞ P. 2-28）

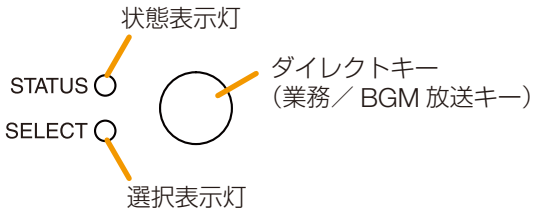


表示灯	表示灯の状態	表示内容
放送表示灯	消灯 ○	マイク未使用
	緑色点灯 ●	マイク放送中
	緑色点滅 ☀	本機からチャイム放送中

■ 業務／ BGM 放送時の表示灯

ダイレクトキーに業務／ BGM 放送の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



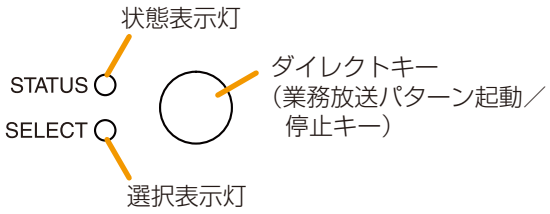
［CX-RM1700 の場合］

表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	常に消灯
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

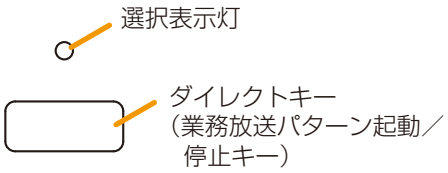
■ 業務放送パターン起動／停止時の表示灯

ダイレクトキーに業務放送パターン起動／停止の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態と放送状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



［CX-RM1700 の場合］

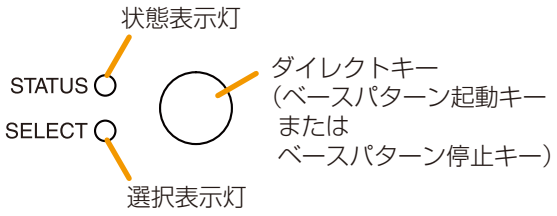


表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定された業務放送パターンが放送されていないとき
	黄色点滅 ☼	このダイレクトキーに設定された業務放送パターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

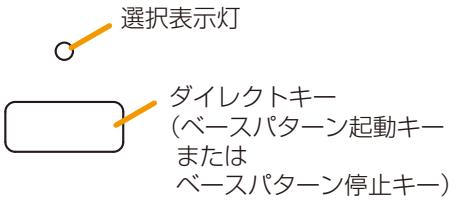
■ ベースパターン起動、ベースパターン停止時の表示灯

ダイレクトキーにベースパターン起動またはベースパターン停止の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態と放送状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



［CX-RM1700 の場合］

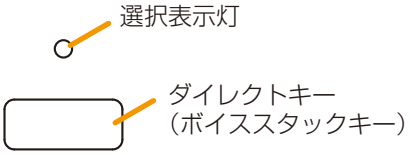


表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定されたベースパターン*が放送されていないとき
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーに設定されたベースパターン*が放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

* ベースパターン停止の場合は、すべてのベースパターン

■ ボイススタック時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

ダイレクトキーにボイススタックの機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。



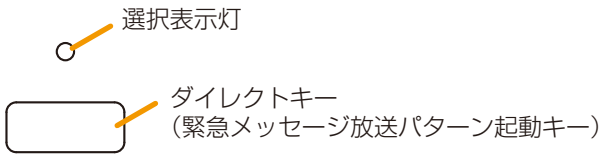
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	ボイススタック機能を使用していないとき
	緑色点灯 ●	ボイススタック機能を使用中（ダイレクトキーを押した後、録音開始からボイススタック放送終了まで）

■ 緊急メッセージ放送パターン起動時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送パターン起動の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



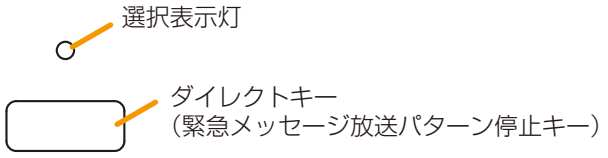
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

■ 緊急メッセージ放送パターン停止時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送パターン停止の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



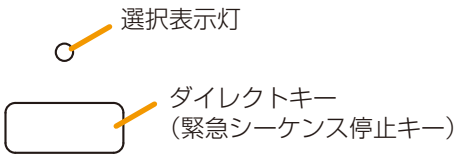
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

■ 緊急シーケンス停止時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急シーケンス停止の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



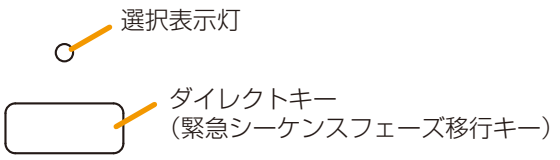
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

■ 緊急シーケンスフェーズ移行時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急シーケンスフェーズ移行の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



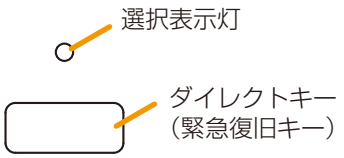
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

■ 緊急復旧時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急復旧の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



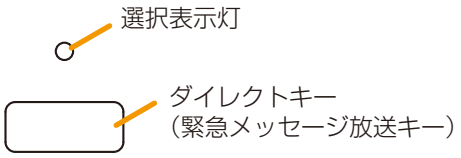
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

■ 緊急メッセージ放送時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-RM1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）



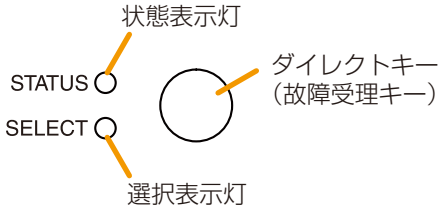
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

■ 故障受理時の表示灯（CX-AF1062/PA1120/PA1240 のみ）

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、ダイレクトキーに故障受理の機能を割り当てると、キーの近くにある表示灯で、選択状態と故障パターンの発生および受理の状態がわかります。

メ モ

故障検知モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）



表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定された故障パターンが発生していないとき
	黄色点滅 ☼	このダイレクトキーに設定された故障パターンが発生したとき
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーを押した後、故障パターンが受理されたとき
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

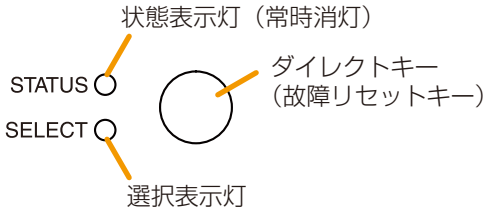
■ 故障リセット時の表示灯

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、ダイレクトキーに故障リセットの機能を割り当てると、このダイレクトキーを押している間、キーの近くにある表示灯で、選択状態がわかります。状態表示灯は常時消灯になります。

メ モ

故障検知モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



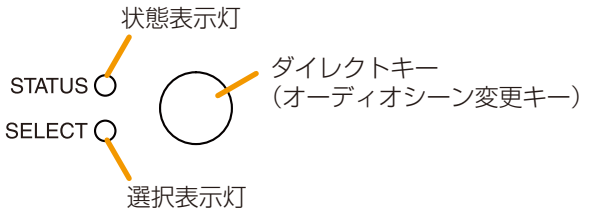
［CX-RM1700 の場合］

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを押していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを押したとき（押している間のみ）

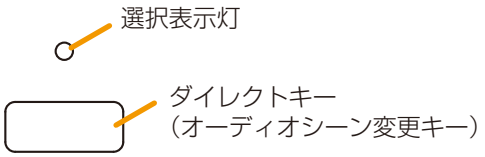
■ オーディオシーン変更時の表示灯

ダイレクトキーにオーディオシーン変更の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態とオーディオシーンの状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



［CX-RM1700 の場合］

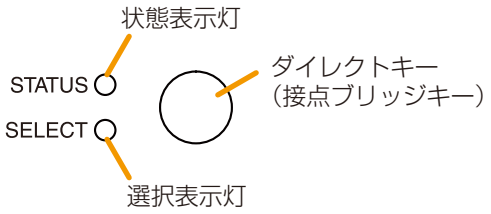


表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定されたオーディオシーンがオフの状態のとき
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーに設定されたオーディオシーンがオンの状態のとき
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

■ 接点ブリッジ時の表示灯

ダイレクトキーに接点ブリッジの機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態と制御出力状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



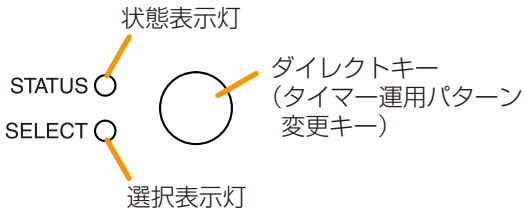
［CX-RM1700 の場合］

表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに設定された制御出力パターンがオフの状態のとき
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーに設定された制御出力パターンがオンの状態のとき メ モ 制御出力がパルスの場合、制御出力パターンをオンにしてパルス幅経過後に制御出力がオフになっても、制御出力パターンはオンのままであるため、表示灯は点灯したままとなります。
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

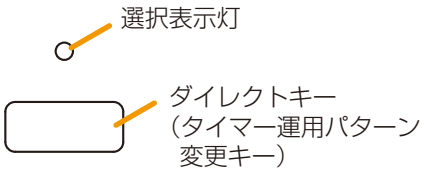
■ タイマー運用パターン変更時の表示灯

ダイレクトキーにタイマー運用パターン変更の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で、選択状態とタイマー運用パターンの状態がわかります。

［CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合］



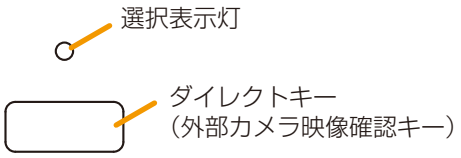
［CX-RM1700 の場合］



表示灯	表示灯の状態	表示内容
状態表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーに割り当てられたタイマー運用パターンがオフの状態のとき
	黄色点灯 ●	このダイレクトキーに割り当てられたタイマー運用パターンがオンの状態のとき
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

■ 外部カメラ映像確認時の表示灯（CX-RM1700 のみ）

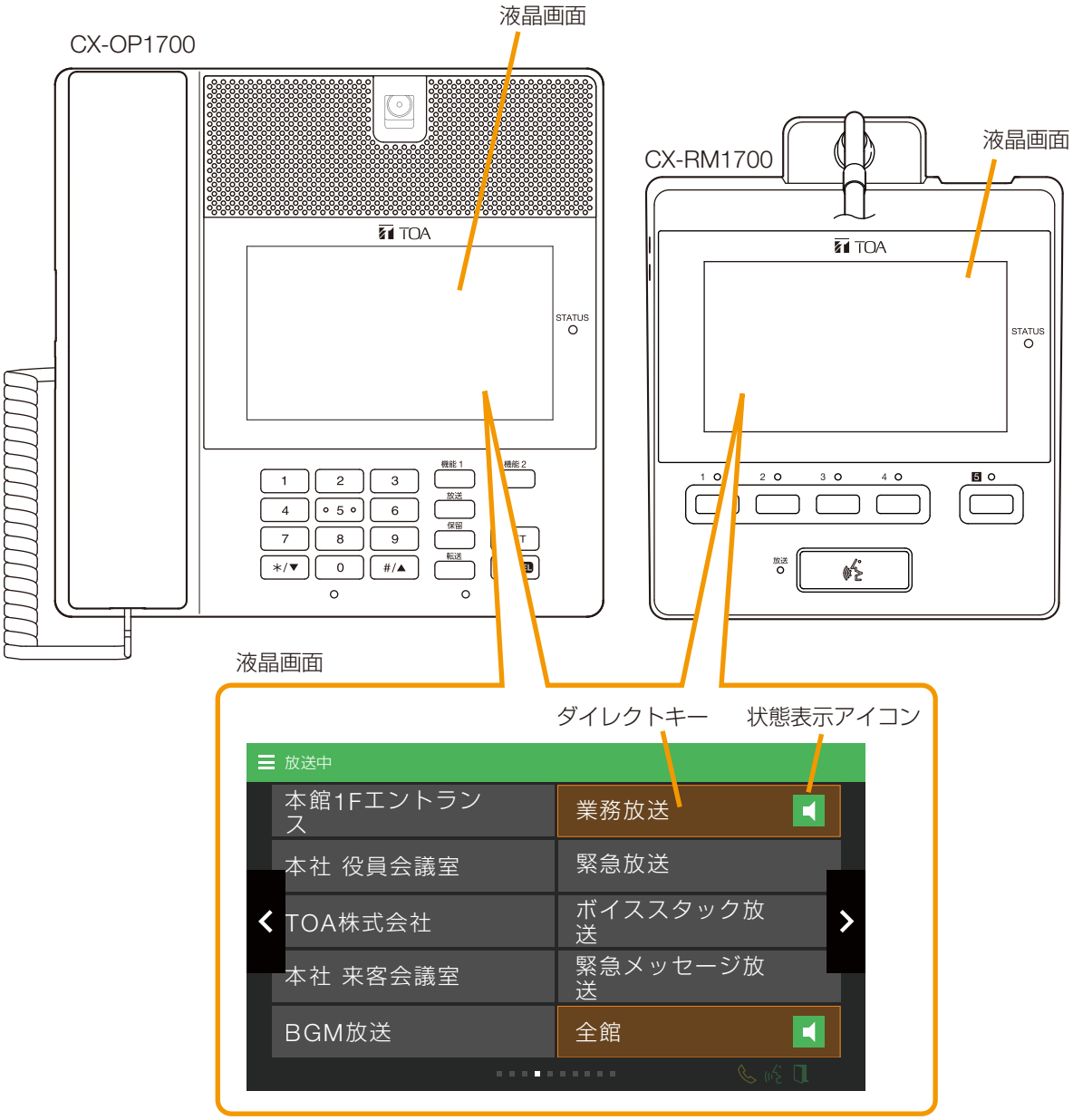
ダイレクトキーに外部カメラ映像確認の機能が割り当てられているとき、キーの近くにある表示灯で選択状態がわかります。



表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯 ○	このダイレクトキーを選択していないとき
	緑色点灯 ●	このダイレクトキーを選択しているとき

液晶画面上のダイレクトキーの表示状態

ここでは、CX-OP1700/RM1700 の液晶画面に表示されるダイレクトキーの表示状態について説明します。



ご注意

旧字体などは液晶画面に表示できない可能性があります。

メ モ

- ダイレクトキーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）
- ダイレクトキーの表示名称は、CX-1000 設定ソフトウェアで設定した名称になります。以下の説明で用いるダイレクトキーの名称は一例です。

■ 放送先選択時の表示

ダイレクトキーに放送先選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

ご注意

- 放送先種別が広域放送の場合、状態表示アイコンは表示されません。
- 放送先選択のダイレクトキーに割り当てた放送先のすべてが放送中や通話中などで本機の放送を受信できない状態の場合、状態表示アイコンは表示されません。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されている放送先のすべてまたは一部が未使用（BGM 放送を除く）
	このダイレクトキーに設定されている放送先がすべて本機で放送中、またはこのダイレクトキーに設定されている放送先がすべて復旧メッセージで本機で放送中
	自機発信の避難メッセージをこのダイレクトキーに設定されているすべての放送先が放送中
	自機発信の警報メッセージをこのダイレクトキーに設定されているすべての放送先が放送中
	このダイレクトキーに設定されている放送先の一部が、自機からの放送先に設定され放送中
	このダイレクトキーに設定されている放送先の一部が、自機からの放送先に設定された避難メッセージを放送中
	このダイレクトキーに設定されている放送先の一部が、自機からの放送先に設定された警報メッセージを放送中

■ 業務／ BGM 放送時の表示

ダイレクトキーに業務／ BGM 放送の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
	このダイレクトキーに設定された業務／ BGM 放送が放送されているとき

■ 業務放送パターン起動／停止時の表示

ダイレクトキーに業務放送パターン起動／停止の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定された業務放送パターンが放送されていないとき
	このダイレクトキーに設定されている業務放送パターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合も含む）

■ ベースパターン起動時の表示

ダイレクトキーにベースパターン起動の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されたベースパターンが放送されていないとき
	このダイレクトキーに設定されているベースパターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）

■ ボイススタック時の表示

ダイレクトキーにボイススタックの機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンでボイススタック待機状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	ボイススタック機能を使用していないとき
ダイレクトキー	ボイススタック機能を使用中（ダイレクトキーを押した後、録音開始からボイススタック放送終了まで）

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	録音済み音声がないとき
	このダイレクトキーに設定されたボイススタック放送が放送されているとき
	録音済み音声があるとき

■ 緊急メッセージ放送パターン起動時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700/RM1700 の用途を「業務･緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送パターン起動の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700/RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されている緊急メッセージ放送パターンが放送されていないとき
	このダイレクトキーに設定されている緊急メッセージ放送パターンが警報メッセージで放送されているとき
	このダイレクトキーに設定されている緊急メッセージ放送パターンが避難メッセージで放送されているとき

■ 緊急メッセージ放送パターン停止時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700/RM1700 の用途を「業務･緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送パターン停止の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700/RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

■ 緊急シーケンス停止時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700/RM1700 の用途を「業務･緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急シーケンス停止の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700/RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

■ 緊急シーケンスフェーズ移行時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700/RM1700 の用途を「業務･緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急シーケンスフェーズ移行の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで緊急シーケンスフェーズの状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700/RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

状態表示アイコンの状態	表示内容
1	このダイレクトキーに設定されている緊急シーケンスが第 1 フェーズのとき
2	このダイレクトキーに設定されている緊急シーケンスが第 2 フェーズのとき
3	このダイレクトキーに設定されている緊急シーケンスが第 3 フェーズのとき

■ 緊急復旧時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700/RM1700 の用途を「業務･緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急復旧の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は､CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700/RM1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを押したとき（点灯後すぐに消灯）

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されている復旧メッセージが停止中
	このダイレクトキーに設定されている復旧メッセージが自機から放送されているとき

■ 緊急メッセージ放送時の表示

システムで緊急モードを ON に設定し、CX-OP1700 の用途を「業務・緊急」に設定しているとき、ダイレクトキーに緊急メッセージ放送の機能を割り当てると、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで放送状態がわかります。

メ モ

- 緊急モードの設定は､CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「全般の設定」）
- CX-OP1700 の用途の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されている緊急メッセージがシステム内のすべての放送先に放送されていないとき
	このダイレクトキーに設定されている警報メッセージが自機から放送されているとき
	このダイレクトキーに設定されている避難メッセージが自機から放送されているとき

■ 故障リセット時の表示

ダイレクトキーに故障リセットの機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

■ オーディオシーン変更時の表示

ダイレクトキーにオーディオシーン変更の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

■ 接点ブリッジ時の表示

ダイレクトキーに接点ブリッジの機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンで制御出力の状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定された制御出力パターンがオフの状態のとき
	このダイレクトキーに設定された制御出力パターンがオンの状態のとき メ　モ 制御出力がパルスの場合、制御出力パターンをオンにしてパルス幅経過後に制御出力がオフになっても、制御出力パターンはオンのままであるため、アイコンは表示されたままとなります。

■ タイマー運用パターン変更時の表示

ダイレクトキーにタイマー運用パターン変更の機能が割り当てられているとき、ダイレクトキーの色で選択状態、ダイレクトキー内に表示される状態表示アイコンでタイマー運用パターンの状態がわかります。

ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択しているとき

状態表示アイコンの状態	表示内容
表示なし	このダイレクトキーに設定されたタイマー運用パターンがオフの状態のとき
	このダイレクトキーに設定されたタイマー運用パターンがオンの状態のとき

■ 外部カメラ映像確認時の表示

ダイレクトキーに外部カメラ映像確認の機能が割り当てられているとき、次のような表示になります。

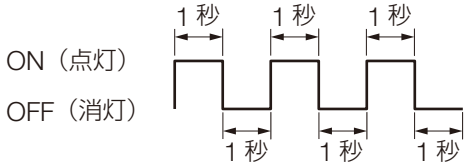
ダイレクトキーの状態	表示内容
ダイレクトキー	このダイレクトキーを選択していないとき
—	ダイレクトキーを選択すると、液晶画面全体に外部カメラ映像が映し出されます。

作動表示灯の状態

CX-SM1000/CL1750/OP1500/CL1550/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の前面にある作動表示灯［RUN］で機器の運転状態がわかります。

状態	表示灯	点滅周期*	表示内容
消灯	○	—	電源オフ CPU OFF 切換スイッチが CPU OFF 側のとき（CX-PA1120/PA1240 のみ）
緑色点灯	●	—	各種機能が使用できる状態（待ち受けおよび機能実行中）
緑色点滅	☼	ON = 1 秒 OFF = 1 秒	電源投入後、各種機能が使用できるまで

* 点滅周期が ON = 1 秒、OFF = 1 秒の点滅とは、以下のような状態を示します。



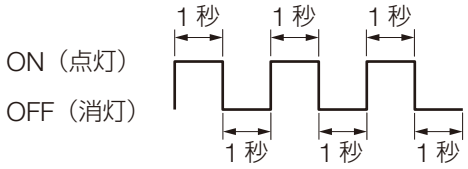
状態表示灯の状態

■ CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の状態表示灯

CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 前面にある状態表示灯［STATUS］で機器のイベント状態がわかります。

状態	表示灯	点滅周期*	表示内容
消灯	○	—	電源オフ 機器起動中 システムマネージャーとの接続待ち
緑色点灯	●	—	システムマネージャーとの接続完了後、通常モードで正常動作中
緑色点滅	☀	ON = 0.1 秒 OFF = 0.1 秒	通常モードで着信中
黄色点灯	●	—	通常モードで自機に故障が発生し受理されている状態
黄色点滅	☀	ON = 1 秒 OFF = 1 秒	通常モードで自機に故障が発生し受理されていない状態
赤色点灯	●	—	緊急モード中

* 点滅周期が ON = 1 秒、OFF = 1 秒の点滅とは、以下のような状態を示します。
また、点滅周期はおおよその時間です。

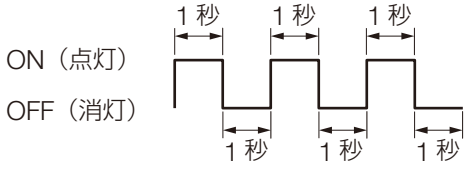


■ CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯

CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 前面にある状態表示灯［STATUS］で機器のイベント状態がわかります。

状態	表示灯	点滅周期*1	表示内容
消灯	○	—	電源オフ 機器起動中 システムマネージャーとの接続待ち
緑色点灯	●	—	システムマネージャーとの接続完了後、通常モードで正常動作中
緑色点滅	☀	ON = 0.1 秒 OFF = 0.1 秒	SD カードアクセス中（CX-SM1000 のみ）
黄色点灯	●	—	通常モードで自機*2 に故障が発生し受理されている状態
黄色点滅	☀	ON = 1 秒 OFF = 1 秒	通常モードで自機*2 に故障が発生し受理されていない状態
赤色点灯	●	—	緊急モード中

*1 点滅周期が ON = 1 秒、OFF = 1 秒の点滅とは、以下のような状態を示します。
また、点滅周期はおおよその時間です。

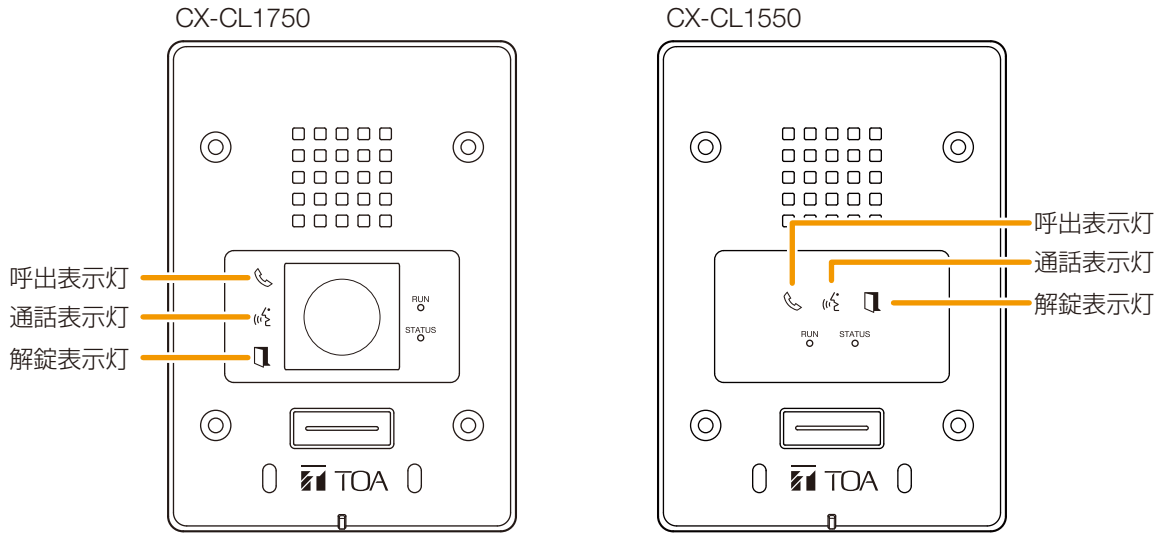


*2 CX-SM1000 の場合はシステム内のいずれかの機器の故障で動作

アイコン一覧

■ CX-CL1750/CL1550 の表示灯

CX-CL1750/CL1550 の前面にある呼出表示灯、通話表示灯、解錠表示灯で機器のイベント状態がわかります。



● 呼出表示灯

発信操作（第 3 章参照）をしたときに、この表示灯が点灯します。

状態	表示灯	点滅周期*	表示内容
点灯		—	発信中

● 通話表示灯

通話操作（第 3 章参照）をしたときに、この表示灯が点灯します。

状態	表示灯	表示内容
点灯		通話中

● 解錠表示灯

ドアリモートによる電子錠の開錠操作（第 3 章参照）をしたときに、この表示灯が点灯します。

状態	表示灯	表示内容
点灯		2 者通話中から解錠操作で鍵を解錠中

■ CX-OP1700/RM1700 の液晶画面に表示されるアイコン

CX-OP1700/RM1700 の液晶画面に表示されるアイコンで機器のイベント状態がわかります。

● 待ち受け画面

① メニューボタン

電話帳表示（P. 3-4）、点検の実施（P. 8-3）などをするときに使用します。

② 名称表示

CX-OP1700 の場合、待ち受け中は端末に設定された端末番号、端末名称を表示します。各機能実行中は実行中のイベント名が表示されます。
CX-RM1700 の場合、端末名称のみ表示します。

③ 時計

システムの現在時刻を表示します。

④ ダイレクトキー

ダイレクトキーを押すことで、ダイレクトキーに登録された機能を実行することができます。ダイレクトキーに表示する名称は設定で変更できます。ダイレクトキーは最大 100 個登録できます。
（☞ P. 2-12「液晶画面上のダイレクトキーの表示状態」）

⑤ 状態表示アイコン

ダイレクトキーに登録された機能の状態を表します。
（☞ P. 2-12「液晶画面上のダイレクトキーの表示状態」）

⑥ ページ送り

ダイレクトキーの画面を切り換えることができます。› を押すと進み、‹ を押すと戻ります。

⑦ページ位置情報

ダイレクトキー画面のページの位置を表します。

⑧呼出アイコン（CX-OP1700 のみ）

点灯で発信状態を表します。

状態	表示灯	表示内容
点灯		発信中

⑨通話アイコン（CX-OP1700 のみ）

点灯で通話状態を表します。

状態	表示灯	表示内容
点灯		通話中

⑩解錠アイコン（CX-OP1700 のみ）

点灯で鍵の解錠状態を表します。

状態	表示灯	表示内容
点灯		2 者通話中から解錠操作で鍵を解錠中

⑪不在転送アイコン

不在転送設定時に表示されます。

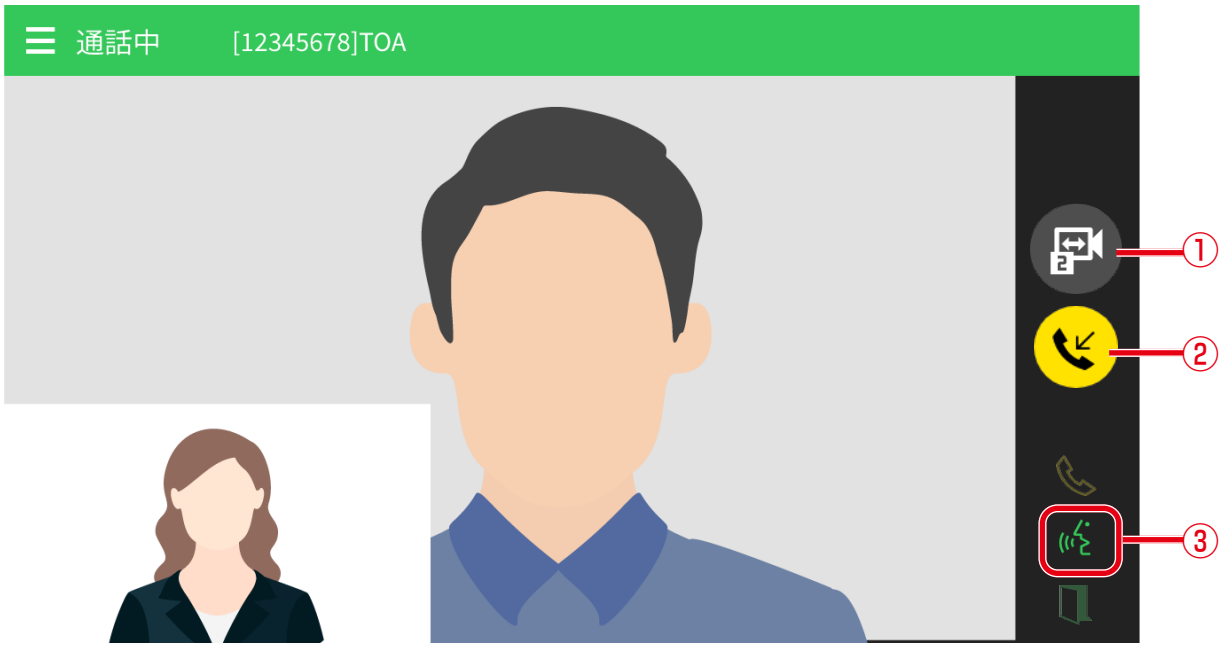
状態	表示灯	表示内容
点灯		不在転送が設定されている

⑫故障発生アイコン

ダイレクトキーに設定された故障パターンが発生すると表示され、すべての故障パターンが解消されると表示が消えます。

状態	表示灯	表示内容
点灯		故障発生中

● ビデオ通話中画面（CX-OP1700 のみ）



① カメラ映像の切り換え

表示される映像を通話相手端末のカメラか IP カメラに切り換えることができます。
（☞ P. 3-14「ビデオ通話（CX-OP1700/CL1750 のみ）」）

② 着信表示

通話中などに新規着信があると表示されます。このアイコンを押すと、着信リストが表示されます。

③ 通話アイコン

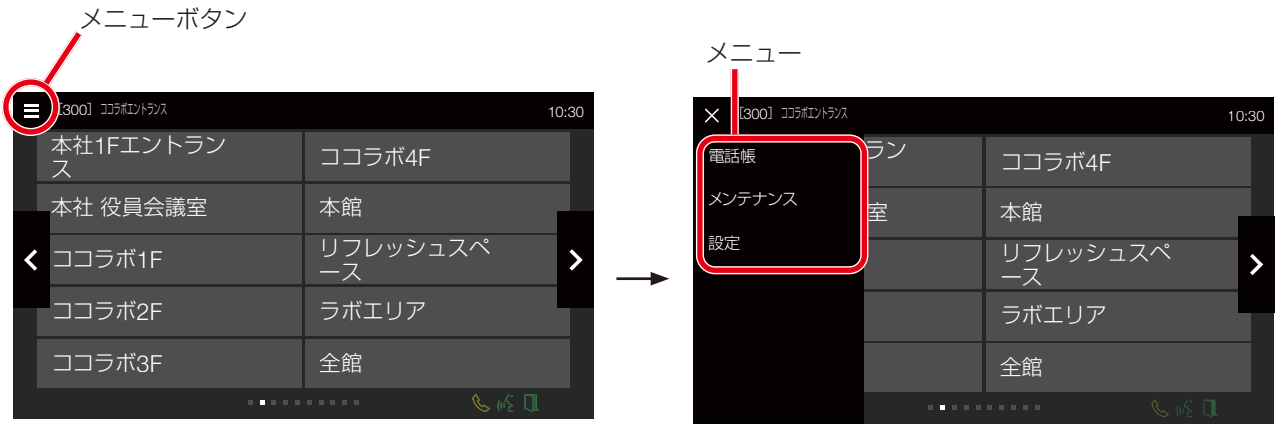
通話中にアイコンが点灯します。

メニュー画面の遷移

■ CX-OP1700/RM1700 のメニュー画面

● メニュー画面への入りかた

液晶画面左上のメニューボタンを押すと、メニューが表示されます。



※ 図は CX-OP1700 の例です。

● メニュー構成

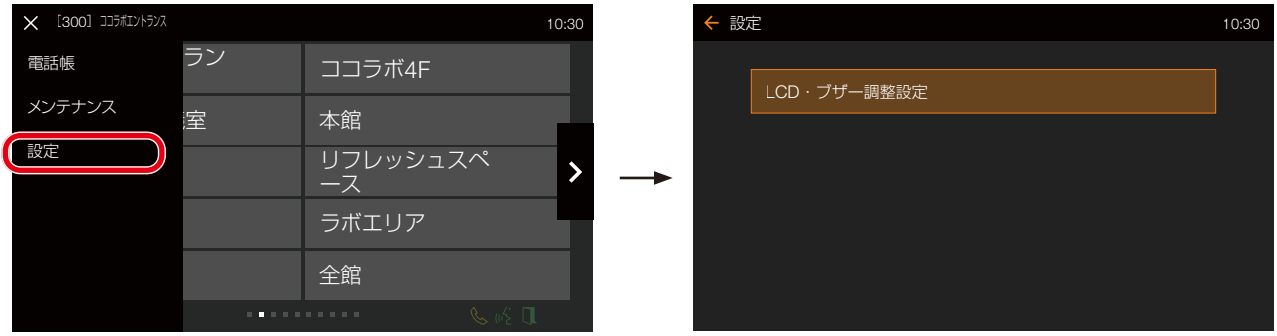
電話帳*1	
メンテナンス	
	自己点検
	端末情報
設定	
	LCD・ブザー調整設定
	音量制御設定*2

*1 CX-OP1700 のみのメニュー
*2 CX-RM1700 のみのメニュー

● メニュー画面での基本操作

※ 図は CX-OP1700 の例です。

● メニューの選択項目を押すと、液晶画面に項目選択画面、設定画面などが表示されます。



● 1 つ前の画面に戻るときは、画面左上の戻るボタンを押します。

● 設定画面

[LCD・ブザー調整設定画面]

①バックライト調整

–/+ ボタンを押すと、リアルタイムで液晶画面のバックライトの明るさが調整できます。
（工場出荷時：50%、10 段階中の 5 でメーター中央の位置）

②バックライト点灯

常時 ON　　：バックライトを常時点灯させます。
自動 OFF（3 分）：何も操作しない状態が 3 分続くと、バックライトが自動的に消灯します。
（工場出荷時：自動 OFF）

ご注意

「常時 ON」に設定すると、液晶画面の寿命が短くなる場合があります。

③故障ブザー

故障検知機能を有効にしている場合のブザーの動作を設定できます。
ON　：故障発生時にブザー音を鳴らします。
OFF：故障発生時にブザー音を鳴らしません。
（工場出荷時：ON）

[音量制御設定画面（CX-RM1700 のみ）]

①MIC/LINE 切り替え

AUX 入力端子の入力レベルを設定します。
設定範囲：MIC、LINE
（工場出荷時：LINE）

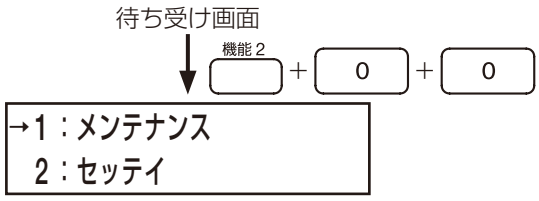
②マイク表示灯

設定範囲：ON、OFF
（工場出荷時：ON）

■ CX-OP1500 のメニュー画面

● メニュー画面への入りかた

待ち受け画面で機能 2 キー、［0］キー、［0］キーを順番に押すと、液晶画面にメニューが表示されます。



ご注意

待ち受け画面からのみメニュー画面を表示できます。
BGM 受信中は待ち受け画面が表示されますが、メニュー画面は表示できません。

メ モ

右の画面でキャンセルキーを押すと、待ち受け画面に戻ります。

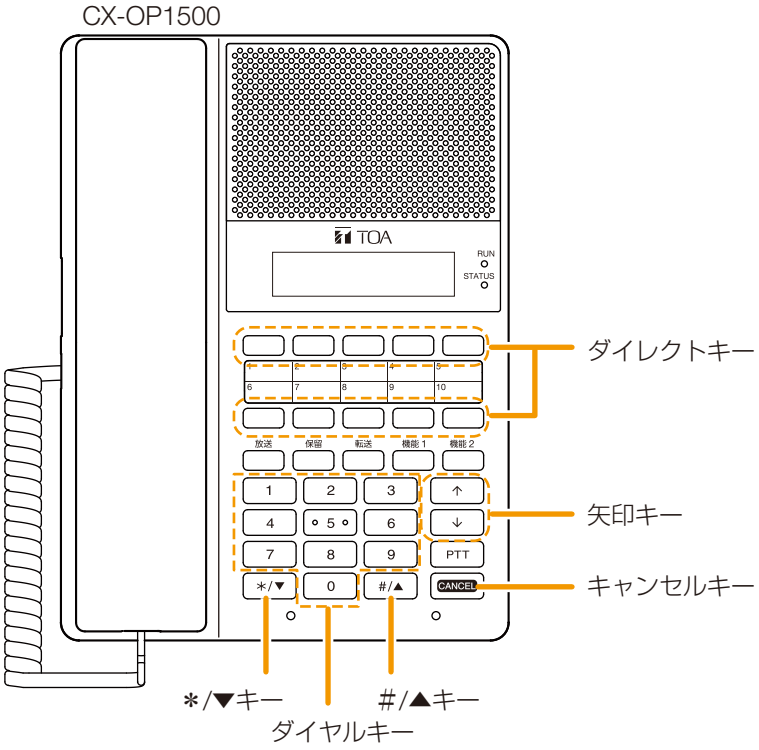
● メニュー構成

- 1. メンテナンス
  - 1.1. 自己点検
    - 1.1.1.MIC/SP
      - 実行しない
      - 実行する
    - 1.1.2. キー［CL］
      - 実行しない
      - 実行する
    - 1.1.3. アンプ
      - 実行しない
      - 実行する
    - 1.1.4. 記憶装置
      - 実行しない
      - 実行する
    - 1.1.5. 開始／キャンセル
  - 1.2. 端末情報
    - 1.2.1. 自機
      - ファームウェアバージョン
      - ハードウェアバージョン
      - IP アドレス
      - サブネットマスク
      - MAC アドレス
      - デフォルトゲートウェイ
    - 1.2.2.SM
      - IP アドレス

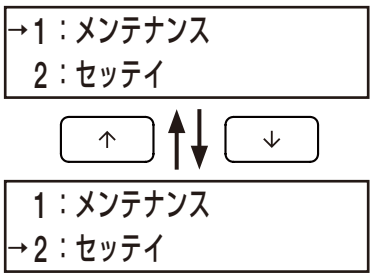
- 2. 設定
  - 2.1.LCD　ブザー
    - 2.1.1. バックライト点灯
      - オートオフ
      - オン
    - 2.1.2. 故障ブザー
      - オフ
      - オン

● メニュー画面での基本操作

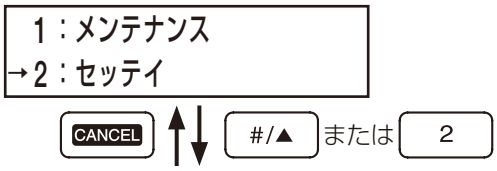
メニュー画面での操作に使用するキーは以下のとおりです。



● 選択肢を示す「→」を移動させるには、矢印キーを使います。



● 選択肢を決定するには、＃ / ▲キーまたは選択肢の数字のダイヤルキーを使います。



● 選択肢を決定せずに、１つ前の画面に戻るには、キャンセルキーを使います。

第３章

通話機能と操作のしかた

呼び出し

■ 個別呼び出し（CX-OP1700/OP1500 のみ）

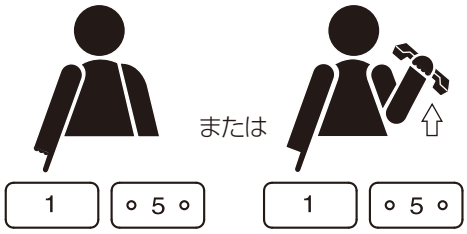
1 呼び出す端末の番号を押す。

ご注意

操作する端末が機器内蔵の音源で放送を送信しているときは、発信操作が無効になります。

メ モ

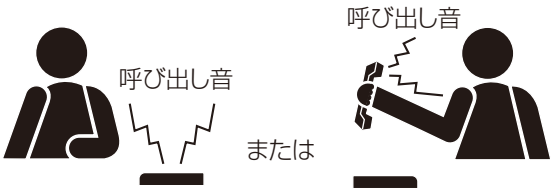
ハンドセットを置いたままでも、持ち上げていてもダイヤルできます。



発信端末のスピーカーから呼び出し音が聞こえます。

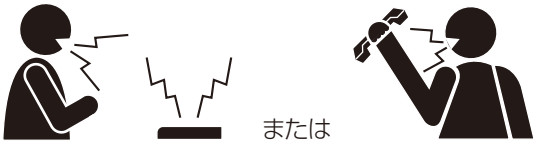
メ モ

- ハンドセットを持ち上げてダイヤルした場合には、呼び出し音は、発信端末のハンドセットから聞こえます。
- 相手が通話中などで呼び出せないときは、話中音が聞こえます。相手の通話が終わると、話中音から呼び出し音に変わります。

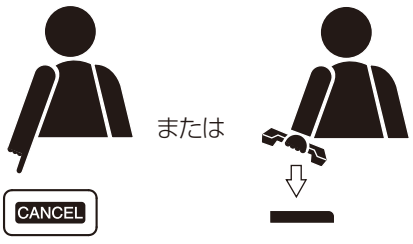


2 呼び出し音が止まり、呼び出された端末が応答したら、通話を始める。

呼び出し音が鳴り続けます。呼び出された端末が応答すると、呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。



3 通話を終えるときは、キャンセルキーを押すか、ハンドセットを置く。



ご注意

呼び出しまたは通話の制限時間が経過すると、自動的に呼び出しまたは通話が終了します。
発信タイムアウトおよび通話タイムアウト（10 ～ 990 秒で 10 秒単位、または設定なし）は、CX-1000 設定ソフトウェアで端末ごとに設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

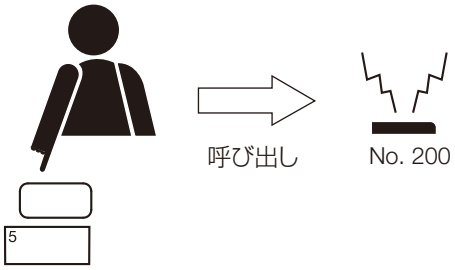
■ 短縮ダイヤル

特定のキーにワンタッチダイヤルを設定すると、ワンタッチで発信ができます。

● ワンタッチダイヤル（CX-OP1700/OP1500 のみ）

端末ごとに、ダイレクトキーにあらかじめワンタッチダイヤルの機能を割り当て、ダイヤル操作（最大 25 桁）を登録しておくと、ワンタッチで発信ができます。

［例］



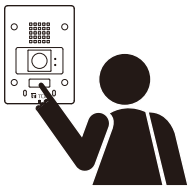
メ モ

ワンタッチダイヤルに使用する各キーへの機能の割り当ておよびダイヤル操作の登録は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

● CX-CL1750/CL1550 からの呼び出し

ダイレクトキーにあらかじめワンタッチダイヤルの機能を割り当て、ダイヤル操作（最大 25 桁）を登録しておくと、特定の端末に発信ができます。

1 ダイレクトキーを押す。

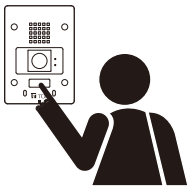


発信端末のスピーカーから呼び出し音が聞こえます。

メ モ

相手が通話中などで呼び出せないときは、話中音が聞こえます。話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。相手の通話が終わり次第、呼び出します。

2 呼び出しまたは通話を終えるときは、もう一度ダイレクトキーを押す。



ご注意

呼び出しまたは通話の制限時間が設定されている場合、制限時間が経過すると自動的に呼び出しまたは通話が終了します。

発信タイムアウトおよび通話タイムアウト（なし、または 10 ～ 990 秒で 10 秒単位）は、あらかじめ CX-1000 設定ソフトウェアで端末ごとに設定されています。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

メ モ

ダイレクトキーへの機能の割り当ておよびダイヤル操作の登録は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

■ 電話帳（CX-OP1700 のみ）

電話帳および連絡先グループに登録した呼び出し先へ発信することができます。

ご注意

電話帳の操作で呼び出しが可能なのは、待ち受け状態のときのみです。通話中に手動転送をするときに、転送先を電話帳から選択することはできません。

メ モ

電話帳および連絡先グループへの登録は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「電話帳の設定」「連絡先グループの設定」）

1 液晶画面のメニューボタンを押す。

メニューが表示されます。

2「電話帳」を押す。

電話帳が表示されます。

3 ▼ボタンを押して表示されたグループから希望のグループを選択する。

メ モ

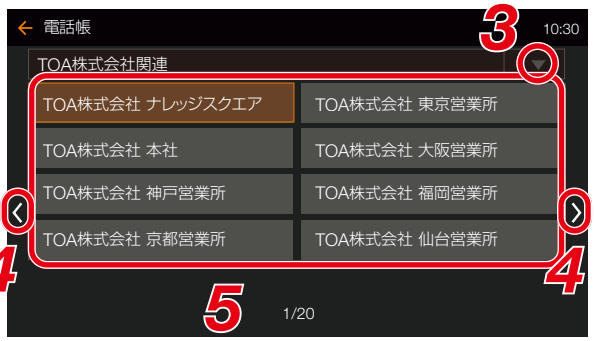
グループの登録は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。

4 ＜ボタンまたは＞ボタンを押して、希望のページを表示させる。

5 希望の呼び出し先を押す。

呼び出しが始まります。

通話が終わると、待ち受け画面に戻ります。



■ リモートダイヤル

制御入力がオンにされると、任意の端末が自動的にダイヤルを開始します。1 つの制御入力にダイヤル操作（最大 25 桁）を設定できます。

メ モ

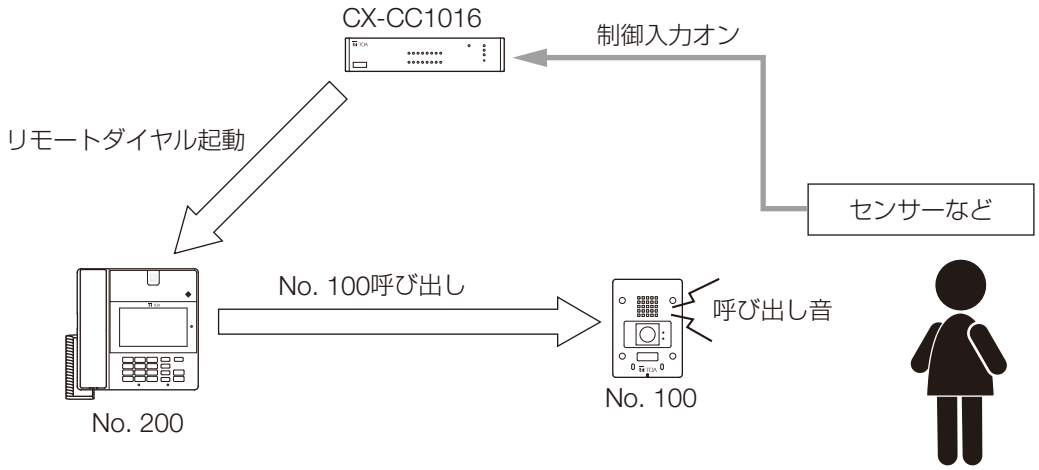
リモートダイヤルの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

ご注意

リモートダイヤルを起動するには、制御入力を 50 ms 以上オンにする必要があります。

［例］

センサーからの制御入力信号により、端末 No. 200 から No. 100 を自動的に呼び出す例です。



■ グループ呼び出し

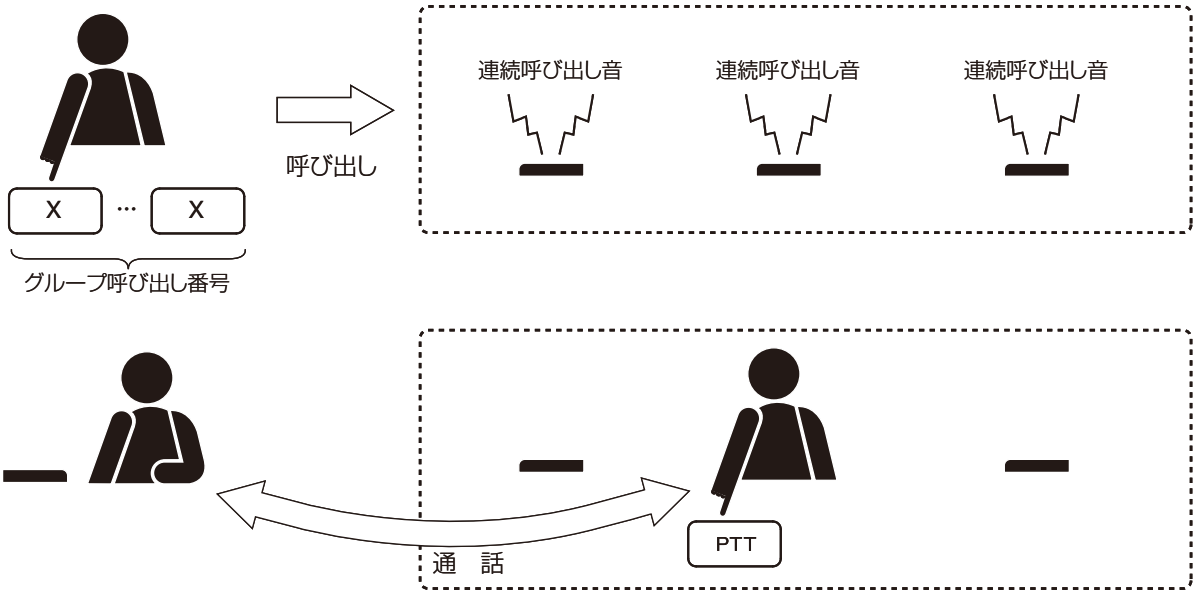
グループ呼び出し番号をダイヤルすると、そのグループのメンバーに設定されているすべての端末が、応答方法の設定に関係なく、連続呼び出し音で呼ばれます。
短縮ダイヤルにグループ呼び出し番号を登録すると、ワンタッチでグループ呼び出しができます。
いずれかの端末が応答すれば、他の端末への呼び出しは終了します。

ご注意

- CX-CL1750/CL1550 はグループのメンバーに設定できません。
- 応答方法が自動応答に設定されている端末も、グループ呼び出しのときは手動応答になります。

メ モ

グループ呼び出し番号は CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「端末グループの設定」）



応答

■ 着信選択

● 自動応答

[CX-OP1700/OP1500 の場合]

呼び出しがあると、呼び出し音が 1 度鳴った後すぐ、自動で通話状態になります。

ご注意

着信中はダイレクトキー操作ができません。

メ モ

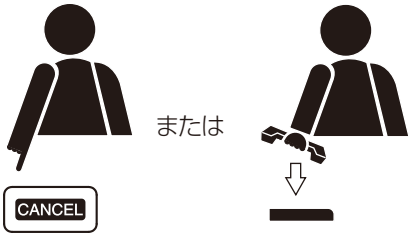
ヘッドセットを接続している場合、呼び出し音は、ヘッドセットにのみ出力されます。

1 呼び出し音が鳴ったら、端末に向かって話す。

メ モ

ハンドセットを持ち上げて通話することもできます。ハンドセットを持ち上げると、ハンドセット通話になります。

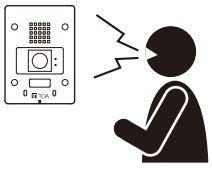
2 通話を終えるときは、キャンセルキーを押すか、ハンドセットを置く。



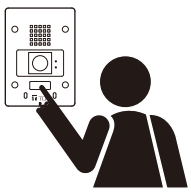
[CX-CL1750/CL1550 の場合]

呼び出しがあると、呼び出し音が 1 度鳴った後すぐ、自動で通話状態になります。

1 呼び出し音が鳴ったら、端末に向かって話す。



2 通話を終えるときは、ダイレクトキーを押す。



● 手動応答（CX-OP1700/OP1500 のみ）

1 呼び出しを受けて、通話する。

1-1 ハンドセットを持ち上げて応答する場合

ハンドセットを持ち上げると、呼び出し音が止まり、通話することができます。

または

1-2 PTT キーを使って応答する場合

PTT キーを押すと、ハンズフリーで通話することができます。

2 通話を終えるときは、キャンセルキーを押すか、ハンドセットを置く。

または

[着信の選択]

同時に複数の着信がある場合、以下の手順で応答する相手を選択します。

・CX-OP1700 の場合

1 着信アイコンを押す。

メ モ
着信アイコンは、同時に 2 件以上着信している場合にのみ表示されます。

着信リストが表示されます。
優先度が高い順に表示されます。

2 通話相手の表示部を上下にスライドさせ、通話相手を検索する。

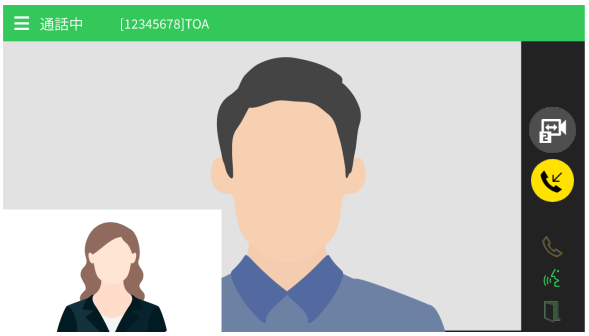
メ モ

- 電話帳に登録済みの通話相手であれば、名称が表示されます。
  登録がなければ、端末番号が表示されます。外部電話システムからの着信の場合は「OUTSIDE」と表示されます。
- ▲ボタンを押すと優先順位の最も高い着信に移動、▼ボタンを押すと優先順位の最も低い着信に移動します。

3 通話相手を選択する。

4 ハンドセットを持ち上げるか、PTT キーを押す。

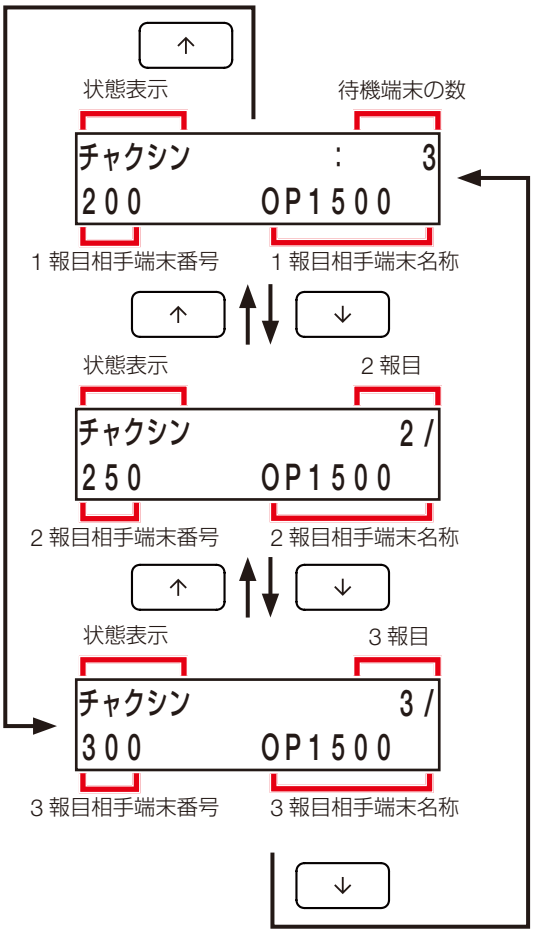
通話が始まります。



・CX-OP1500 の場合

1 **［↓］キーまたは［↑］キーを押し、応答する端末を表示させる。**

優先順位に従って、端末番号と名称が表示されます。

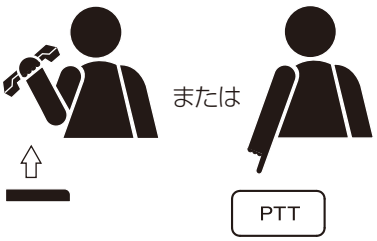


2 **応答する端末の番号と名称が表示されたら、ハンドセットを持ち上げるか、PTT キーを押す。**

呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。

メ モ

PTT キーを押すと、ハンズフリーで通話することができます。



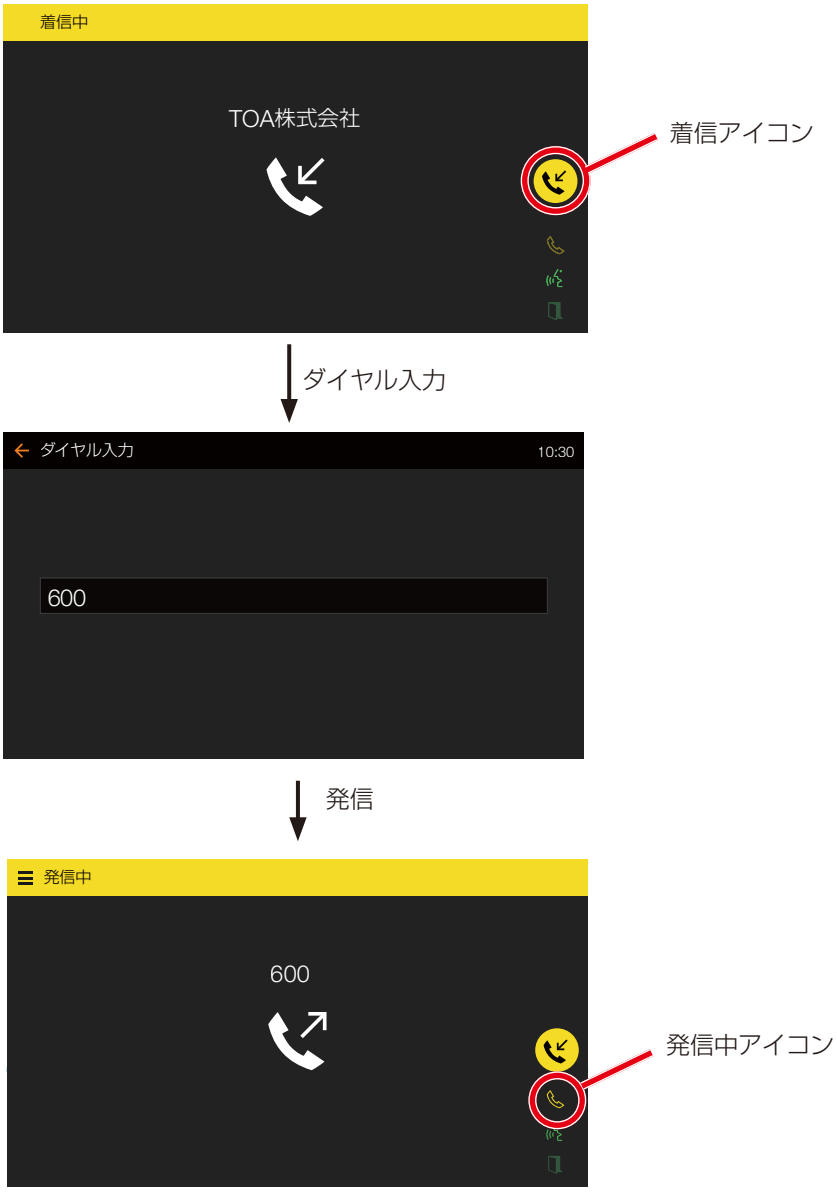
[着信中の操作]

着信中にダイヤル入力またはダイレクトキーの操作で発信することができます。

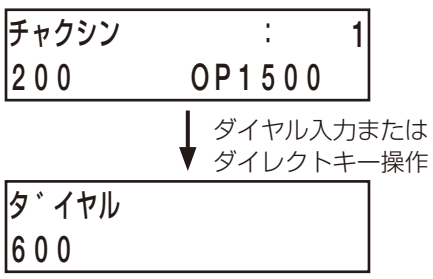
手順：着信中にダイヤル入力をする、またはダイレクトキーを押す。

ダイヤルをした相手またはダイレクトキーに登録された相手に発信されます。

[CX-OP1700 の場合の画面遷移]



[CX-OP1500 の場合の画面遷移]



通話

■ 音声通話

メ モ

CX-OP1700 は、通話モードが「音声通話」に設定されていても、IP カメラを連動する設定がされていれば、通話中に IP カメラ映像を表示します。通話モードおよびカメラ連動の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

● ハンズフリー

CX-OP1700/OP1500 ではハンドセットを持ち上げずに、本体に置いたまま通話することができます。
ハンドセットのない機種（CX-CL1750/CL1550）ではハンズフリー通話となります。

[ハンズフリー通話時の動作]
一方または両方の端末がハンズフリー通話をする場合、エコーキャンセラー*とボイススイッチを使った同時通話となります。この通話中はマイクで集音される音の変化に応じて、常に端末内部の設定（音の反射条件のパラメーター）を更新し、最適な通話になるようにしています。端末を新しい環境に設置した後や、端末の環境が大きく変化した後に、両方の端末がハンズフリー通話をした場合、ハウリングが起こることがありますが、しばらく通話を続けると正常に通話できるようになります。ただしハウリングがおさまらない場合は、音声入力音量・音声出力音量の調節、およびボイススイッチの調整を行ってください。

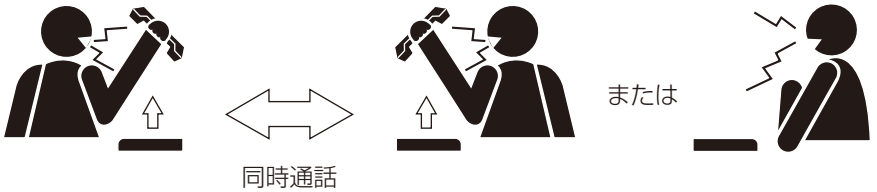
* エコーキャンセラー機能は、端末のスピーカーから出る音がマイクで集音されることにより起こるハウリングを抑制する機能ですが、ハウリングを完全に抑制することができないため、通常は、ボイススイッチと併用して使用されます。
* ボイススイッチとは通話時に両話者が同時に話しかけたとき、小さい方の話者音声を、設定された減衰量に応じて制御し通話相手に届けます。
  その間、大きい方の話者音声は減衰されずそのままの音量で通話相手に届け続けます。

メ モ

- 音声入力音量、音声出力音量、およびボイススイッチの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- CX-OP1700/OP1500 のスピーカー出力の設定は端末でも行えます。（☞ P. 3-13「音量設定（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）

● ハンドセット

CX-OP1700/OP1500 ではハンドセットを持ち上げることにより、ハンドセット通話をすることができます。



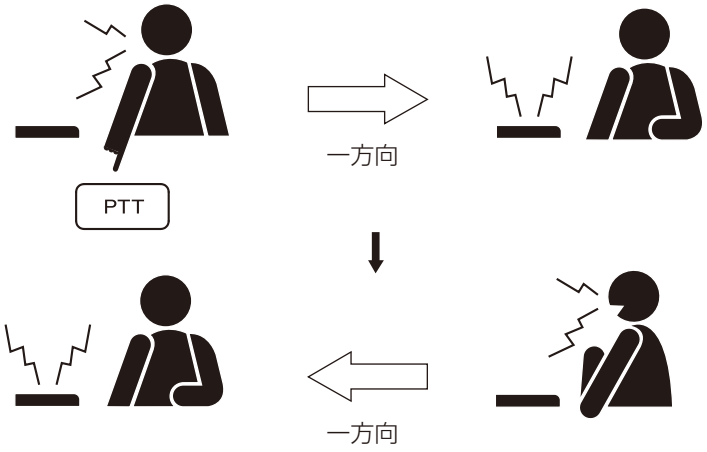
● ヘッドセット

CX-OP1700/OP1500 にヘッドセットを接続することにより、ヘッドセット通話をすることができます。
ヘッドセット通話中にハンドセットを持ち上げるとハンドセット通話に切り換わります。

● 交互通話（CX-OP1700/OP1500 のみ）

通話中に PTT キーを押すと送話になり、離すと受話になります。

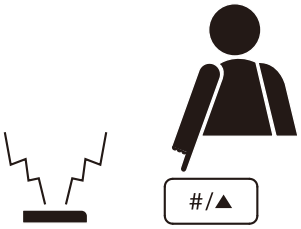
PTT キーを押すと、押している側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。
両端末が操作したときは、後押し優先となります。



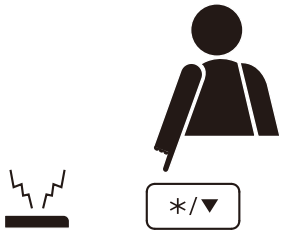
● 音量設定（CX-OP1700/OP1500 のみ）

通話中の操作によって受話音量の調節ができます。
出力レベルは 10 段階（3 dB ステップ）で変更できます。
変更した音量は、通話終了後も維持されます。

手順：音量を大きくするには、通話中に［# / ▲］キーを押す。



音量を小さくするには、通話中に［＊ / ▼］キーを押す。



■ ビデオ通話（CX-OP1700/CL1750 のみ）

CX-OP1700 は CX-OP1700/CL1750 と通話するときに、自端末の内蔵カメラの映像を相手に送信、かつ通話相手端末の内蔵カメラの映像を見ながら通話ができます。
発信については P. 3-2「呼び出し」、着信については P. 3-7「応答」を参照してください。

● 照明制御

ビデオ通話開始時に CX-CL1750 の照明を点灯することができます。ビデオ通話をするには事前の設定が必要です。

メ モ

- ビデオ通話ができるようにするには、CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- ビデオ通話開始時に照明を点灯するには、CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「照明の設定」）

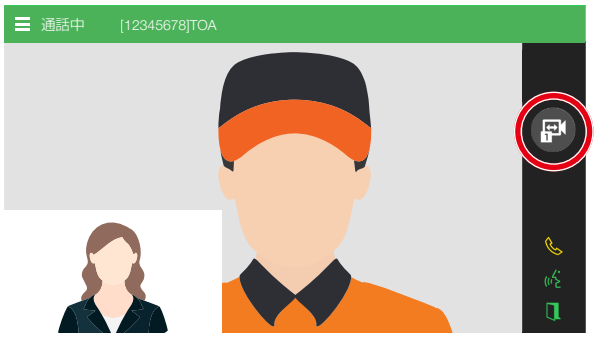
● カメラ映像の切り換え

通話相手端末の内蔵カメラの映像に加えて、汎用的な IP カメラプロトコル対応のネットワークカメラ映像を表示することができます。通話相手端末がカメラなしの機器でも、IP カメラの映像を表示することができます。通話中にカメラアイコンを押すと、以下のように画面が遷移します。

メ モ

通話に連動して映像を表示するカメラの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

カメラ 1 の画像



大画面：通話先カメラ映像
小画面：自機カメラ映像

ご注意

小画面は、自機カメラのみです。IP カメラ映像は表示されません。

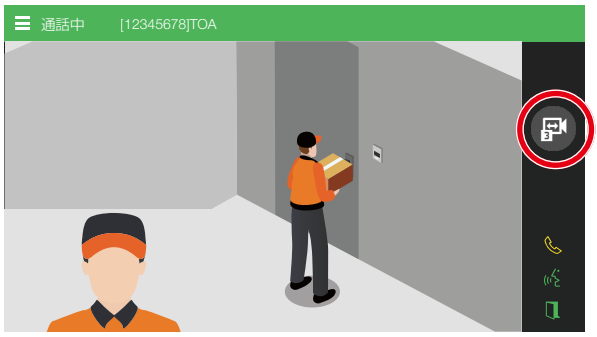
アイコンを押す。

カメラ 2 の画像

大画面：通話先カメラ映像
小画面：なし

アイコンを押す。

カメラ 3 の映像



大画面：IP カメラ映像
小画面：通話先カメラ映像

ご注意

- IP カメラ映像がない場合は、カメラ 3 の映像は表示されず、カメラ 1 の映像とカメラ 2 の映像の切り換えのみとなります。
- IP カメラ映像の出力に時間がかかることがあります。例えばカメラ 3 の映像が出力準備中の場合、カメラ 1 の映像とカメラ 2 の切り換えのみとなります。カメラ 3 の映像が準備でき次第、カメラ 3 の切り換えも可能となります。

アイコンを押す。

保留（CX-OP1700/OP1500 のみ）

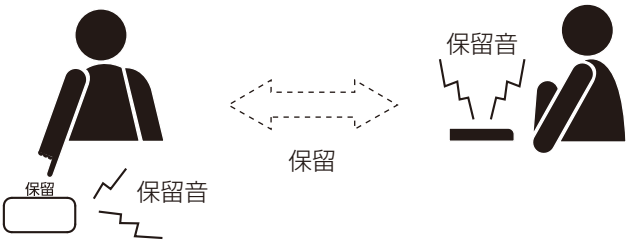
■ 通話保留

通話中に保留キーを押すと両者に保留音が鳴って保留状態になります。
もう一度押すと保留は解除され、元の通話に戻ります。

[保留のしかた]

手順：通話中に保留キーを押す。

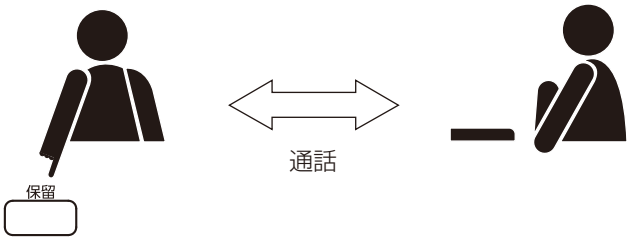
両者に保留音が鳴って、保留状態になります。
保留キーを押した状態でハンドセットを置いても、通話は終了しません。



[保留解除のしかた]

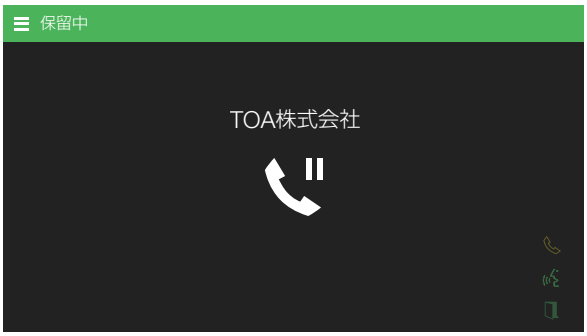
手順：もう一度保留キーを押す。

保留が解除され、元の通話に戻ります。
保留状態でハンドセットを置いているときに、ハンドセットを持ち上げても保留は解除されません。



ご注意

- ビデオ通話中に保留の操作をすると、映像は表示されなくなります。
- 保留中は通話時間が表示されません。



転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）

■ 手動転送

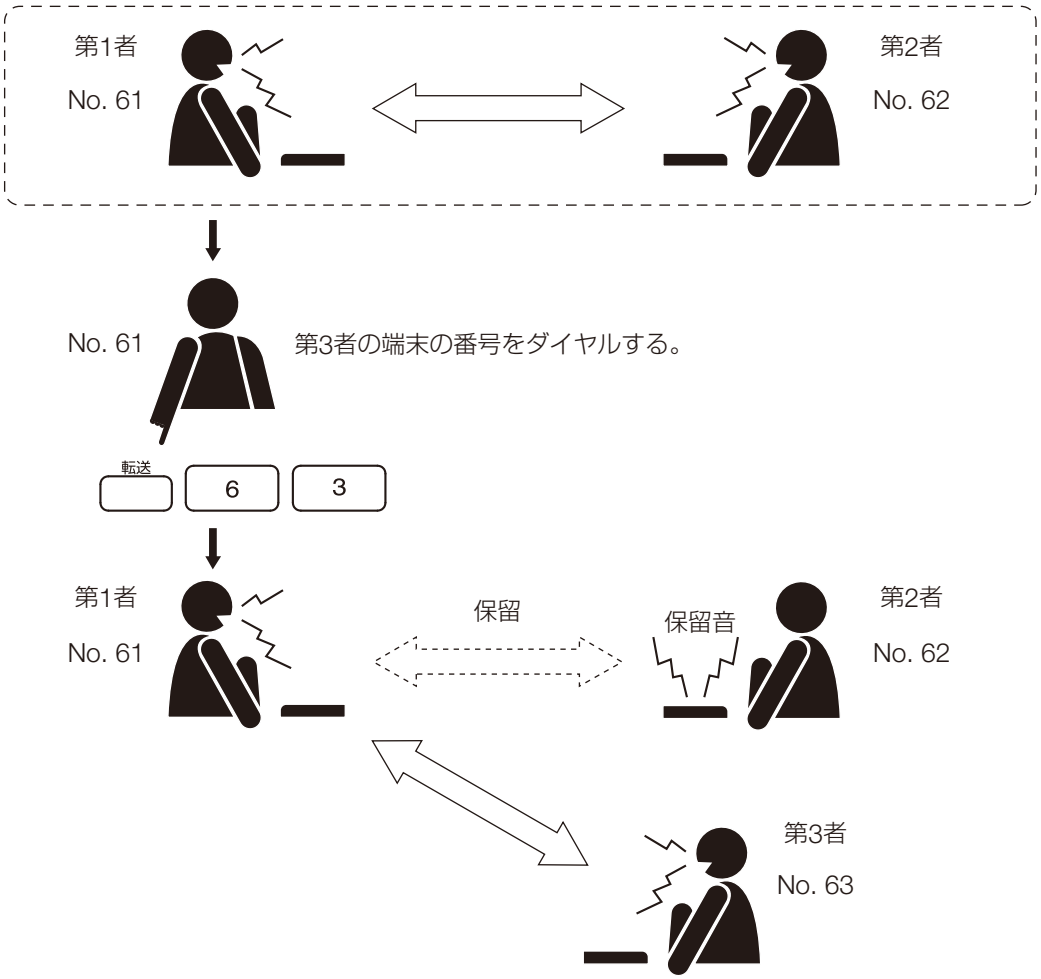
2 者通話状態から、第 3 者を呼び出して通話（元の通話相手は一時保留）し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第 3 者の通話状態にする（転送）ことができます。

1 **2 者間で通話をしている間に、転送キーを押す。**

現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

2 **第 3 者の端末番号をダイヤルする。**

第 3 者が応答すると、第 1 者は、元の通話を保留したまま第 3 者と話すことができます。



第 3 者との通話が終わった後、第 1 者は、第 2 者との通話を第 3 者へ転送するか、元の通話に戻ることができます。

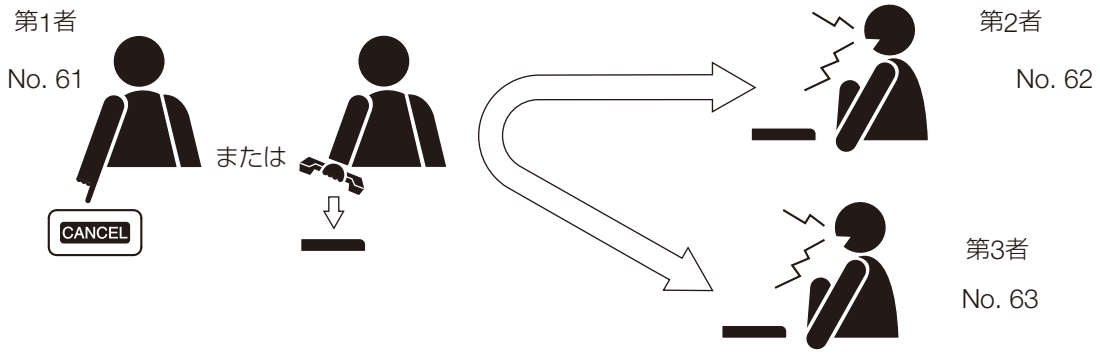
3 第 3 者へ転送する、または元の通話に戻る。

3-1 第 3 者へ転送する場合

保留されている相手に第 3 者をつなぐには、キャンセルキーを押すか、ハンドセットを置いてください。
第 2 者と第 3 者の通話状態となります。

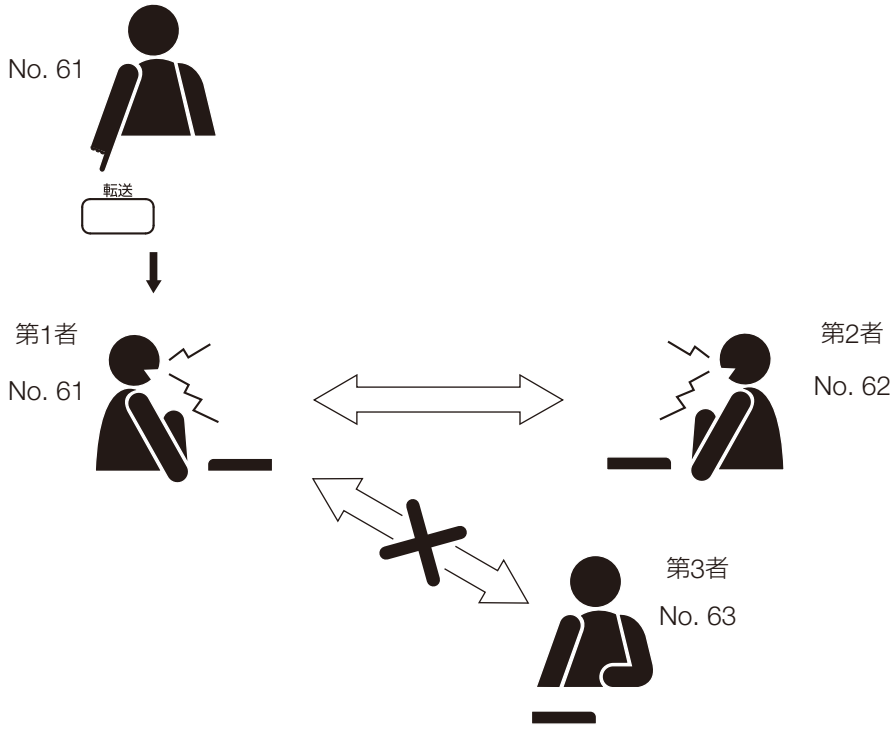
ご注意

第 3 者との通話をさらに手動転送することはできません。



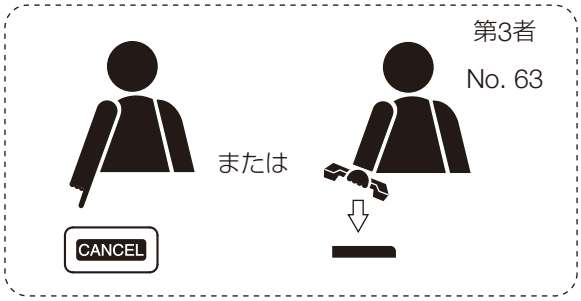
3-2 元の通話に戻る場合

転送せずに元の通話に戻るには、もう一度転送キーを押してください。
元の 2 者間通話に戻ります。



メ モ

第 1 者が転送キーを押さず、第 3 者がキャンセルキーを押すか、またはハンドセットを下ろしても、元の通話に戻ります。



■ 自動転送

ご注意

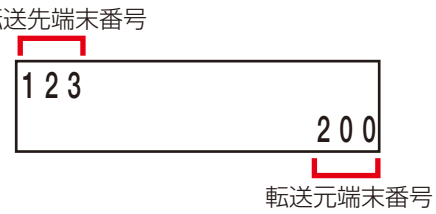
端末からの設定は待ち受け状態で行ってください。
BGM 受信中は待ち受け画面が表示されますが、設定できません。

● 不在転送

着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に指定の端末に転送されます。
端末で不在転送の設定をすれば、すぐに不在転送状態になります。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も不在転送されます。

［不在転送設定中の CX-OP1700 の液晶画面］

［不在転送設定中の CX-OP1500 の液晶画面］



ご注意

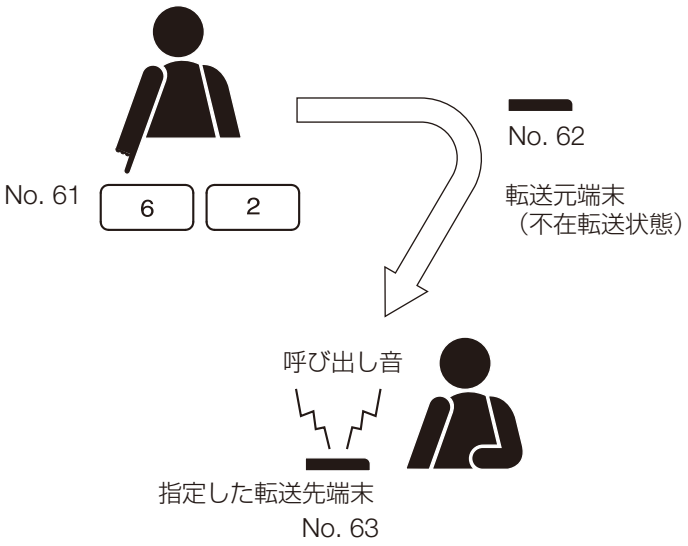
- 不在転送に設定されている端末がグループ呼び出しのメンバーとして呼び出されるときは転送されません。
- 転送先端末が自動転送先として転送元端末を設定している場合、転送先端末を呼び出します。

メ モ

不在転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 3-20「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）

［不在転送設定時の動作］

不在転送に設定した転送元端末（例：No. 62）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した転送先端末（例：No. 63）に自動的に転送されます。

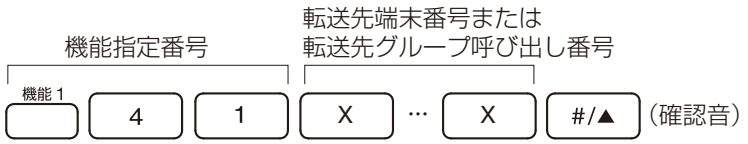


[設定のしかた]

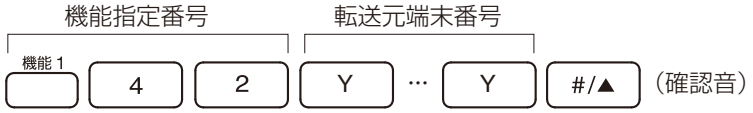
1 転送元端末または転送先端末で以下のキー操作をして不在転送状態にする。

1-1 転送元端末で、CX-1000 設定ソフトウェアで設定した不在転送先に転送する場合

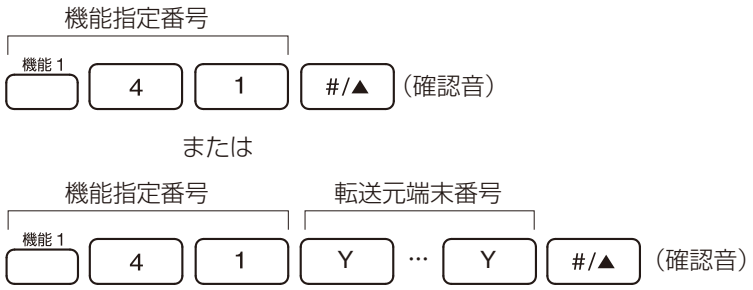
1-2 転送元端末で、任意の個別端末またはグループを不在転送先に指定して転送する場合



1-3 転送先端末で、その端末を不在転送先に指定して転送する場合



2 転送元端末で以下のキー操作をして不在転送状態を解除する。

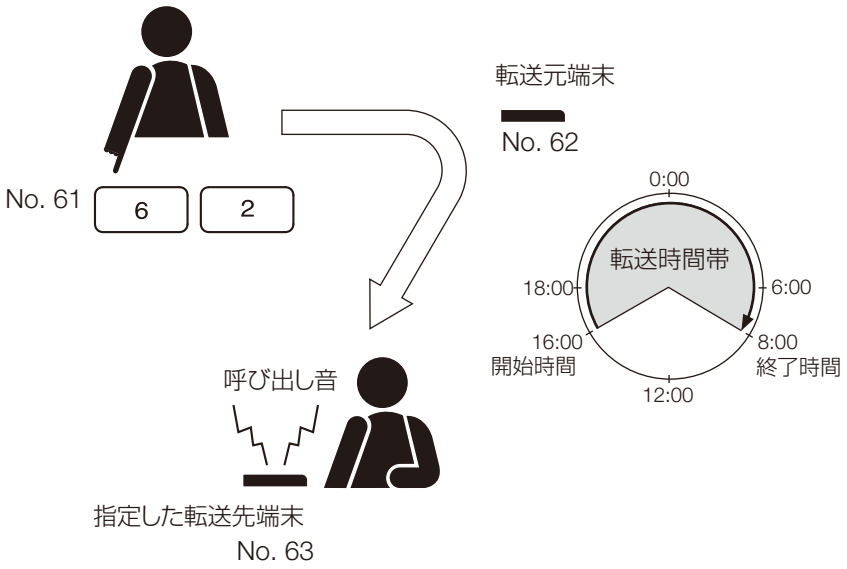


● 時刻連動不在転送

あらかじめ設定された日の設定された時間帯に、転送元端末が不在転送状態になります。その時間帯に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に指定の転送先端末に転送されます。

メ モ

時刻連動不在転送先の設定、時刻連動不在転送をする端末の設定、および不在転送状態になる時間帯の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」「時刻連動不在転送パターンの設定」「プログラムタイマーの設定」）



● 話中転送

通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に指定の転送先端末に転送されます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も話中転送されます。

ご注意

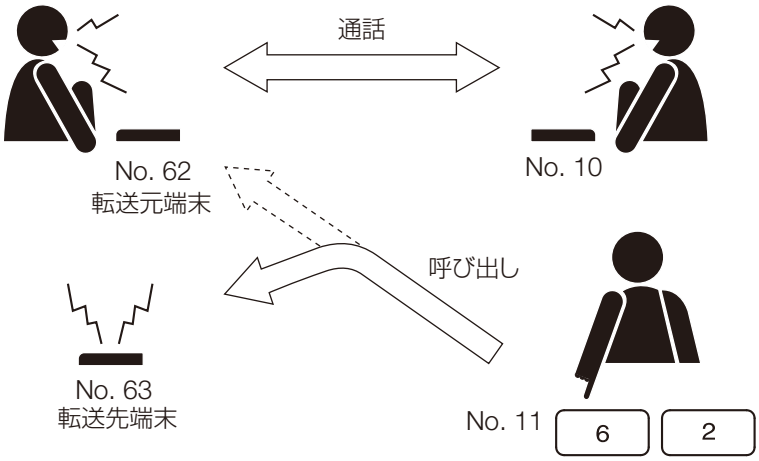
以下の条件のときは転送されません。
- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき（ただし、転送先端末が話中であっても話中転送が設定されているときは、さらに転送されます。）

メ モ

話中転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 下記「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）

[話中転送設定時の動作]

通話中の転送元端末（例：No. 62）にかかってきた呼び出しは、別の指定した転送先端末（例：No. 63）に転送されます。



[設定のしかた]

1 転送元端末で以下のキー操作をして話中転送状態にする。

1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで設定した話中転送先に転送する場合

機能指定番号

機能 1 ［　］［4］［4］［#/▲］（確認音）

1-2 任意の個別端末またはグループを話中転送先に指定して転送する場合

機能指定番号　　転送先端末番号または転送先グループ呼び出し番号

機能 1 ［　］［4］［4］［X］…［X］［#/▲］（確認音）

2 転送元端末で以下のキー操作をして話中転送状態を解除する。

機能指定番号

機能 1 ［　］［4］［4］［#/▲］（確認音）

または

機能指定番号　　転送元端末番号

機能 1 ［　］［4］［4］［Y］…［Y］［#/▲］（確認音）

● 不応答転送

着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に指定の転送先端末に転送されます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も不応答転送されます。

ご注意

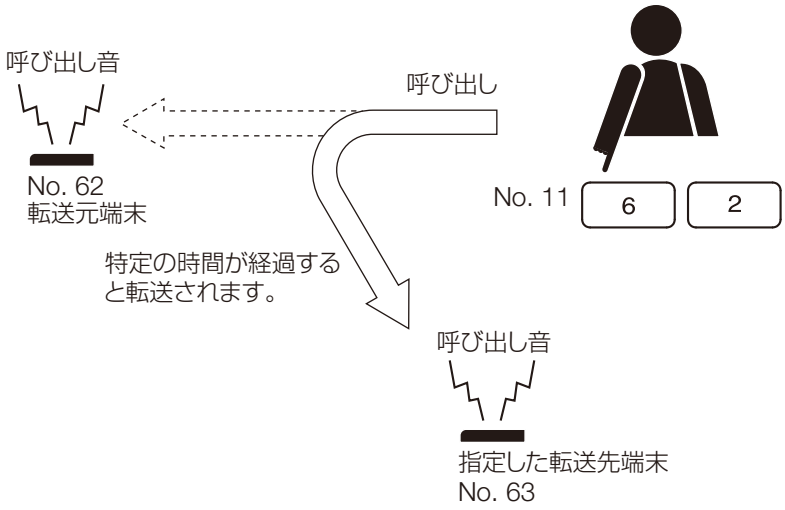
- 転送先端末が待ち受け状態でないときは転送されません。
- 転送先端末が自動転送先として転送元端末を設定している場合、転送先端末を呼び出し続けます。

メ モ

- 不応答転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 下記「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 不応答タイムアウトの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

[不応答転送設定時の動作]

転送元端末（例：No. 62）にかかってきた呼び出しは、応答しないまま特定の時間が経過すると、別の指定した転送先端末（例：No. 63）に転送されます。



[設定のしかた]

1 転送元端末で以下のキー操作をして不応答転送状態にする。

1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで設定した不応答転送先に転送する場合

機能指定番号

機能 1 ［　］［4］［3］［#/▲］（確認音）

1-2 任意の個別端末またはグループを不応答転送先に指定して転送する場合

機能指定番号　　転送先端末番号または転送先グループ呼び出し番号

機能 1 ［　］［4］［3］［X］…［X］［#/▲］（確認音）

2 **転送元端末で以下のキー操作をして不応答転送状態を解除する。**

機能指定番号

機能 1 | 4 | 3 | #/▲ （確認音）

または

機能指定番号　　転送元端末番号

機能 1 | 4 | 3 | Y … Y | #/▲ （確認音）

● 未接続転送

着信端末のネットワークに異常があり、システムマネージャーと通信ができない状態のとき、自動的に指定の転送先端末に転送されます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も未接続転送されます。

ご注意

以下の条件のときは転送されません。

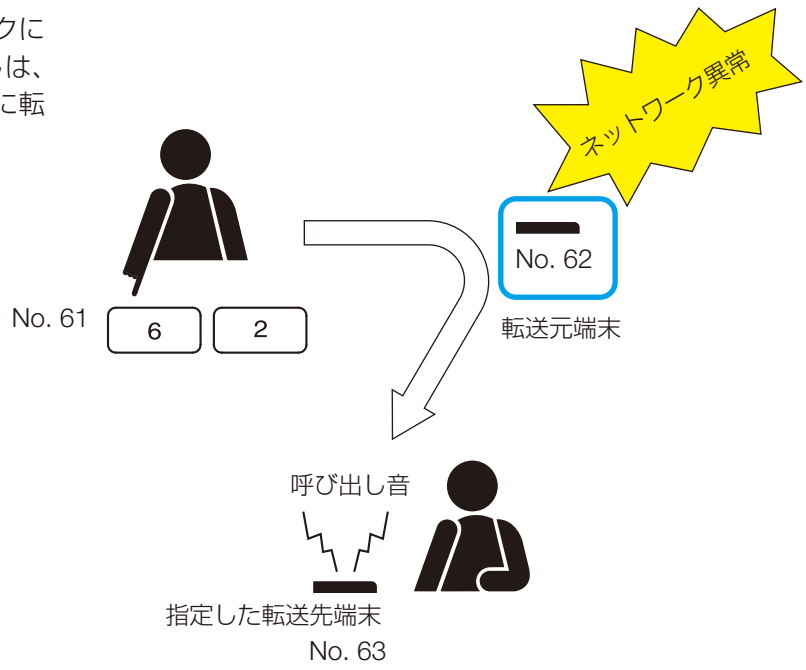
- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき

メ モ

- 未接続転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 3-25「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 外部電話システムに転送するには、発信特番の設定が必要です。発信特番の設定は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

[未接続転送設定時の動作]

転送元端末（例：No. 62）のネットワークに異常があるときにかかってきた呼び出しは、別の指定した転送先端末（例：No. 63）に転送されます。



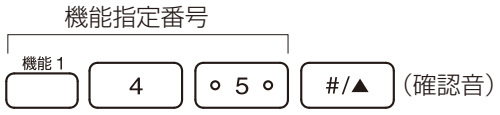
[設定のしかた]

1 転送元端末で以下のキー操作をして未接続転送状態にする。

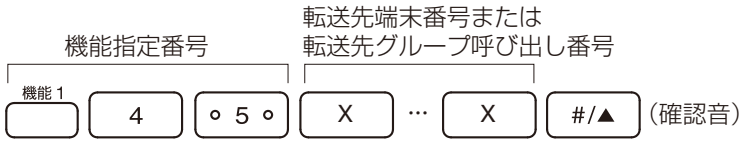
ご注意

端末が CX-SM1000 と通信できる状態のときに操作してください。
すでに未接続で CX-SM1000 と通信していない状態になってから操作しても、何も変化しません。

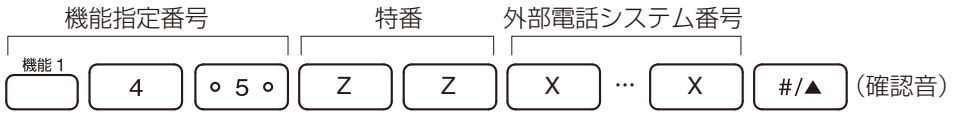
1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで設定した未接続転送先に転送する場合



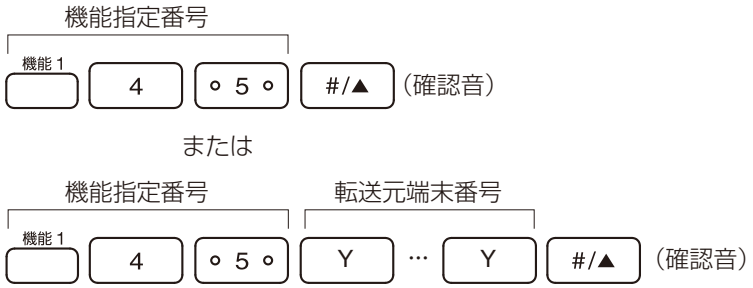
1-2 任意の個別端末またはグループを未接続転送先に指定して転送する場合



1-3 外部電話システムを未接続転送先に指定して転送する場合



2 転送元端末で以下のキー操作をして未接続転送状態を解除する。



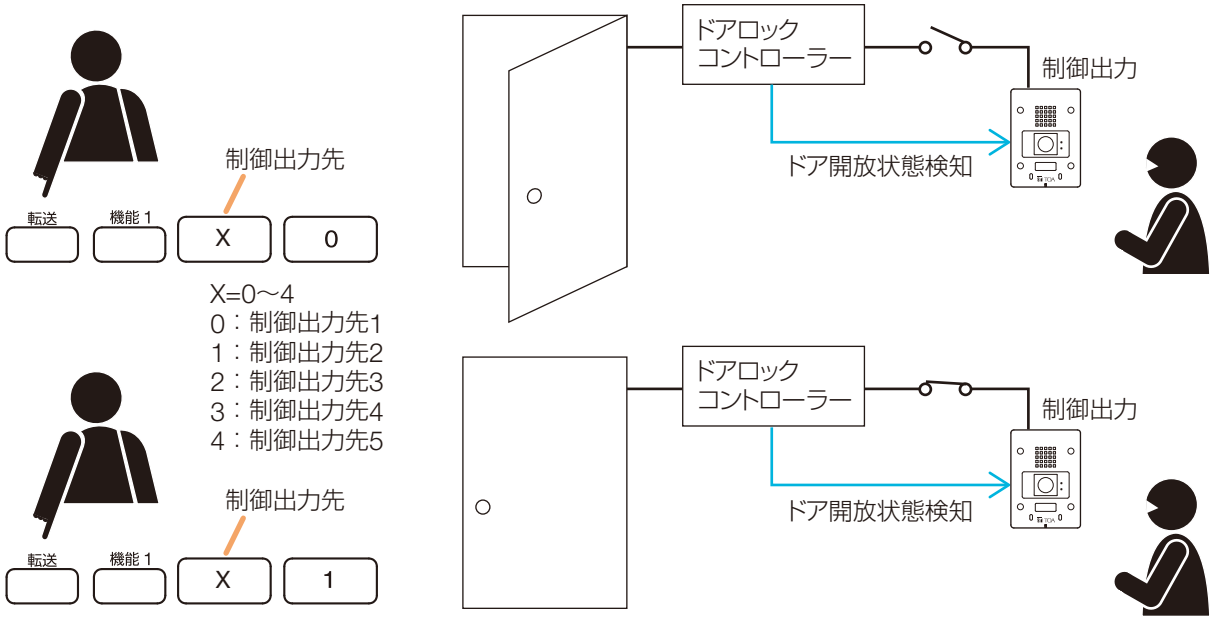
その他の通話機能

■ ドアリモート（CX-OP1700/OP1500 のみ）

通話中にダイヤル操作をすることで制御出力をオン／オフすることができます。
CX-OP1700/OP1500 からの操作により、通話相手の機器ごとに連動する制御出力グループをオン／オフ、または一定時間オンにできます。
例えば、電子錠システムと接続すると、ドアロックの制御ができます。

メ モ

操作により制御する制御出力先を制御出力グループの中から 5 つまで設定できます。
制御出力グループおよびドアリモートの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「制御出力グループの設定」「ドアリモートの設定」）



[制御出力（レベルまたはパルス）をオンにするとき]

手順：2 者通話をしている間に、以下のキー操作をする。

転送　機能 1　X　0

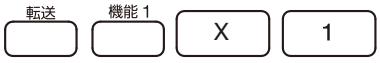
指定した制御出力がオンになります。確認音が鳴って、その後元の通話に戻ります。

メ モ

- [X] はあらかじめ設定されている制御出力先で、0 ～ 4 で指定します。
  0：制御出力先 1、1：制御出力先 2、2：制御出力先 3、3：制御出力先 4、4：制御出力先 5
- 途中で操作をやめる場合は、ダイヤル桁間を 5 秒以上開けるか、機能 1 キーを押してください。

[制御出力（レベル）をオフにするとき]

手順：2 者通話をしている間に、以下のキー操作をする。



指定した制御出力がオフになります。確認音が鳴って、その後元の通話に戻ります。

メ モ

- [X] はあらかじめ設定されている制御出力先で、0 ～ 4 で指定します。
  0：制御出力先 1、1：制御出力先 2、2：制御出力先 3、3：制御出力先 4、4：制御出力先 5
- 途中で操作をやめる場合は、ダイヤル桁間を 5 秒以上開けるか、機能 1 キーを押してください。

■ スピーカー出力切り換え（CX-OP1700/OP1500/CL1750/CL1550 のみ）

通話中の音声、受信した放送の音声、および信号音を、端末の内部スピーカーと外部スピーカーのどちらで出力するかは、端末ごとに CX-1000 設定ソフトウェアであらかじめ設定されています。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）
ハンドセット使用時はハンドセットから出力されます。
ヘッドセット使用時はヘッドセットから出力されます。

■ ビデオプレビュー機能

ビデオプレビュー機能が有効になった CX-CL1750 から発信があった場合、通話の前に CX-CL1750 のカメラ映像を確認することができます。
ビデオプレビュー機能の設定は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

メ モ

- ビデオプレビュー機能は発信端末が CX-CL1750、着信端末が CX-OP1700 の組み合わせでのみ動作する機能です。
- 着信側の CX-OP1700 が別の端末からの着信中や通話中の場合、ビデオプレビュー機能は使用できません。

[ビデオプレビュー機能の着信側の表示と操作（CX-OP1700 のみ）]

ビデオプレビュー機能が設定された端末から呼び出しがあると、呼び出し音が 1 度鳴った後すぐ、相手の音声とカメラ映像が表示されます。
相手と通話を開始する場合はハンドセットを持ち上げるか、PTT キーを押します。

[ビデオプレビュー機能の着信側（OP1700 のみ）の画面遷移]

大画面：通話先カメラ映像
小画面：自機カメラ映像

ビデオ通話が開始されます。

第４章

放送機能と操作のしかた

放送機能

■ 放送機能の概要

端末またはユニットのダイレクトキー、制御入力などをトリガーに、マイク放送、ベースパターン放送、業務パターン放送、業務／ BGM 放送の起動・停止などができます。
この章の「操作例」では CX-RM1700/OP1500/AF1062 を例に説明しますが、基本的な操作や表示は他の端末およびユニットも同様です。CX-CC1016 は、ベースパターン放送、業務パターン放送の起動・停止のみ行えます。
放送配信の項目では、ダイレクトキー設定例（P. 4-3）を基に、操作のしかたを説明します。
タッチパネル対応の液晶画面付きの CX-RM1700 と CX-OP1700 の操作は共通です。
ダイレクトキーを持つユニットの操作は共通です。
制御入力を使う場合は、制御入力につながる外部機器がシステムによって異なるため、操作の説明は本書では行いません。

メ モ

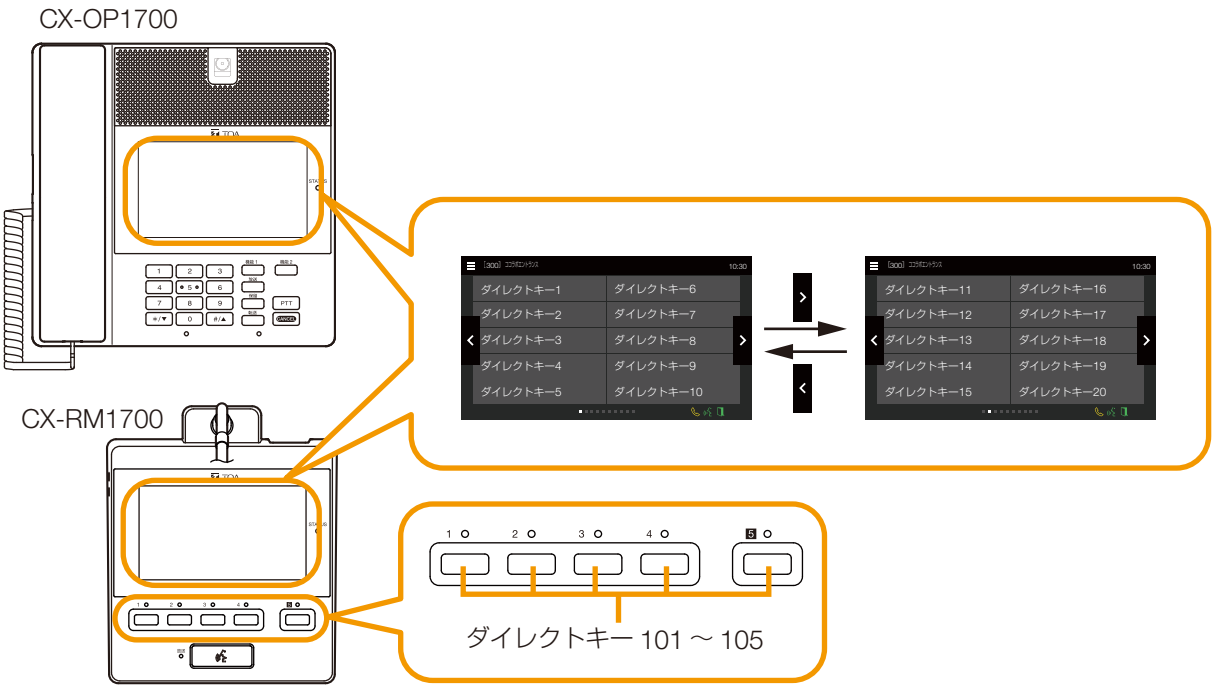
ダイレクトキーおよび制御入力などへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

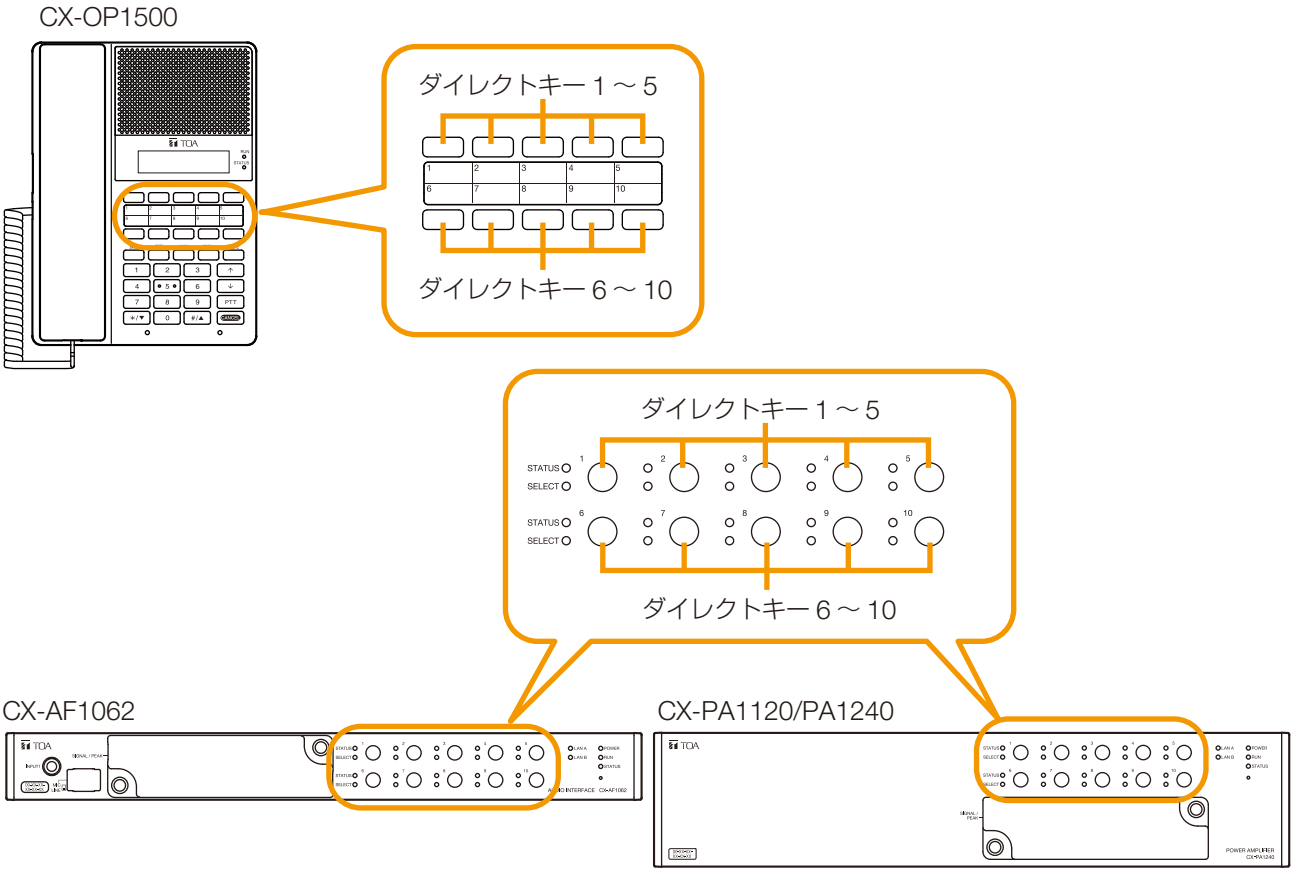
■ ダイレクトキー設定例

この章の「操作例」では以下の設定に基づいて説明します。

項目	機能	機種			
		CX-OP1700	CX-RM1700	CX-OP1500	CX-AF1062 CX-PA1120 CX-PA1240
放送先 1、2、3	放送先選択（パターン）	ダイレクトキー 1			
放送先 1	放送先選択（個別）	ダイレクトキー 2			
放送先 2	放送先選択（個別）	ダイレクトキー 3			
放送先 3	放送先選択（個別）	ダイレクトキー 4			
放送先選択一括クリア	選択されている放送先を解除	ダイレクトキー 5			
業務放送パターン 1	業務放送パターン 1 の放送起動・停止	ダイレクトキー 6			
業務／ BGM 放送	業務または BGM 用途の音源の放送起動・停止	ダイレクトキー 7			
オーディオシーンの変更	オーディオシーン変更（パルス）	ダイレクトキー 10		—	
ボイススタック放送	ボイススタック放送の開始・停止	ダイレクトキー 13		—	
映像確認放送	外部カメラ映像確認、放送先 1 へのマイク放送起動・停止	ダイレクトキー 15		—	
接点ブリッジ	制御出力（パルス）の起動・停止	ダイレクトキー 16		ダイレクトキー 10	
ベースパターン 1	ベースパターン 1 の起動	—	ダイレクトキー 101	—	
ベースパターン 2	ベースパターン 2 の起動	—	ダイレクトキー 102	—	
ベースパターン停止	ベースパターンの終了	—	ダイレクトキー 103	—	
マイク放送	ロック式*、放送開始チャイム：デフォルト、放送終了チャイム：なし	放送キー			—

* CX-OP1700/OP1500 の放送キーはロック式に固定されています。




CX-OP1500
ダイレクトキー 1 ～ 5
ダイレクトキー 6 ～ 10
ダイレクトキー 1 ～ 5
STATUS
SELECT
ダイレクトキー 6 ～ 10
CX-AF1062
CX-PA1120/PA1240

■ 操作例

● 放送先パターンへのマイク放送の例

ダイレクトキーまたは放送先パターン番号の指定により、放送先を選択できます。

ご注意

CX-AF1062/PA1120/PA1240 ではこの操作はできません。

[CX-OP1700/RM1700 でダイレクトキーを使って放送するときの例]

1 ダイレクトキー 1（放送先 1、2、3）を押す。

選択したダイレクトキーの色が変わり、選択状態となります。

メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。

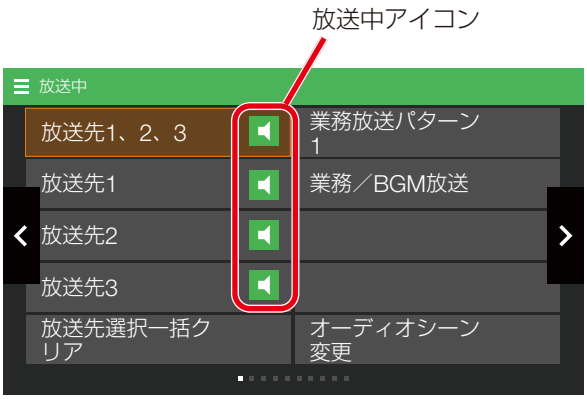
2 放送キーを押す。

放送が開始され、チャイム音が放送されます。このとき画面上部には「放送中」と表示されます。
チャイム放送中は、放送表示灯が緑色に点滅します。

メ モ

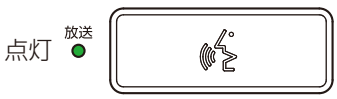
設定により、マイク表示灯も放送表示灯に連動して、点滅、点灯します。

（CX-RM1700 の放送キーの例）



3 放送表示灯が緑色の点灯に変わったら、マイク放送を行う。

ダイレクトキー 2 ～ 4 の放送先設定は、ダイレクトキー 1 の放送先選択パターンに含まれます。そのため、ダイレクトキー 2 ～ 4 にも放送中アイコンが表示されます。



4 放送キーを押す。

放送が終了します。
放送終了時に放送先の選択状態がそのまま維持されるか、選択が解除されるかは、設定により異なります。
ダイレクトキーの色で選択状態を確認できます。

5 **放送先の選択状態が続いている場合に選択を解除したいときは、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押す。**

放送先選択がすべてクリアされます。

メ モ

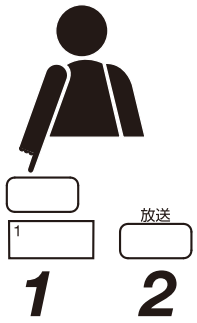
この操作をしないで、放送先選択状態をそのまま残しておき、次回放送時に使用することもできます。

[CX-OP1500 でダイレクトキーを使って放送するときの例]

1 **ダイレクトキー 1（放送先 1、2、3）を押す。**

メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。



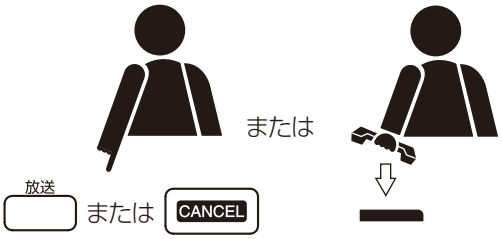
2 **放送キーを押す。**

放送が開始されチャイム音が放送されます。

3 **マイク放送を行う。**

4 **放送キーまたはキャンセルキーを押すか、ハンドセットを置く。**

放送が終了します。



● 個別放送先へのマイク放送の例

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

1 ダイレクトキー 2（放送先 1）とダイレクトキー 3（放送先 2）を押す。

放送先 1、2 が選択され、それぞれのダイレクトキーの色が変わり選択状態となります。

メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。

2 放送キーを押す。

放送が開始され、チャイム音が放送されます。このとき画面上には「放送中」と表示されます。

CX-RM1700 の場合、チャイム放送中は放送表示灯が緑色に点滅し、チャイム放送が終了すると点灯に変わります。設定により、マイク表示灯も放送表示灯に連動して、点滅、点灯します。

メ モ

CX-OP1700 の場合、放送表示灯およびマイク表示灯はありません。

（CX-RM1700 の放送キーの例）

3 チャイム放送が終了したら、マイク放送を行う。

4 放送キーを押す。

放送が終了します。

CX-OP1700 の場合は、放送が終わっても放送先選択状態は維持されます。

CX-RM1700 の場合は、放送終了時に放送先の選択状態がそのまま維持されるか、選択が解除されるかは、設定により異なります。

ダイレクトキーの色で選択状態を確認できます。

5 放送先の選択状態が続いている場合に選択を解除したいときは、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押す。

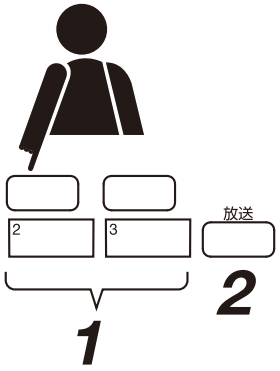
放送先選択がすべてクリアされます。

メ モ

この操作をしないで、放送先選択状態をそのまま残しておき、次回放送時に使用することもできます。

[CX-OP1500 の場合]

1 ダイレクトキー 2（放送先 1）とダイレクトキー 3（放送先 2）を押す。



メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。

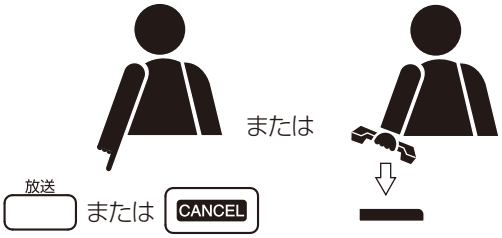
2 放送キーを押す。

放送が開始されチャイム音が放送されます。

3 マイク放送を行う。

4 放送キーまたはキャンセルキーを押すか、ハンドセットを置く。

放送が終了します。



● あらかじめ設定された放送先へマイク放送をする例（CX-OP1700/OP1500/RM1700 のみ）

放送する放送先パターンまたは個別の放送先を CX-OP1700/OP1500/RM1700 の放送キーにあらかじめ設定しておくと、放送キーを押すだけで、あらかじめ設定された放送先に放送することができます。

メ モ

放送先パターンまたは個別の放送先を放送キーに割り当てる方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書の「イベント起動の設定」をお読みください。

1 放送キーを押す。

放送が開始され、チャイム音が放送されます。
CX-RM1700 の場合、チャイム放送中は放送表示灯が緑色に点滅し、チャイム放送が終了すると点灯に変わります。
設定により、マイク表示灯も放送表示灯に連動して、点滅、点灯します。

（CX-RM1700 の放送キーの例）

2 チャイム放送が終了したら、マイク放送を行う。

3 放送キーを押す。

放送が終了します。

● ベースパターン放送の例

例えば、午前中にベースパターン 1 のベースパターン放送を行い、午後にベースパターン 2 のベースパターン放送に切り換えた後、ベースパターン放送を終了するときは、次の手順で操作します。

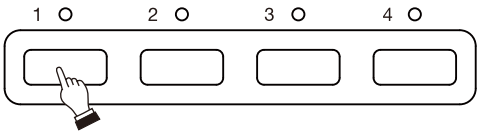
[CX-RM1700 の場合]

1 ダイレクトキー 101（ベースパターン 1）を押す。

ベースパターン 1 が選択され、起動します。

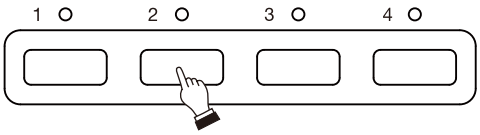
メ モ

選択を解除するときは、ダイレクトキー 103（ベースパターン停止）を押します。



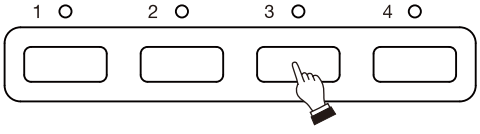
2 ダイレクトキー 102（ベースパターン 2）を押す。

ベースパターン 2 が選択され、ベースパターン 1 が終了して、ベースパターン 2 が起動します。



3 ダイレクトキー 103（ベースパターン停止）を押す。

ベースパターン 2 が終了します。



● 業務放送の例

ご注意

業務放送パターンを起動、停止するときは、放送が起動中か停止中かを確認した上で操作してください。
業務放送パターンと連動した制御出力グループを設定しておくと、その制御出力状態を確認することで、放送が起動中か停止中かわかりやすくなります。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

1 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）を押す。

業務放送パターン 1 が選択され、起動します。
ダイレクトキー 6 の色が変わり選択状態となります。

2 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）をもう一度押す。

起動中の業務放送パターン 1 が停止します。
ダイレクトキー 6 の色が元に戻ります。

[CX-OP1500 の場合]

1 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）を押す。

業務放送パターン 1 が選択され、起動します。

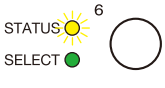
2 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）をもう一度押す。

起動中の業務放送パターン 1 が停止します。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合]

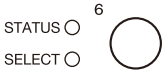
1 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）を押す。

業務放送パターン 1 が選択され、起動します。
ダイレクトキー 6 の選択表示灯が緑色に点灯、状態表示灯が黄色に点滅します。



2 ダイレクトキー 6（業務放送パターン 1）をもう一度押す。

起動中の業務放送パターン 1 が停止します。
ダイレクトキー 6 の選択表示灯と状態表示灯が消灯します。



● 業務／ BGM 放送の例

ここでは、放送先パターンを使用した例について説明します。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

1 **ダイレクトキー 1（放送先 1、2、3）を押す。**

選択したダイレクトキーの色が変わり、選択状態となります。

メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。

2 **ダイレクトキー 7（業務／ BGM 放送）を押す。**

選択した放送先に業務または BGM 用途の音源が放送されます。

ダイレクトキー 7 の色が変わり、選択状態となります。放送中アイコンも表示されます。

また、ダイレクトキー 1 ～ 4 にも放送中アイコンが表示されます。

メ モ

- BGM 放送のとき、液晶画面のヘッダーは緑色には変わりません。
- リモートマイクからのマイク放送中にこの操作を行った場合、業務／ BGM 放送に割り当てられた音源の優先度の方が高いときは、マイク放送が終了します。

[CX-OP1500 の場合]

1 **ダイレクトキー 1（放送先 1、2、3）を押す。**

設定されているすべての放送先が選択されます。

メ モ

選択を解除するときは、選択済みのダイレクトキーをもう一度押すか、ダイレクトキー 5（放送先選択一括クリア）を押します。

2 **ダイレクトキー 7（業務／ BGM 放送）を押す。**

選択した放送先に業務または BGM 用途の音源が放送されます。

● ボイススタックを使った放送のしかた（CX-OP1700/RM1700 のみ）

あらかじめ録音した音声を放送することができます。
録音時間は 1 分間です。1 分を超えると、それ以降の音声は録音されません。

ご注意

- 録音中に着信や放送が入ると、録音中のデータは正しく録音できません。
- CX-OP1700 では、録音の開始から終了まで、ハンドセットを持ち上げた状態で操作してください。
- 設定アップロードによりボイススタック機能を設定した端末の持つ設定が更新された場合、録音済みのデータは削除されます。
- 放送送信中の端末からは、ボイススタック放送はできません。

[録音と放送のしかたの例]

1 ダイレクトキー 1（放送先 1、2、3）を押す。

ボイススタック放送をしたい放送先をあらかじめ選択します。
ダイレクトキー 1 の色が変わり、選択状態となります。

2 ダイレクトキー 13（ボイススタック放送）を押す。

ダイレクトキー 13 の色が変わり、録音開始画面が表示されます。

3 録音開始ボタンを押す。

録音が開始されます。
1 分間を超えると、それ以降の音声は録音されません。

4 録音終了ボタンを押す。

録音が終了し、再生ボタンが有効になります。

5 **再生ボタンを押す。**

録音した音声が再生されます。
録音し直したい場合は、**手順 3** に戻り、再度録音開始ボタンを押します。

6 **放送開始ボタンを押す。**

待ち受け画面に戻り、ダイレクトキー 13（ボイススタック放送）に放送中アイコンが表示されます。

放送が終了すると、選択したダイレクトキー 1 およびダイレクトキー 13（ボイススタック放送）の色が変わり未選択状態に戻ります。

● 映像確認放送（CX-OP1700/RM1700 のみ）

1 **ダイレクトキー 15（映像確認放送）を押す。**

あらかじめ設定されたカメラ映像に切り換わります。

2 **放送アイコンを押す。**

放送先 1 が選択され、マイク放送が開始されます。

メ モ

放送キーを押しても、放送が開始できます。

3 **マイク放送をする。**

4 **もう一度、放送アイコンを押す。**

放送が停止します。

メ モ

放送キーを押しても、放送を停止できます。

5 **液晶画面ヘッダー部の戻るボタンを押す。**

待ち受け画面に戻ります。

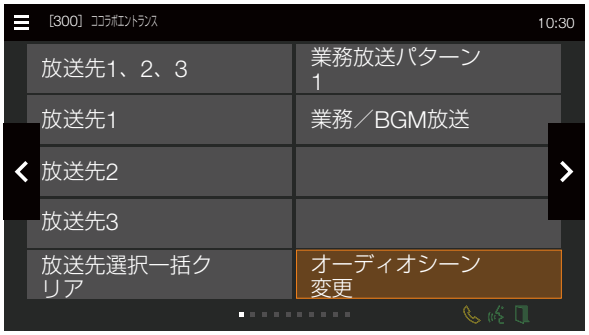
ご注意

映像確認放送を開始する前に別の放送をすでに開始しており、その放送の放送種別と映像確認放送の放送種別（通常放送／広域放送）が異なる場合、**手順 2** で放送アイコンを押すと先に開始した放送が停止し、もう一度押すとその放送が再開されます。この場合は映像確認放送に割り当てた放送先に放送されません。
先に開始した放送と映像確認放送の放送種別が同じ場合、**手順 2** で放送アイコンを押すと、先に開始した放送に映像確認放送の放送先が追加されます。

● オーディオシーンの切り換え

手順：ダイレクトキー 10（オーディオシーン変更）を押す。

オーディオシーンが切り換わります。
CX-RM1700/OP1700 では、選択したダイレクトキーの色が変わり、選択状態となります。



外部機器制御

外部機器制御の項目でも、ダイレクトキー設定例（P. 4-3）を基に、操作のしかたを説明します。

■ 接点ブリッジを操作する

ダイレクトキーを使って、任意の制御出力を操作することができます。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

1 ダイレクトキー 16（接点ブリッジ）を押す。

ダイレクトキー 16 の色が変わり選択状態となります。接点ブリッジに割り当てられた制御出力がオンとなり、ON アイコンが表示されます。

2 もう一度、ダイレクトキー 16（接点ブリッジ）を押す。

ダイレクトキー 16 の色が元に戻って、制御出力がオフとなり、ON アイコンが消えます。

[CX-OP1500 の場合]

1 ダイレクトキー 10（接点ブリッジ）を押す。

接点ブリッジに割り当てられた制御出力がオンになります。

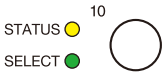
2 もう一度、ダイレクトキー 10（接点ブリッジ）を押す。

制御出力がオフになります。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合]

1 ダイレクトキー 10（接点ブリッジ）を押す。

接点ブリッジに割り当てられた制御出力がオンになり、状態表示灯が黄色に点灯します。

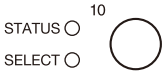


ご注意

キーを押していないのに状態表示灯が黄色に点灯しているときは、キーを押しても、操作が無効になります。
制御出力が他のキー操作で操作が無効になっているときなどの場合です。

2 もう一度、ダイレクトキー 10（接点ブリッジ）を押す。

制御出力がオフになり、状態表示灯が消灯します。



第５章

緊急モード機能と操作のしかた

緊急モードの使いかた

■ 緊急モードを起動する方法

緊急モードは、ダイレクトキーまたは制御入力により、緊急メッセージ放送パターンを開始することで、起動することができます。

■ 設定例

本章では、以下の設定例をもとに操作のしかたを説明します。

項目名	機能	機種				
		CX-OP1700 CX-RM1700	CX-OP1500	CX-CL1750 CX-CL1550	CX-AF1062 CX-PA1120 CX-PA1240	CX-CC1016
緊急メッセージ放送パターン	緊急メッセージ放送パターンの起動	ダイレクトキー１	—	—	制御入力２	制御入力２
緊急メッセージ放送パターン	緊急メッセージ放送パターンの停止	ダイレクトキー２	—	—	制御入力３	制御入力３
緊急シーケンス停止	緊急シーケンスの停止	ダイレクトキー４	—	—	制御入力５	制御入力５
緊急シーケンスフェーズ移行	緊急シーケンスフェーズ移行	ダイレクトキー５	—	—	制御入力６	制御入力６
緊急復旧	緊急モードを終了	ダイレクトキー６	—	—	制御入力７	制御入力７
放送先 1、2、3	放送先選択（パターン）	ダイレクトキー８	—	—	—	—

ご注意

ダイレクトキーに緊急メッセージ放送などを設定する場合は、先に端末の用途を「業務・緊急」に設定してください。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

メ モ

ダイレクトキーおよび制御入力の機能は、CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

■ 緊急メッセージ放送の操作のしかた

● 緊急メッセージ放送パターンの起動と停止

緊急メッセージ放送パターンを起動することにより、緊急モードを起動することができます。
緊急メッセージ放送パターンを手動で起動するには、設定によりいくつかの方法があります。

[CX-OP1700/RM1700 で複数のダイレクトキーを使って操作する場合]

1 ダイレクトキー１（緊急メッセージ放送パターン起動）を押す。

通常モードから起動した場合は、端末が所属する拠点*および緊急メッセージ放送パターンの放送先の機器が所属する拠点*が緊急モードになります。
緊急メッセージ放送パターンが選択され、起動します。
ダイレクトキー１の色が変わり、放送中アイコンが表示されます。

* 拠点設定がない場合はシステム全体が緊急モード表示になります。拠点設定について詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「拠点機能」「全般の設定」「拠点の設定」をお読みください。

2 ダイレクトキー２（緊急メッセージ放送パターン停止）を押す。

起動中の緊急メッセージ放送パターンが停止します。
ダイレクトキー１の放送中アイコンが消えます。
緊急モードは継続します。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 で複数の制御入力を使って操作する場合]

1 制御入力２（緊急メッセージ放送パターン起動）をオンにする。

通常モードから起動した場合は、ユニットが所属する拠点*および緊急メッセージ放送パターンの放送先の機器が所属する拠点*が緊急モードになります。
緊急メッセージ放送パターンが選択され、起動します。

* 拠点設定がない場合はシステム全体が緊急モード表示になります。拠点設定について詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「拠点機能」「全般の設定」「拠点の設定」をお読みください。

2 制御入力３（緊急メッセージ放送パターン停止）をオンにする。

起動中の緊急メッセージ放送パターンが停止します。
緊急モードは継続します。

● 緊急シーケンスフェーズ移行

緊急メッセージ放送パターンの起動中に、手動で、設定に応じた緊急メッセージ放送パターンのフェーズを次に進めることができます。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

手順：ダイレクトキー 5（緊急シーケンスフェーズ移行）を押す。

緊急シーケンスの次のフェーズに移行します。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の場合]

手順：制御入力 6（緊急シーケンスフェーズ移行）をオンにする。

緊急シーケンスの次のフェーズに移行します。

● 緊急シーケンス停止

緊急メッセージ放送パターンの起動中に、手動で緊急シーケンスを停止することができます。
緊急モードは継続します。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

手順：ダイレクトキー 4（緊急シーケンス停止）を押す。

緊急メッセージ放送パターンで起動中の緊急シーケンスが停止します。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の場合]

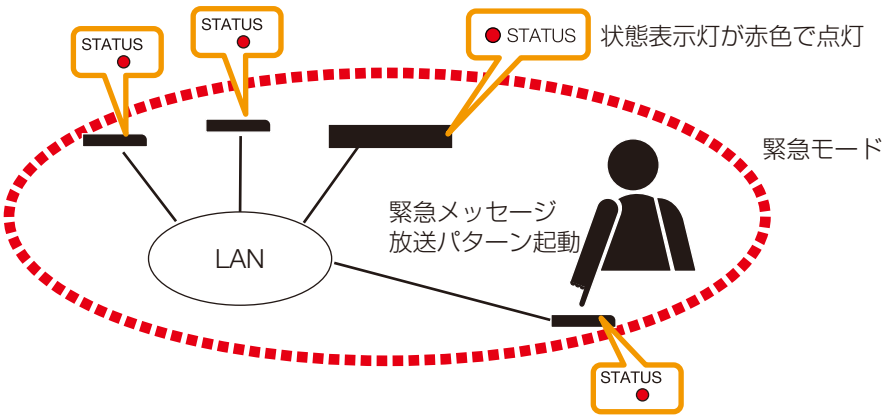
手順：制御入力 5（緊急シーケンス停止）をオンにする。

緊急メッセージ放送パターンで起動中の緊急シーケンスが停止します。

緊急モードになったら

■ 緊急モード時の動作

- 緊急モードになると、緊急メッセージ放送パターンを起動した機器および緊急メッセージ放送パターンの放送先の機器が所属する拠点*に含まれるすべての機器が緊急モード表示になります。
  * 拠点設定がない場合はシステム全体が緊急モード表示になります。拠点設定について詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「拠点機能」「全般の設定」「拠点の設定」をお読みください。



- CX-PA1120/PA1240 の音声出力の ATT 制御が有効に設定されている場合、緊急放送、緊急メッセージ放送は CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター制御出力がオンになり、接続されたアッテネーターがバイパスされます。
- 各機器の状態表示灯は赤色で点灯します。
- CX-OP1700/RM1700 の液晶画面のヘッダー部が赤色になります。

- 用途が「業務・緊急」に設定されている端末からの放送は、すべて緊急放送になります。

■ 緊急放送

用途が「業務・緊急」に設定されている端末またはタッチパネルリモコンからの放送は、緊急モードが起動されると、すべて緊急放送になります。
放送のしかたは、通常モードのときと同じです。

緊急復旧

緊急モードを通常モードに戻すには、緊急復旧の操作が必要です。
P. 5-2 の「設定例」をもとに、操作のしかたを説明します。

[CX-OP1700/RM1700 の場合]

手順：ダイレクトキー 6（緊急復旧）を押す。

端末が所属する拠点の緊急モードが終了し、通常モードになります。
復旧メッセージが設定されているときは、緊急復旧放送が開始されます。

ご注意

- 緊急復旧放送は手動で停止することはできません。
- 緊急モード終了時に緊急放送を行っていた場合、強制的に終了します。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の場合]

手順：制御入力 7（緊急復旧）をオンにする。

ユニットが所属する拠点の緊急モードが終了し、通常モードになります。
復旧メッセージが設定されているときは、緊急復旧放送が開始されます。

ご注意

- 緊急復旧放送は手動で停止することはできません。
- 緊急モード終了時に緊急放送を行っていた場合、強制的に終了します。

メ モ

- 緊急復旧時の動作は、CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）
- 復旧放送の放送先は、復旧操作がされる直前の緊急メッセージ放送パターンのフェーズに属する放送先になります。

第６章

外部システムとの接続

外部電話システムとの接続

■ 外部電話システムとの通話のしかた

ハンズフリー通話、ハンドセット通話、ヘッドセット通話が可能です。

ご注意

PTT キーによる交互通話はできません。

■ 外部電話システムへの発信

VoIP アダプターまたは IP-PBX を使うと、他の電話システムを呼び出すことができます。

メ モ

IP-PBX をお使いの場合は、各メーカーの使用方法に従ってください。

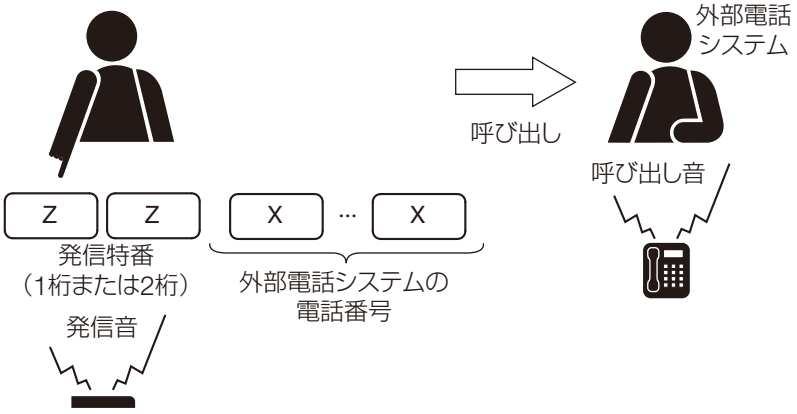
● 発信（ダイヤルキーを使った操作）

1 **発信特番を押す。**

外部電話システムと接続できます。

2 **外部電話システムからの発信音を確認して、電話番号をダイヤルする。**

外部電話システムの電話機を呼び出します。



メ モ

- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。

● ダイレクトキー

ダイレクトキーに「発信特番＋外部電話システム番号」を登録しておくと、ダイレクトキーを押すだけで、外部電話システムの電話と接続し、外部電話システムの電話を呼び出すことができます。

ご注意

使用する VoIP アダプターまたは IP-PBX によっては、DTMF の送信が失敗することがあります。そのような場合は、DTMF 送信遅延の時間を調節してください。DTMF 送信遅延の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

メ モ

- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- ダイレクトキーにワンタッチダイヤルの機能を割り当て、番号を登録します。機能の割り当ておよび番号の登録は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

● 電話帳

電話帳に「発信特番＋外部電話システム番号」を登録しておくと、電話帳からの選択で、外部電話システムの電話と接続し、外部電話システムの電話を呼び出すことができます。
電話帳からの呼び出し方は CX-1000 シリーズ端末を呼び出す場合と同じです。（☞ P. 3-4「電話帳（CX-OP1700 のみ）」）

メ モ

- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 電話帳への登録は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「電話帳の設定」）

■ 外部電話システムへの転送

● 手動転送

2 者通話状態から、外部電話システムの電話機を呼び出して通話（元の通話相手は一時保留）し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と外部電話システムの通話状態にする（転送）ことができます。

ご注意

外部電話システムとの通話中、その通話を別の外部電話システム番号に転送することはできません。

メ モ

- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

1 2 者間で通話をしている間に、転送キーを押す。

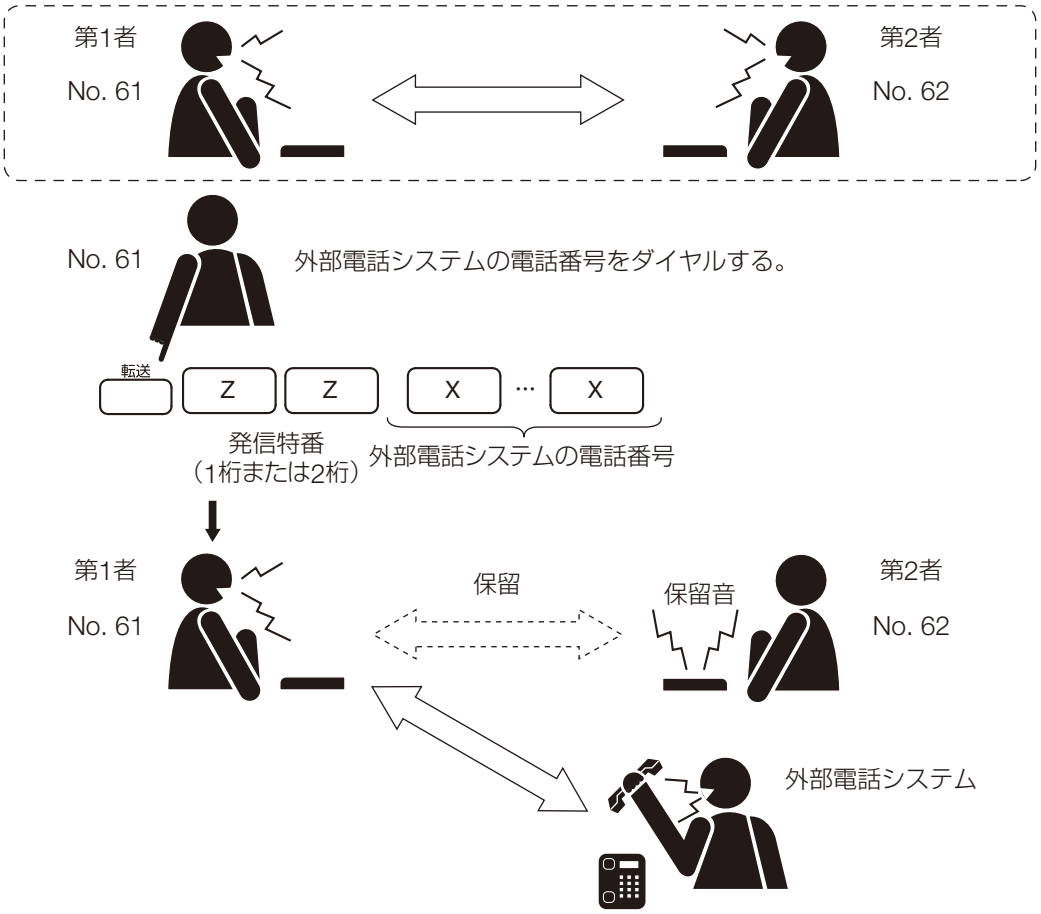
現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

2 発信特番を押す。

外部電話システムと接続します。

3 外部電話システムの電話番号をダイヤルする。

外部電話システムが応答すると、第 1 者は、元の通話を保留したまま外部電話システムの相手と通話をすることができます。

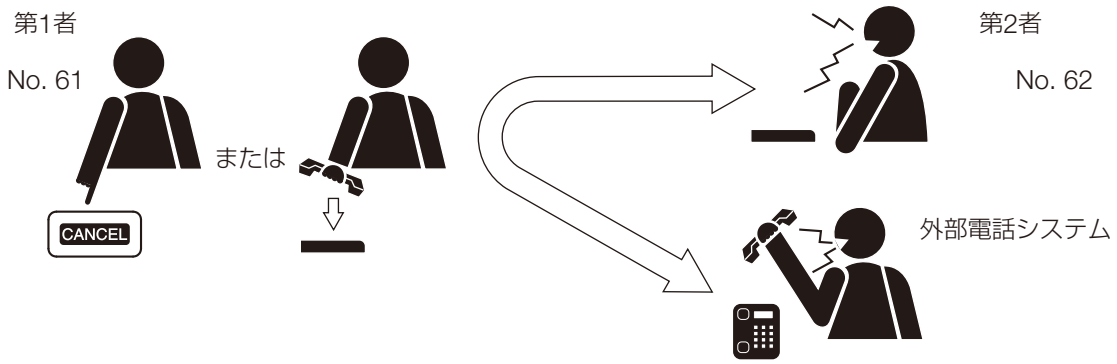


外部電話システムとの通話が終わった後、第 1 者は、第 2 者との通話を外部電話システムへ転送するか、元の通話に戻ることができます。

4 外部電話システムへ転送する、または元の通話に戻る。

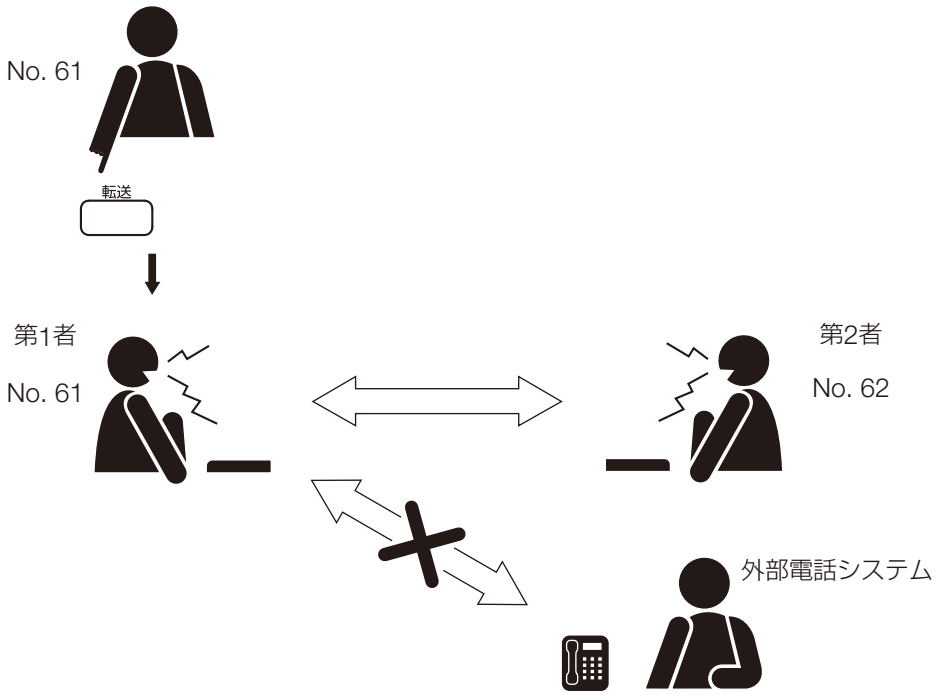
4-1 外部電話システムへ転送する場合

保留されている相手に外部電話システムをつなぐには、キャンセルキーを押すか、ハンドセットを置いてください。
第 2 者と外部電話システムの通話状態となります。



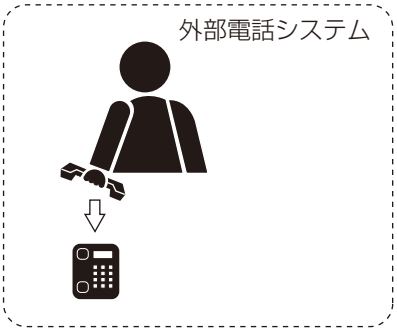
4-2 元の通話に戻る場合

転送せずに元の通話に戻るには、もう一度転送キーを押してください。
元の 2 者間通話に戻ります。



メ モ

第 1 者が転送キーを押さず、外部電話システムの電話機が終話状態になった場合でも、元の通話に戻ります。



● 自動転送

[外部電話システム不在転送]

不在転送（☞ P. 3-19）の転送先を外部電話システムに設定することができます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も外部電話システムに不在転送されます。

ご注意

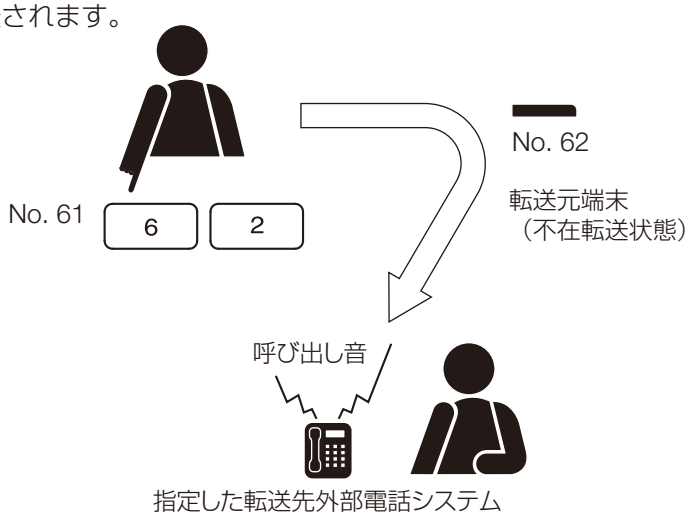
外部電話システムからの着信に対しての転送は行われず、転送元の端末が呼び出されます。

メ モ

- 不在転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 下記「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。以降、その外部電話システムが不在転送先になります。

・外部電話システム不在転送時の動作

不在転送に設定した転送元端末にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した外部電話システムに自動的に転送されます。



・設定のしかた

1 転送元端末で以下のキー操作をして不在転送状態にする。

1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで不在転送先が設定されている場合

機能指定番号

機能 1 | 4 | 1 | #/▲ （確認音）

1-2 外部電話システムを転送先に設定する場合

機能指定番号　発信特番（1桁または2桁）　転送先外部電話システムの電話番号

機能 1 | 4 | 1 | Z | Z | X | … | X | #/▲ （確認音）

2 転送元端末で以下のキー操作をして不在転送状態を解除する。

機能指定番号

機能 1 | 4 | 1 | #/▲ （確認音）

または

機能指定番号　　転送元端末番号

機能 1 | 4 | 1 | Y … Y | #/▲ （確認音）

[時刻連動外部電話システム不在転送]

時刻連動不在転送（☞ P. 3-21）の転送先を外部電話システムに設定することができます。
あらかじめ設定された日の設定された時間帯に、転送元端末が不在転送状態になります。その時間帯に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に指定の外部電話システムに転送されます。

ご注意

外部電話システムからの着信に対しての転送は行われず、転送元の端末が呼び出されます。

メ モ

- 時刻連動不在転送先の設定、時刻連動不在転送をする端末の設定、および不在転送状態になる時間帯の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」「時刻連動不在転送パターンの設定」「プログラムタイマーの設定」）
- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。以降、その外部電話システムが不在転送先になります。

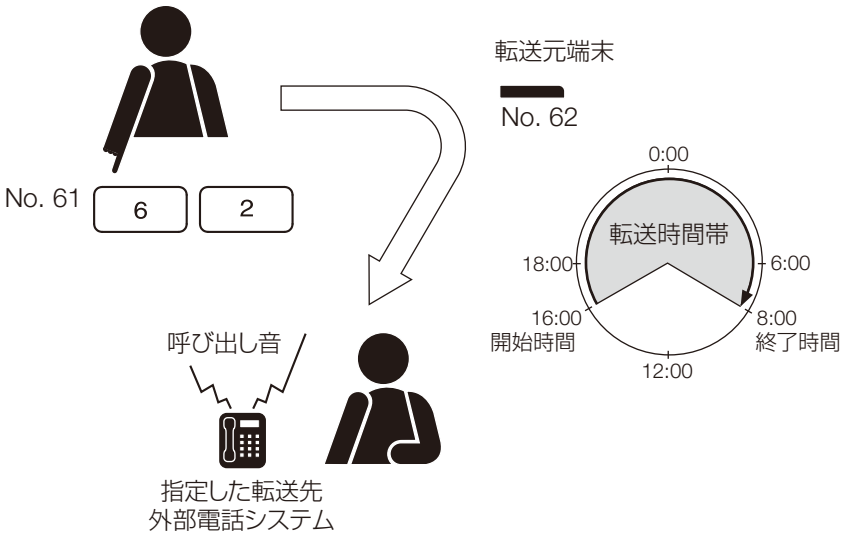
・時刻連動外部電話システム不在転送時の動作

1. あらかじめ設定された転送開始時間になると、転送元端末の液晶画面に次のように表示され、端末が時刻連動不在転送状態に入ったことを示します。

［不在転送設定中の CX-OP1700 の液晶画面］

［不在転送設定中の CX-OP1500 の液晶画面］

2. 不在転送に設定した転送元端末にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した外部電話システムに自動的に転送されます。



[外部電話システム話中転送]

話中転送（☞ P. 3-22）の転送先を外部電話システムに設定することができます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も外部電話システムに話中転送されます。

ご注意

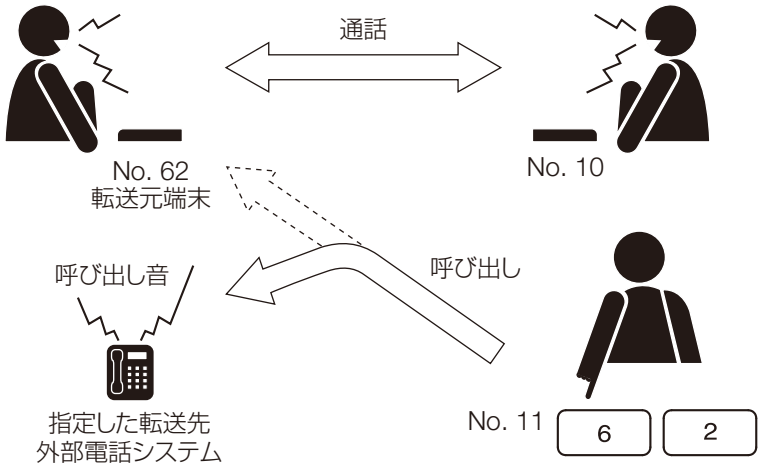
外部電話システムからの着信に対しての転送は行われず、転送元の端末が呼び出されます。

メ モ

- 話中転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 6-9「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。以降、その外部電話システムが話中転送先になります。

・外部電話システム話中転送時の動作

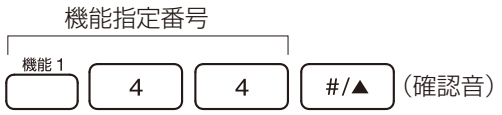
通話中の転送元端末（例：No. 62）にかかってきた呼び出しは、指定した外部電話システムに転送されます。



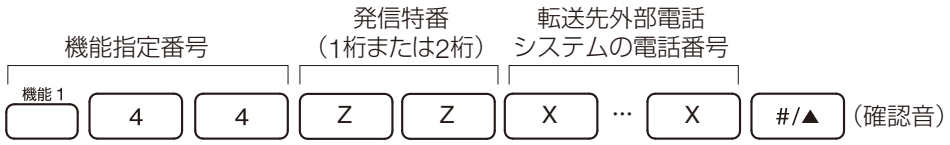
・設定のしかた

1 転送元端末で以下のキー操作をして話中転送状態にする。

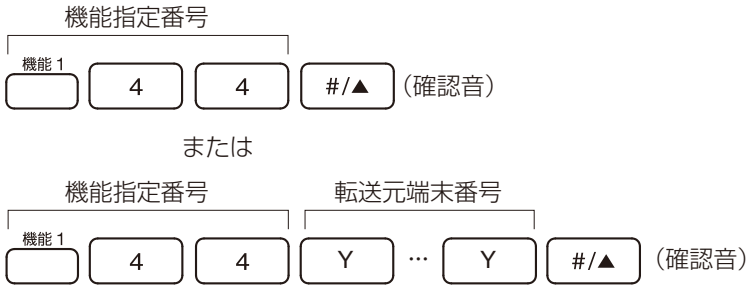
1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで話中転送先が設定されている場合



1-2 外部電話システムを転送先に設定する場合



2 転送元端末で以下のキー操作をして話中転送状態を解除する。



[外部電話システム不応答転送]

不応答転送（☞ P. 3-23）の転送先を外部電話システムに設定することができます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も外部電話システムに不応答転送されます。

ご注意

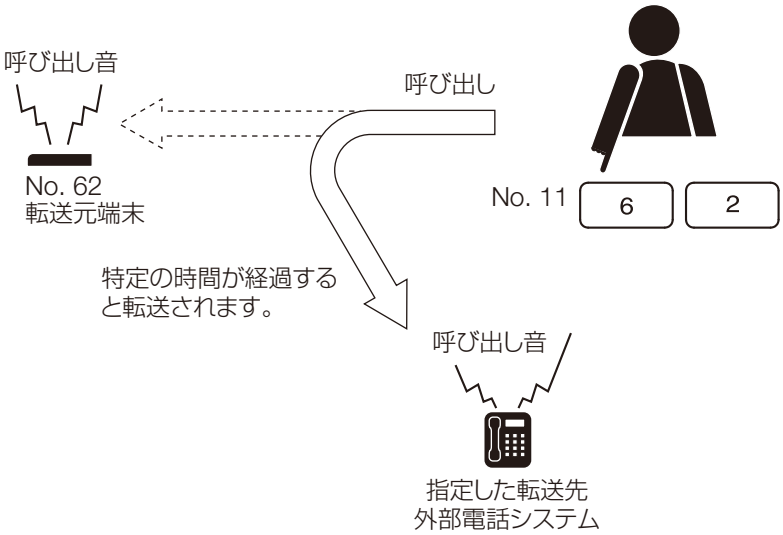
外部電話システムからの着信に対しての転送は行われず、転送元の端末が呼び出されます。

メ モ

- 不応答転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 下記「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 不応答タイムアウトの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。以降、その外部電話システムが不応答転送先になります。

・外部電話システム不応答転送設定時の動作

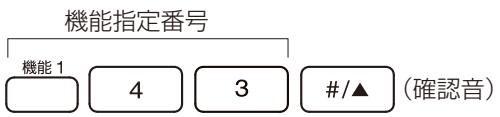
転送元端末（例：No. 62）にかかってきた呼び出しは、応答しないまま特定の時間が経過すると、別の指定した外部電話システムに転送されます。



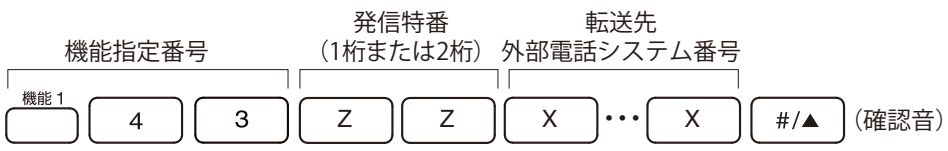
・設定のしかた

1 転送元端末で以下のキー操作をして不応答転送状態にする。

1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで不応答転送先が設定されている場合



1-2 外部電話システムを転送先に設定する場合



2 転送元端末で以下のキー操作をして不応答転送状態を解除する。

機能指定番号

機能 1 | 4 | 3 | #/▲ （確認音）

または

機能指定番号　　転送元端末番号

機能 1 | 4 | 3 | Y … Y | #/▲ （確認音）

[外部電話システム未接続転送]

未接続転送（☞ P. 3-24）の転送先を外部電話システムに設定することができます。
通話中からの呼び出し（☞ P. 3-17「転送（CX-OP1700/OP1500 のみ）」）も未接続転送されます。

メ モ

- 未接続転送先の設定は、端末の操作または CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 6-12「設定のしかた」および別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「転送動作の設定」）
- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システムへの発信の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

・外部電話システム未接続転送設定時の動作

転送元端末（例：No. 62）のネットワークに異常があるときにかかってきた呼び出しは、指定の外部電話システムの電話に転送されます。

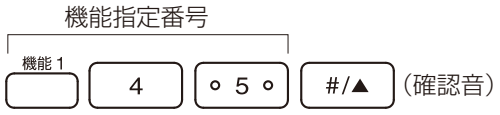
・設定のしかた

1 転送元端末で以下のキー操作をして未接続転送状態にする。

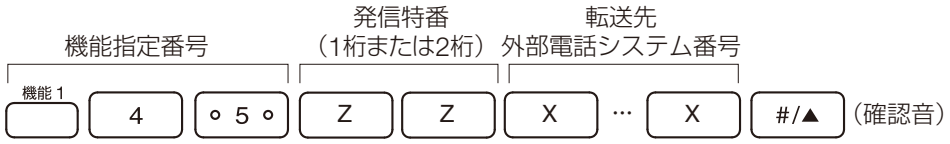
ご注意

端末が CX-SM1000 と通信できる状態のときに操作してください。
すでに未接続で CX-SM1000 と通信していない状態になってから操作しても、何も変化しません。

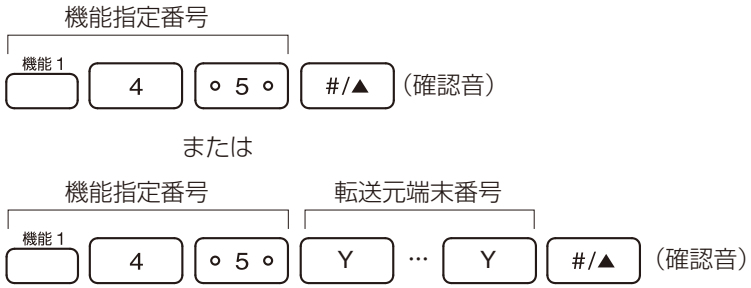
1-1 CX-1000 設定ソフトウェアで未接続転送先が設定されている場合



1-2 外部電話システムを転送先に設定する場合



2 転送元端末で以下のキー操作をして未接続転送状態を解除する。



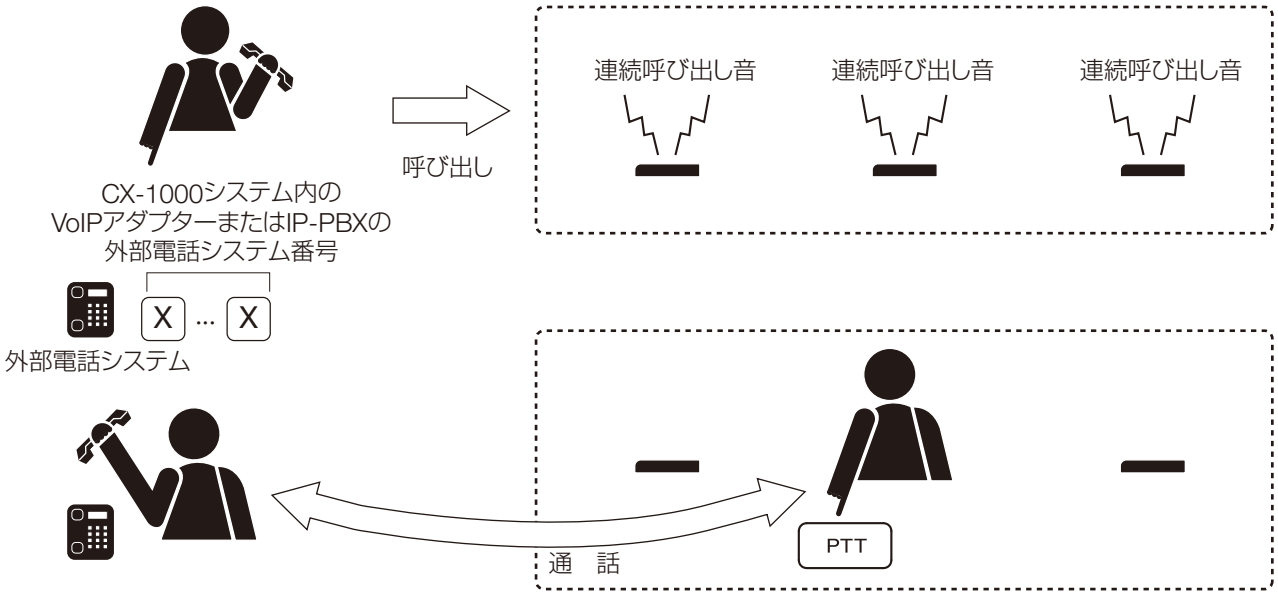
■ 外部電話システムからの着信

外部電話システムから着信を受ける機能には、ダイレクトインラインとダイレクトインダイヤルの 2 種類があります。
外部電話システムからの着信を受けたときの呼び出し音は、他の場合と異なります。

● ダイレクトインラインによる呼び出し

外部電話システムからの着信があった場合、あらかじめ設定した端末で呼び出し音が鳴ります。
着信先として端末グループを設定することもできます。
外部電話システムからは、CX-1000 システム内の VoIP アダプターまたは IP-PBX の外部電話システム番号をダイヤルします。
応答のしかたは、CX-1000 システム内の端末からの着信時と同じで、ハンドセットを持ち上げるか、PTT キーを押して応答します。

[端末グループで着信したときの例]



メ モ

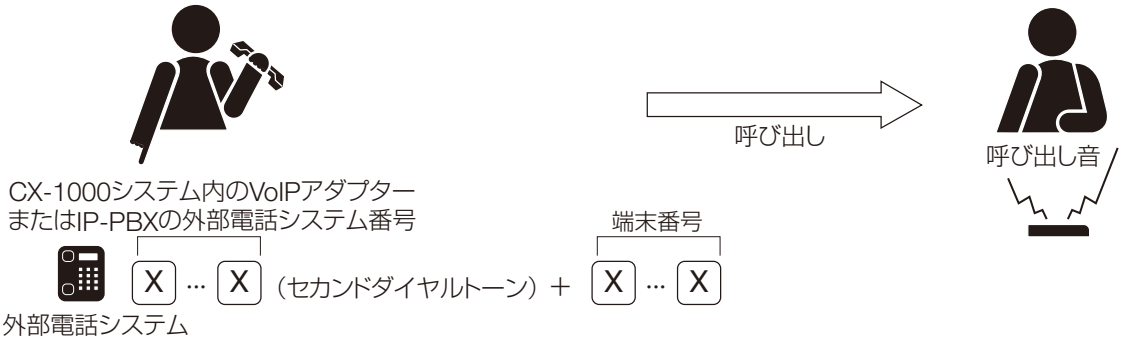
- ダイレクトインラインを着信できるように設定する必要があります。
  ダイレクトインライン着信の可否の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- ダイレクトインラインの端末または端末グループの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

● ダイレクトインダイヤルによる呼び出し

外部電話システムから、通話したい端末番号を指定して、直接呼び出すことができます。
外部電話システムからは、CX-1000 システム内の VoIP アダプターまたは IP-PBX の外部電話システム番号をダイヤルし、セカンドダイヤルトーン（受付音）を聞いた後、呼び出したい端末の番号をダイヤルします。
応答のしかたは、CX-1000 システム内の端末からの着信時と同じです。

ご注意

- ダイヤル間が 5 秒以上あれば終話されます。
- 30 秒以上ダイヤルされなければダイレクトインラインになります。



メ モ

ダイレクトインダイヤル機能を使用可能に設定する必要があります。
ダイレクトインダイヤル機能の使用可否の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）

■ 外部電話システムとの通話

● DTMF

外部電話システムからの DTMF により、通話を行うことができます。

ご注意

インバンド方式の DTMF を検知し、その信号を SIP INFO に変換できる VoIP アダプターまたは IP-PBX が必要です。
DTMF 検知方法の設定を VoIP アダプターまたは IP-PBX で行ってください。設定のしかたについては、VoIP アダプターまたは IP-PBX の取扱説明書をお読みください。

● ダイヤルコード終話

外部電話システムから DTMF により終話コードを受信することで通話を終了することができます。

ご注意

インバンド方式の DTMF を検知し、その信号を SIP INFO に変換できる VoIP アダプターまたは IP-PBX が必要です。

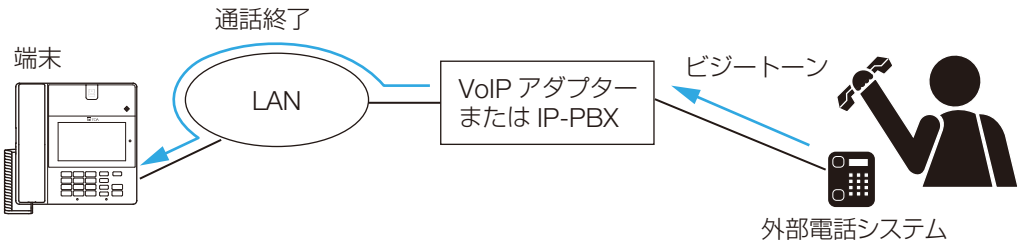
手順：通話中に外部電話システム側で終話コード［0］［0］［#］をダイヤルする。

● ビジートーン検出

外部電話システムとの通話中にビジートーンを検出することで、その通話を終了することができます。

ご注意

ビジートーンの検出に対応した VoIP アダプターはまたは IP-PBX が必要です。



SIP 電話機接続

各 SIP 電話機の設定方法に従って設定してください。

ご注意

- SIP 電話機から CX-1000 シリーズの端末へ手動転送をすることはできません。
- PTT による交互通話はできません。

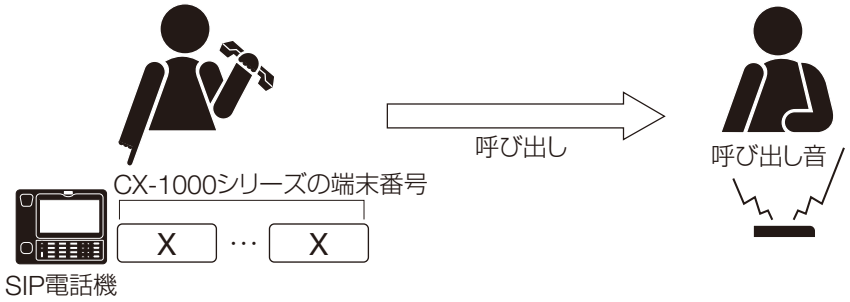
■ SIP 電話機からの呼び出し（個別呼び出し）

SIP 電話機から、通話したい CX-1000 シリーズの端末を呼び出すことができます。呼び出された CX-1000 シリーズ端末での着信方法は、CX-1000 シリーズ端末から呼び出されたときと同じです。

手順：呼び出したい CX-1000 シリーズ端末の端末番号をダイヤルして、通話状態にする。

メ モ

通話状態にするには、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。



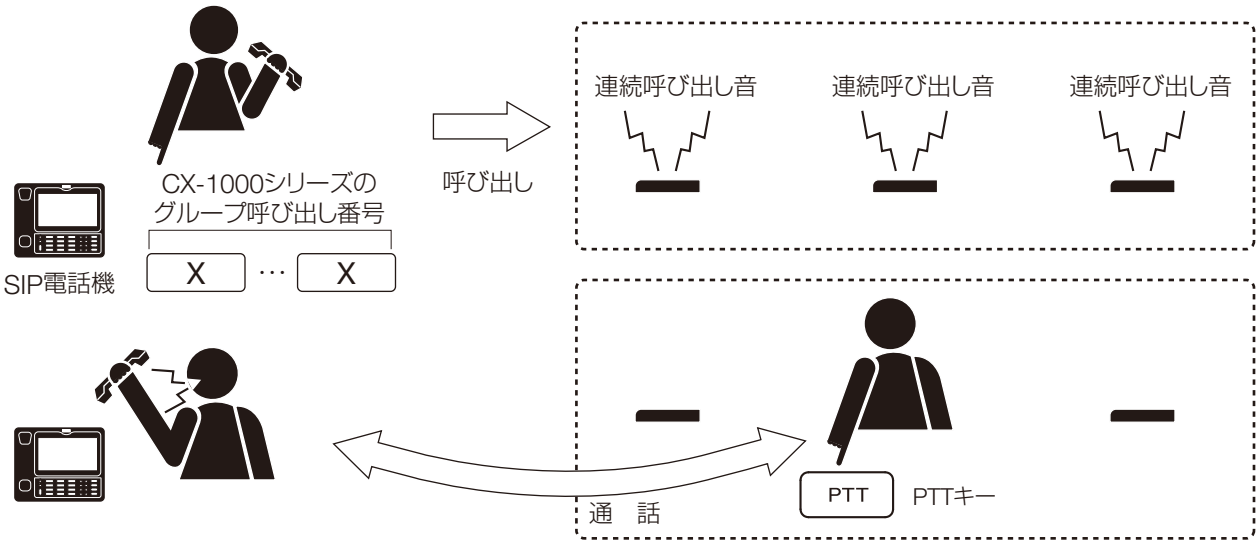
■ SIP 電話機からの呼び出し（グループ呼び出し）

SIP 電話機から、CX-1000 シリーズのグループ呼び出し番号をダイヤルして、一度に複数の端末を呼び出すことができます。呼び出された CX-1000 シリーズ端末での着信方法は、CX-1000 シリーズ端末から呼び出されたときと同じです。

手順：呼び出したい CX-1000 シリーズ端末のグループ呼び出し番号をダイヤルして、通話状態にする。

メ モ

通話状態にするには、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。



■ SIP 電話機での応答

（例）

手順：各 SIP 電話機の応答操作をする。

例：ハンドセットを持ち上げるなど

メ モ

操作方法は、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。

■ SIP 電話機からの制御出力操作（接点ブリッジ）

SIP 電話機からのダイヤル操作で制御出力をオン／オフすることができます。

● オン出力

手順：［＊］［3］［1］［制御出力グループ番号］をダイヤルして、通話状態にする。

制御出力がオンになります。

メ モ

通話状態にするには、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。

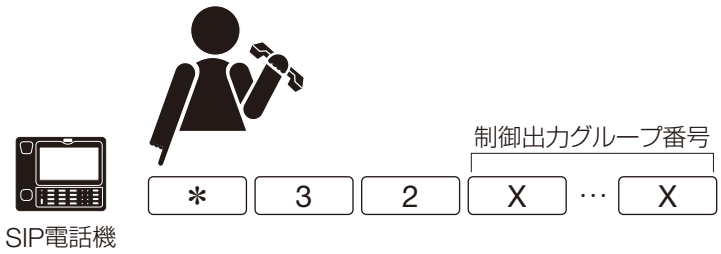
● オフ出力

手順：［＊］［3］［2］［制御出力グループ番号］をダイヤルして、通話状態にする。

制御出力がオフになります。

メ モ

通話状態にするには、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。



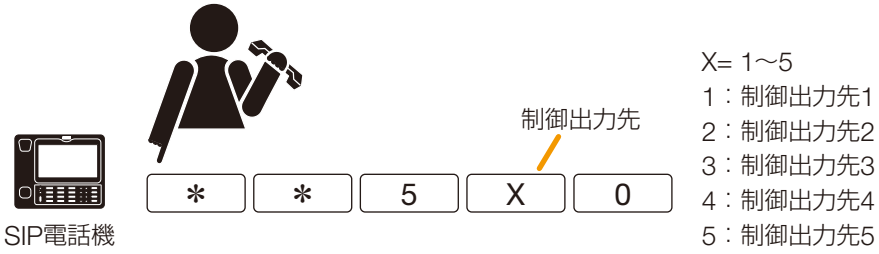
■ SIP 電話機からのドアリモート操作

SIP 電話機からドアリモートで通話中にダイヤル操作をすることで制御出力をオン／オフすることができます。

● オン出力

手順：通話中に、使用するドアリモートの制御出力先に応じて、以下の通りダイヤルする。

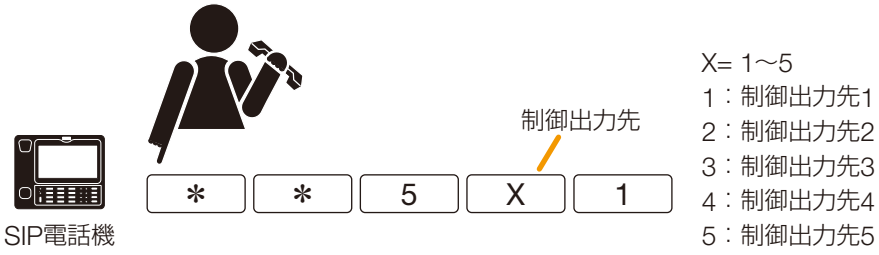
制御出力がオンになります。



● オフ出力

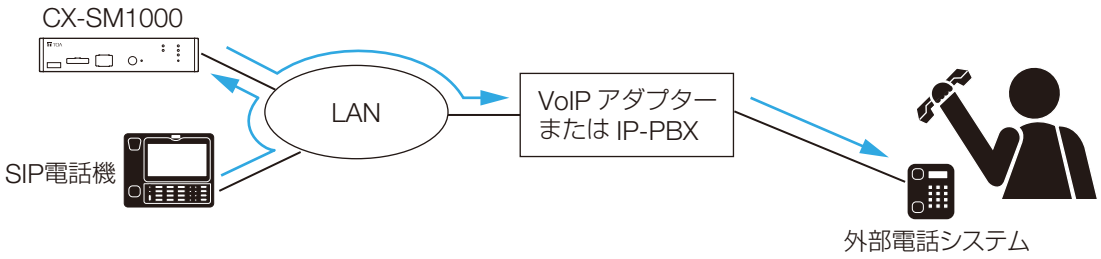
手順：通話中に、使用するドアリモートの制御出力先に応じて、以下の通りダイヤルする。

制御出力がオフになります。



■ SIP 電話機の外部電話システムとの接続

SIP 電話機から外部電話システムの電話に発信することができます。



1 発信特番を押して、通話状態にする。

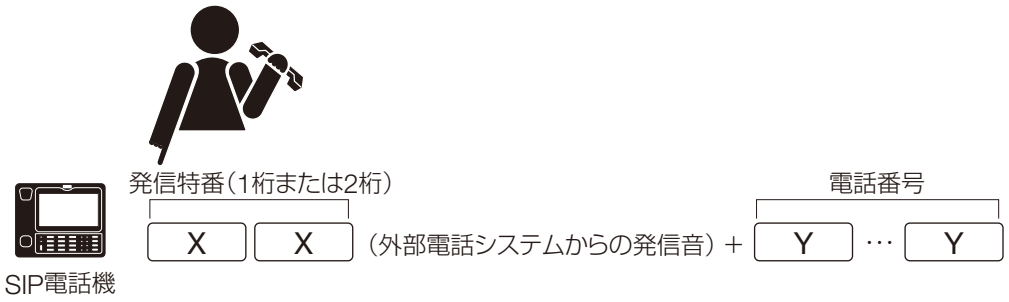
外部電話システムと接続できます。

メ モ

通話状態にするには、各 SIP 電話機の取扱説明書をお読みください。

2 外部電話システムからの発信音を確認して、電話番号をダイヤルする。

外部電話システムの電話機を呼び出します。

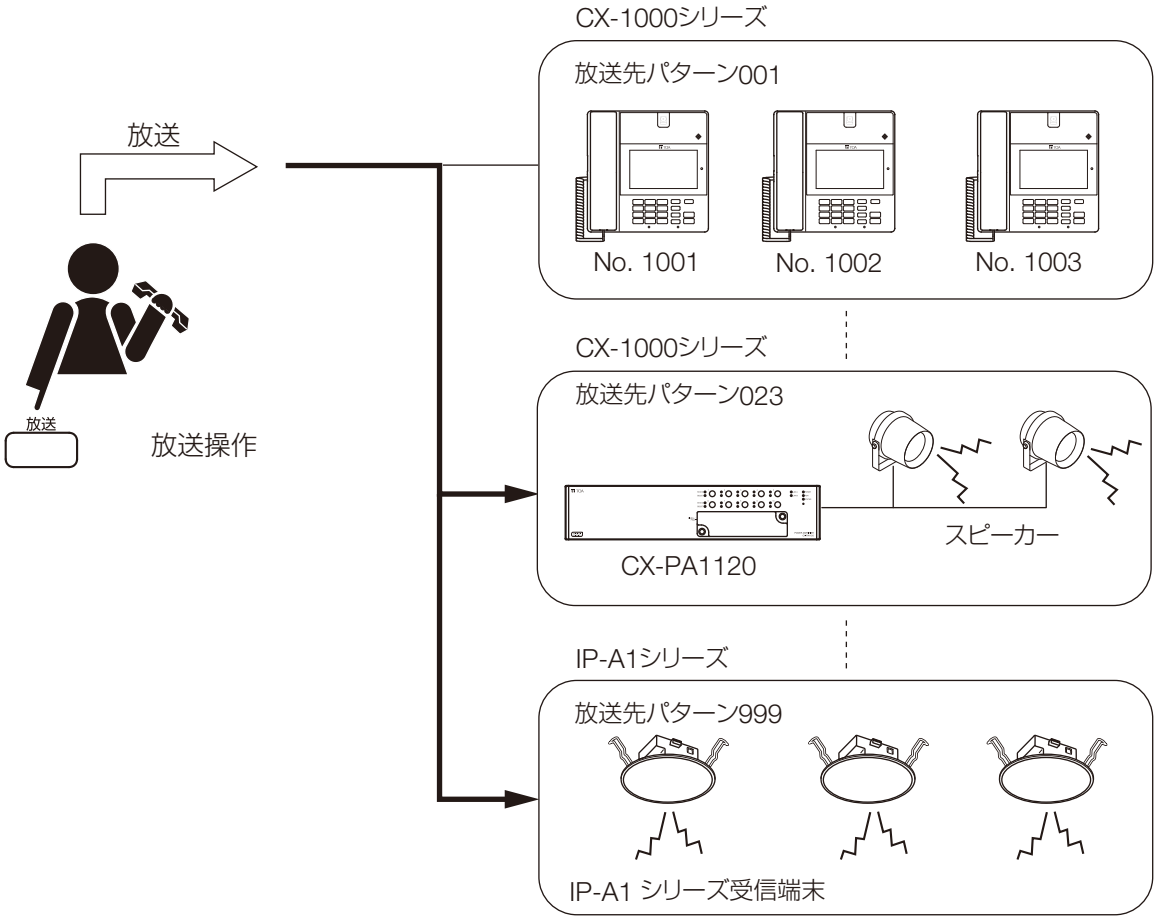


メ モ

- 外部電話システムへの発信ができるように設定しておく必要があります。外部電話システム発信操作の可否の設定は、端末ごとに、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）
- 発信特番の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「外部電話システムの設定」）
- 呼び出した外部電話システムが使用中でも、同一発信特番の外部電話システムが空いているときは、そちらの外部電話システムを使用します。

外部システムへの放送

IP-A1 シリーズへネットワークを通じて放送することができます。
放送先として IP-A1 シリーズの系統を選択します。
放送の操作は通常の CX-1000 シリーズ機器への放送の場合と同じです。



メ モ

CX-1000 設定ソフトウェアで、あらかじめ IP-A1 シリーズを放送先として設定する必要があります。（☞別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「放送の設定」）

第７章

その他の機能

CPU OFF 切換スイッチを使用した一斉放送

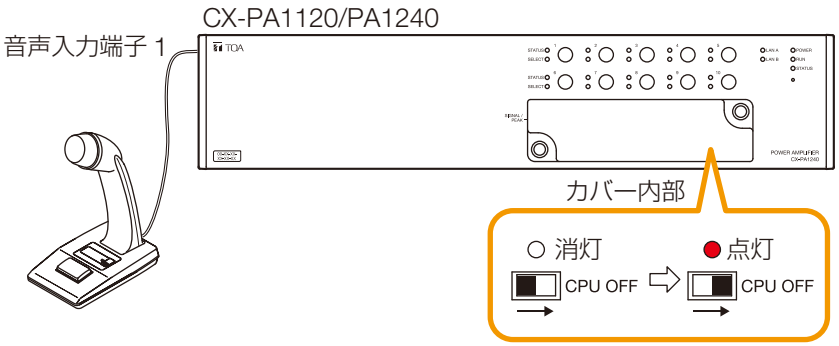
システムの故障などで通常の放送ができないときに、次の操作によりアンプごとの一斉放送を行うことができます。
これは、CX-PA1120/PA1240 が通常放送時に使用している CPU をバイパスさせて行う放送です。
CX-1000 設定ソフトウェアでの設定には関係ありません。
CX-PA1120/PA1240 がシステム内にあり、その音声入力端子 1 にマイクが接続されていることが条件となります。

ご注意

- 通常の放送ができない場合にのみご使用ください。
- CPU OFF を行うと、アッテネーター／制御出力の全チャンネルがオンになります。
- CX-PA1120/PA1240 は全ての制御出力がアッテネーターと兼用のため、制御出力端子に外部機器を接続した状態で CPU OFF すると外部機器が意図しない動作を起こす可能性があります。CPU OFF を行う場合はアッテネーター／制御出力端子に制御出力で使用する用途の外部機器を接続しないでください。

1 CX-PA1120/PA1240 前面のカバーを開けて、CPU OFF 切換スイッチを CPU OFF 側に設定する。

CPU OFF 表示灯が点灯し、放送ができる状態になります。



2 CX-PA1120/PA1240 後面の音声入力端子 1 に接続されたマイクから放送する。

操作している CX-PA1120/PA1240 に接続されているすべてのスピーカーから放送されます。

メ モ

- スピーカー出力および録音出力はスピーカーおよび録音出力用音量調節器をバイパスします。
- 音声入力 1 は音声入力用音量調節器をバイパスしません。

優先制御

通話機能、放送機能に優先度を付けることができます。
優先度の高い機能から順に処理されます。
例えば、放送同士または放送と通話の場合は、優先度が高いものが出力されます。
また、通話同士の場合は、選択応答のときに、優先度が高いものから順に待ち受け画面に表示されます。

■ 優先の判定方法

● 優先度

数字が小さいほど優先度が高くなります。

優先度 高 ↑ 優先度 低	緊急	1 ～ 80	緊急放送	：41 ～ 60
			緊急メッセージ	：61 ～ 80
	通常	81 ～ 160	救援通話	：81 ～ 100
			通常通話	：101 ～ 120
			復旧メッセージ	：121 ～ 140
			業務放送	：121 ～ 140
			BGM 放送	：141 ～ 160

メ モ

- 優先度の設定は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「優先度の設定」）
- 優先度は同じに設定することもできます。

● 先優先・後優先

同一優先度の複数の機能に対し、先優先・後優先を設定することができます。

先優先	先に起動した方の放送または通話が優先されます。先に起動した放送または通話が終了するまで、他の同一優先度の放送または通話はできません。
後優先	後に起動した方の放送または通話が優先されます。

ご注意

広域放送の場合は、この設定に関係なく、先優先で動作します。

メ モ

優先度の設定は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「同一優先度の先優先・後優先の設定」）

● 端末の優先度と動作

CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 においては、ユーザーの操作を最優先とし、優先度とは逆の動作になる場合もあります。

- 放送を配信中の端末は、それより優先度の高い通話の着信や放送の受信があっても、配信中の放送が継続します。
- 通話を着信中または放送を受信中の端末であっても、優先度に関係なく、通話の発信および放送の配信は行えます。
- 通話中の端末に対し、それより優先度の高い放送の受信があった場合、通話は終了し、優先度の高い放送に切り換わります。優先度の高い通話の受信があった場合など、それ以外の場合は、通話が継続します。
- 通話を発信中の端末に対し、それより優先度の高い放送の受信があった場合、通話の発信は終了し、優先度の高い放送に切り換わります。優先度の高い通話の受信があった場合など、それ以外の場合は通話の発信が継続します。

■ 優先呼び出し

● 救援通話

通常モード時の一番優先順位の高い呼び出し方法です。通話端末ごとに優先順位が設定できます。
通話の優先度が 81 ～ 100 に設定された端末からの通話が「救援通話」になります。

メ モ

優先度の設定は CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「通話ごとの優先度の設定」）

時間制限

通話または放送の利用時間を制限したい場合や、終話および放送終了操作を忘れて通話または放送が継続されたままになるのを防止するために、以下の３種類の時間を制限することができます。制限時間が経過すると、自動的に待ち受け状態に戻ります。

1. 呼び出し時間
2. 通話時間
3. 放送時間

■ 呼び出し時間制限

相手を呼び出しているときの最大時間を設定できます。最大時間を越えて相手が応答しなければ、自動で待ち受け状態に戻ります。

メ モ

CX-1000 設定ソフトウェアで、発信元の端末について「発信タイムアウト」を設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

■ 通話時間制限

通話の最大時間を設定できます。最大時間に達したとき自動で通話が終了します。

メ モ

CX-1000 設定ソフトウェアで、各端末について「通話タイムアウト」を設定します。発信元、発信先の設定で短い方がその通話の制限時間となります。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信・着信・通話動作の設定」）

■ 放送時間制限

放送の最大時間を設定できます。最大時間に達したとき自動で放送が終了します。

ご注意

緊急放送に、放送時間制限は適用されません。

メ モ

CX-1000 設定ソフトウェアで、音声入力ごとに「放送タイムアウト」を設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声入力の設定」）

外部機器制御

■ 制御出力

● 発信局表示

通話中のみ、または発信中および通話中に、連動して、制御出力をオン／オフすることができます。
特定の端末にランプ型の表示盤*を持たせると、その端末は通話相手や通話中に呼び出してきた相手をランプで表示させることができます。
複数の端末（最大４台）で表示盤を共有して、グループ内のどの端末にかかってきても表示させることができます。

* CX-1000 システム内の機器の制御出力を利用して、別途製作する必要があります。

ご注意

外部電話システムからの呼び出しについて、この機能は使用できません。

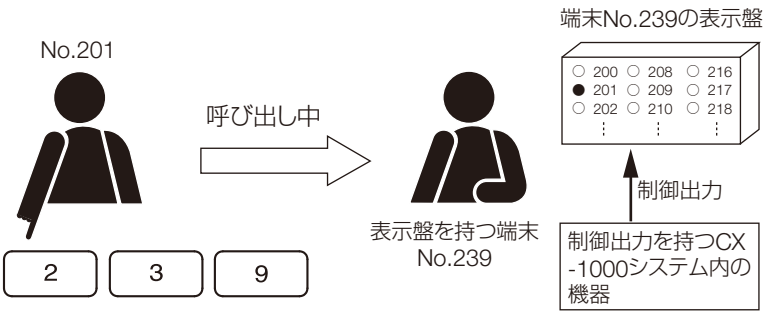
メ モ

発信局表示の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「発信局表示の設定」）

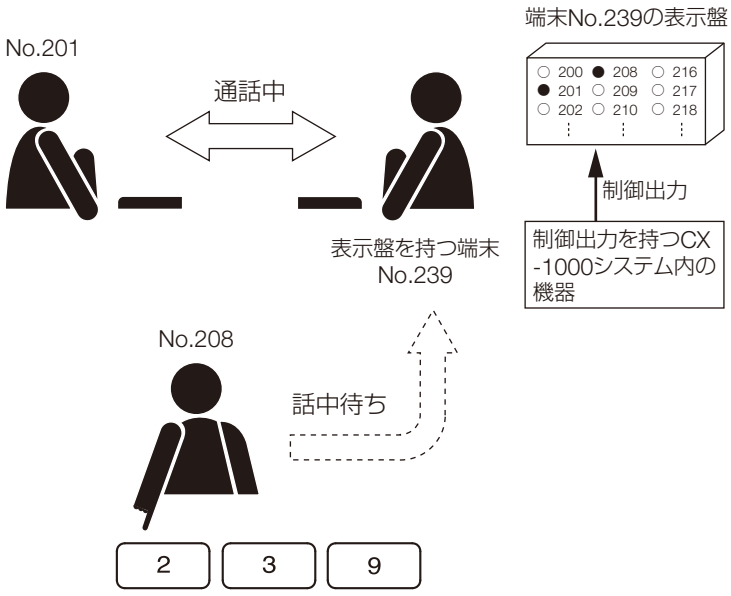
[発信局表示の例]

発信局表示の設定を「発信・通話中」にしたときの動作例です。

- 表示盤を持つ端末に呼び出しがあると、呼び出しをしてきた端末のランプが点灯します。この呼び出しに応答し、終話すると消灯します。



- 表示盤を持つ端末が通話中で呼び出しがあるときも、呼び出しをしてきた端末（話中待ちの端末）のランプは点灯します。
- 話中待ちの端末がキャンセルすればランプは消灯します。



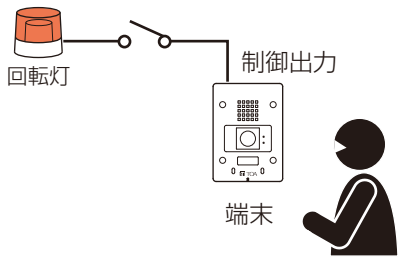
● 発信・通話連動制御出力

CX-OP1700/OP1500/CL1750/CL1550 で相手を呼び出しているときや通話に連動して、制御出力をオン／オフすることができます。
「発信・通話中」に連動制御出力先を設定できます。
例えば、呼び出し、通話に連動して、回転灯やカメラを制御することが可能です。

メ モ

端末の連動制御出力の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「各機器の基本動作の設定」）

［回転灯を接続した例］



● 放送連動制御出力

放送の開始に連動して、制御出力をオン／オフすることができます。

メ モ

放送に連動する制御出力の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「放送の設定」）

■ 音声出力

● アッテネーター制御出力

緊急優先度の放送出力に連動して、CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター制御出力をオン／オフできます。

メ モ

CX-1000 設定ソフトウェアであらかじめ設定することで、緊急放送、緊急メッセージ放送時に放送が出力されている回線状態に連動して、CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター制御をオン／オフできます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声出力の設定」）

音声通知

■ 音声通知

● 通話通知音

通話中に短い信号音をスピーカーから出力します。
例えば、自動応答で着信した場合に、相手が通話状態のまま音声を出さず、一方的にこちらの音だけを聞いていると、気づかないままになることがあります。信号音を出力することにより、通話状態であることを知らせる機能です。

メ モ

通話通知音の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「通話全般の設定」）

■ チャイム

放送開始前および放送終了後にチャイムを流すことができます。

メ モ

- チャイムの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。放送キーによるマイク放送ではトーン・チャイム設定で選択されたチャイムを使用します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「端末ごとのトーン・チャイムの設定」「業務放送の設定」）
- 放送開始の操作からチャイム放送開始までの時間は、CX-1000 設定ソフトウェアで「放送開始待ち時間」として設定できます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声入力の設定」）
- チャイムを１つの音源として単独で放送することもできます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

プログラムタイマー

■ タイマーイベント起動

放送の開始・終了、音量の変更、制御出力などを、指定した時刻に起動することができます。
タイマー制御による１つの動作をイベントとして設定し、それらを組み合わせて、デイリープログラムを設定します。デイリープログラムをさらに週間プログラム、カレンダー設定に割り当てます。最大２年分の設定を登録して運用できます。

メ モ

タイマーイベントの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「プログラムタイマーの設定」）

■ パターン変更

一時的にタイマー運用パターンを変更することができます。
制御入力またはダイレクトキーの操作で変更できます。
ダイレクトキーでの操作は以下のようになります。

1 **タイマー運用パターン変更の機能に設定されたダイレクトキーを押す。**
ダイレクトキーに設定されたデイリープログラムに変更されます。

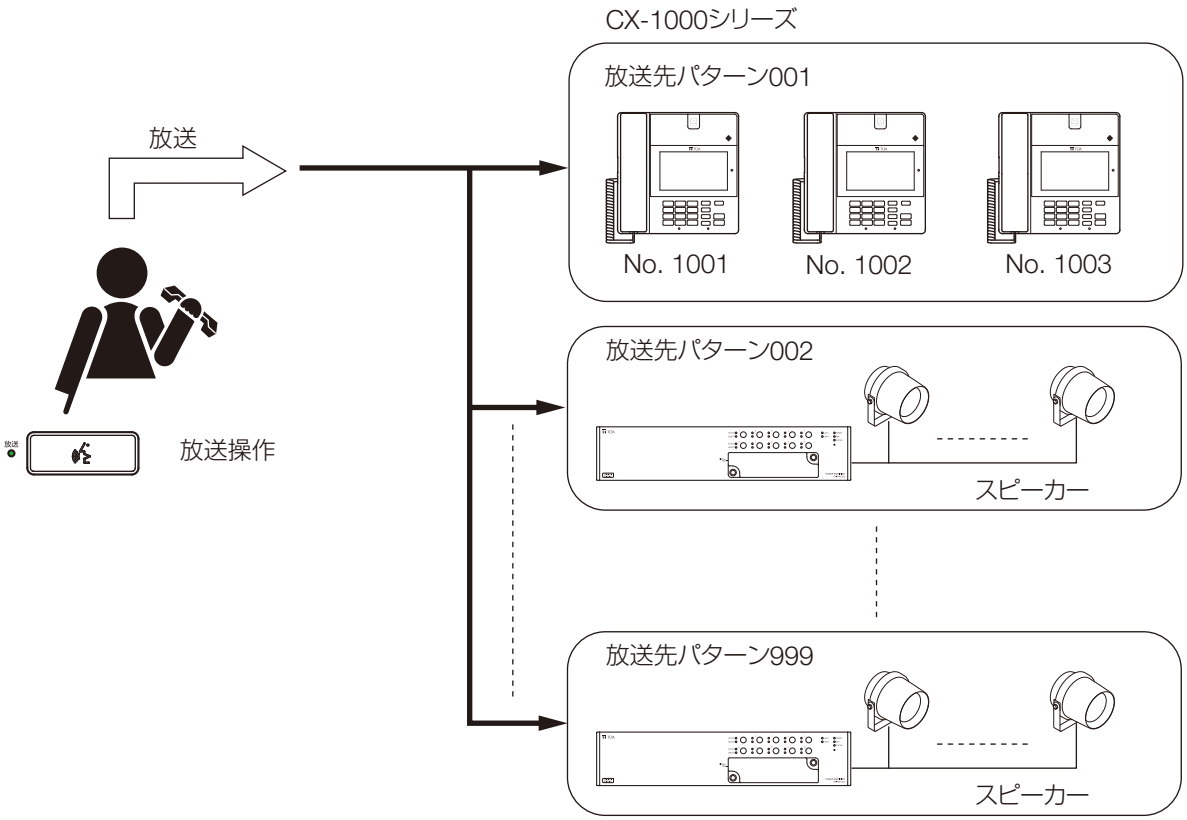
2 **同じダイレクトキーをもう一度押す。**
変更前の週間プログラムに戻ります。

広域放送

CX-1000 システムには「通常放送」と「広域放送」の 2 つの放送種別があります。
放送種別を「広域放送」に設定すると、一度に 200 台または 500 回線を超える端末・ユニットへ放送することができ、最大 2999 回線の端末・ユニットへ放送することができます。

ご注意

- 放送送信機器から放送受信機器まですべてのネットワーク経路で、マルチキャストパケットが伝送される環境が必須です。



- 放送種別が「通常放送」に設定されているときとは異なり、放送の開始時や終了時に音が途切れる可能性があります。
- 広域放送では、放送送信機器および放送受信機器を、同じマルチキャストグループに設定してください。

メ モ

放送種別の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「放送全体の設定」）

録音

音声通話、ビデオ通話、および放送の録音ができます。

ご注意

- ビデオ通話の映像は録画できません。音声のみ録音できます。
- ファイルサーバーには、Windows10、Windows11 の共有フォルダーをご使用ください。
- 録音の再生は CX-1000 シリーズの機器上ではできません。パソコンからファイルサーバーにアクセスしてプレーヤーで再生してください。

時刻調整

■ NTP

システムの内部時計を NTP サーバーに合わせます。
CX-SM1000 は、起動時と 1 日 1 回、あらかじめ設定された NTP サーバーに接続し、時刻補正を行います。

■ 時刻補正

● 0 秒補正

システムの時刻を 0 秒補正します。
制御入力に時刻補正の機能を割り当て、CX-SM1000 の時刻の補正を行います。
毎分 0 ～ 29 秒の間は 0 秒にセット、30 ～ 59 秒の間は 1 分後の 0 秒にセットされます。

メ モ

制御入力の機能の設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

● サマータイム自動補正

あらかじめ設定したタイムゾーンに合わせて、自動的にサマータイムが適用されます。

メ モ

タイムゾーンの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「DNS/NTP/ICMP の設定」）

オーディオシーンの変更

システム全体の信号処理パラメーター（入力ゲイン、コンプレッサー、EQ など）の組み合わせをオーディオシーンとして保存できます。
最大 8 つのオーディオシーンを登録することができ、制御入力、ダイレクトキー、またはタイマーによりオーディオシーンを変更することができます。

メ モ

- オーディオシーンの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「オーディオシーンの設定」）
- 制御入力および各キーへの機能の割り当ては、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）
- 緊急モード時は自動的に緊急用のオーディオシーンが適用されます。

機器交換

機器故障などで機器を新しいものに交換する場合、IP アドレスなどの最小限の設定を行うだけで、機器へのシステム設定の書き込み不要で新しい機器の使用が可能です。

ご注意

システムの統括を行う CX-SM1000 を交換する場合のみ、新しい CX-SM1000 への設定の書き込みが必要となります。

● CX-SM1000 以外機器の場合

1 交換する機器と同じ IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを新しい機器へ設定する。

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」）

2 交換する機器の LAN ケーブルをシステムから抜去する。

3 新しい機器に LAN ケーブルを挿入し、システムに接続する。

新しい機器の状態表示灯が緑点灯に変わったら、機器交換は完了です。

● CX-SM1000 の場合

1 交換する機器と同じ IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを新しい機器へ設定する。

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定は、CX-1000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」

2 交換する機器の LAN ケーブルをシステムから抜去する。

3 新しい機器に LAN ケーブルを挿入し、システムに接続する。

4 新しい機器に設定ファイルをアップロードする。

設定ファイルが入った SD カードを準備し、SD カードから新しい機器へアップロードします。（☞ P. 9-2「SD カードを使ったアップロードとダウンロード」）
システムのすべての機器の状態表示灯が緑点灯に変わったら、機器交換は完了です。

ご注意

CX-SM1000 を交換する場合、新しい機器が使用可能になるまでの間はシステムが停止します。

メ モ

設定のアップロードは、設定ソフトウェアからでも行えます。

第 8 章

故障検知

自己点検

■ 定期点検と手動点検

1 日に 1 回、あらかじめ設定された時刻に、自動的に自己点検を実行します。これを定期点検と呼びます。
音声ライン、呼出ボタンなどに異常があれば、ブザー、液晶表示、表示灯で通知します。
また、端末やブラウザーでの操作により、手動で自己点検をすることもできます。これを手動点検と呼びます。
手動点検では、点検開始時に、自己点検で行う点検項目の中からどの項目を実行するかを指定して行います。

［自己点検で検知する故障一覧］

故障検知ポイント	故障検知内容	対象機種									
		CX-SM1000	CX-OP1700	CX-CL1750	CX-OP1500	CX-CL1550	CX-RM1700	CX-AF1062	CX-PA1120	CX-PA1240	CX-CC1016
ハンズフリーマイク／スピーカー	音声ラインが正常に動作しているか。	—	○	○	○	○	—	—	—	—	—
呼出ボタン*1	ダイレクトキーが押されたままになっていないか。	—	—	○	—	○	—	—	—	—	—
アンプ*2	音声入出力が正常に動作しているか。	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—
外部記憶装置接続	CX-SM1000 がファイルサーバーを認識できているか。	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—

*1 ダイレクトキーの接点不良などの異常の場合は、故障検知できない可能性があります。
*2 手動点検でのみ点検可能です。

ご注意

- CX-OP1700/OP1500/CL1750/CL1550 を近くに設置すると、他の機器の点検音源をマイクで集音してしまい、ハンズフリーマイクとスピーカーの点検がうまく行えない可能性があります。
  ハンズフリーマイクとスピーカーの点検を実行したい場合は、機器間の距離を離して設置してください。
  機器間の距離を離して設置できない場合は、ハンズフリーマイクとスピーカーの点検を実行しない設定にしてください。
- 点検音源が鳴っている間にキー操作をしないでください。
  ハンズフリーマイクとスピーカーが故障と判断される可能性があります。
  キー操作をしてしまって故障と判断された場合、再度手動点検を実施してください。

メ モ

- 定期点検を行うかどうか、および定期点検を行う時刻は、あらかじめ CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「自己点検の設定」）
- 故障検知の対象となる機器は、あらかじめ CX-1000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「故障検知ポイントの設定」）
- CX-SM1000、CX-OP1700、CX-RM1700、CX-OP1500 には、ブザーまたは液晶表示により故障発生を通知することができます。また、CX-CL1750/CL1550/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 には、表示灯により故障発生を通知することができます。（☞ P. 8-7「故障受理と故障リセット」）
  CX-1000 設定ソフトウェアで、あらかじめダイレクトキーに「故障受理」、「故障リセット」の機能を割り当てておきます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント起動の設定」）

■ 手動点検のしかた

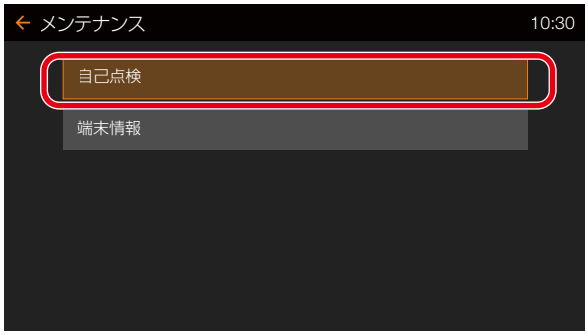
端末からの操作で点検を行えます。

● CX-OP1700、CX-RM1700 の場合

1 **メニューボタンを押す。**

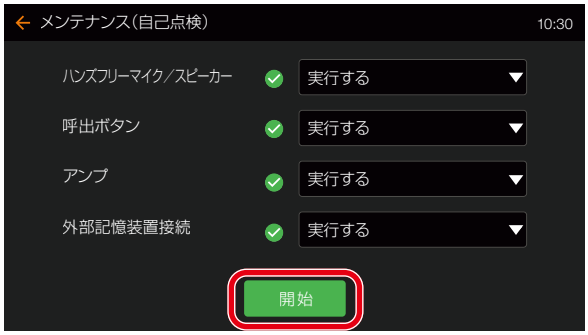
メニューが表示されます。

2 **「メンテナンス」を押す。**



メンテナンスメニュー画面が表示されます。

3 **「自己点検」を押す。**

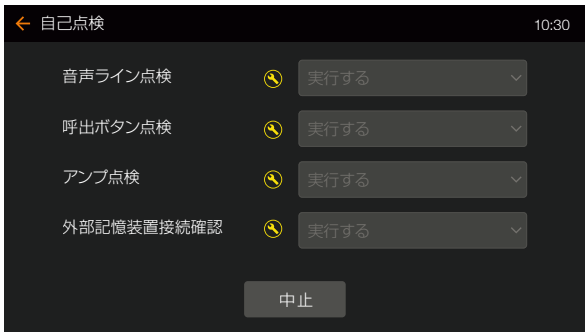


自己点検画面が表示されます。

4 **点検する項目を設定する。**

右端の▼ボタンを押して、点検したい項目を「実行する」にします。

5 **開始ボタンを押す。**



自己点検が開始されます。
点検中は項目ごとに点検の状態がアイコンで表示されます。

：成功

：点検中

：中止（点検未実施）

：スキップ

：エラー

メ モ

自己点検を中止する場合は、中止ボタンを押します。ただし、中止できるのは自己点検を開始した端末のみです。

自己点検が完了すると、点検したすべての項目の結果が表示されます。

6　待ち受け画面に戻るまで、戻るボタンを何回か押す。

● CX-OP1500 の場合

1 **待ち受け画面で機能 2 キー、[0] キー、[0] キーを順番に押す。**

液晶画面にメニューが表示されます。

2 **[＃ / ▲] キーまたは [1] キーを押す。**

3 **[＃ / ▲] キーまたは [1] キーを押す。**

自己点検の項目画面が表示されます。
以下の 4 項目について、実行するかしないかを設定します。

1：MIC/SP
2：キー［CL］
3：アンプ
4：記憶装置

4 **[↓] キーまたは [↑] キーを押して、設定したい項目にカーソルを移動させる。**

5 **[＃ / ▲] キーまたは項目番号のダイヤルキーを押す。**

設定画面が表示されます。

6 **[↓] キーまたは [↑] キーを押して、設定したい内容にカーソルを移動させる。**

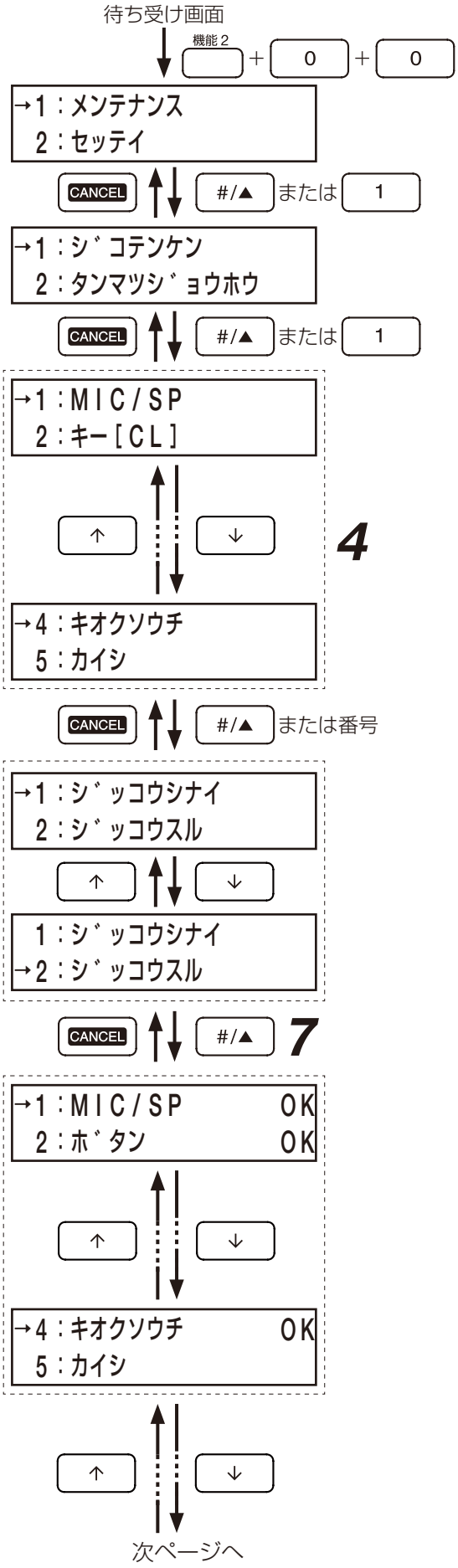
7 **[＃ / ▲] キーを押す。**

内容が確定し、自己点検の項目画面に戻ります。

メ モ

[＃ / ▲] キーを押さずに、キャンセルキーを押すと、設定を変更しないで、自己点検の項目画面に戻ります。

8 **手順 4 ～ 7 を繰り返す。**



9 ［↓］キーまたは［↑］キーを押して、「5：カイシ」にカーソルを移動させる。

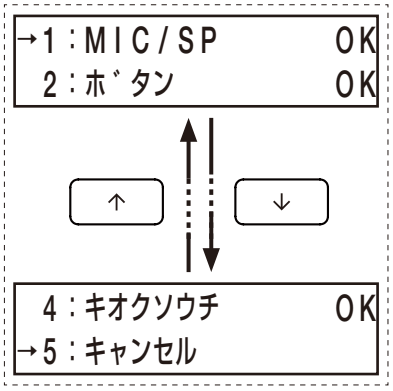
10 ［＃ / ▲］キーまたは［5］キーを押す。

自己点検が開始され、自己点検項目の「1：MIC/SP」が選択されている画面が表示されます。
各項目の右側には、点検状態が表示されます。表示はリアルタイムで切り換わります。

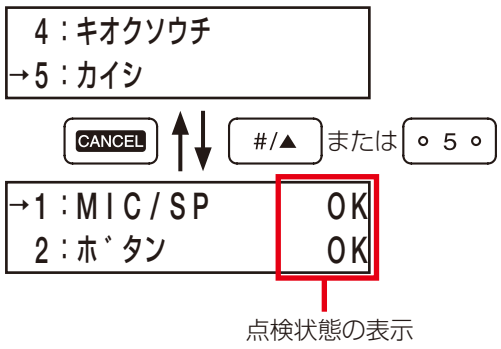
表示	点検状態
OK（デフォルト）	電源起動時
RUN	点検中
NONE	中止（点検未実施）
SKIP	スキップ（点検を開始できなかった。または、通話・放送・停止などの要求により点検を中止した。）
OK	点検が正常に終了
FAIL	エラー（点検が異常終了した。）

メ モ

点検中は自己点検項目の 5 項目目が「5：カイシ」から「5：キャンセル」に変わります。「5：キャンセル」を選択すると、点検を中止することができます。



前ページから



故障受理と故障リセット

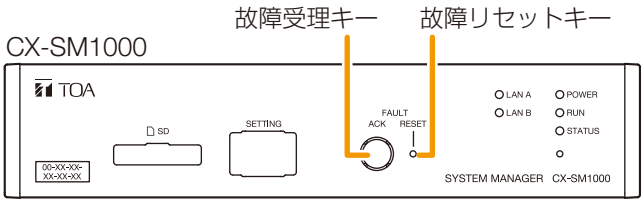
故障を検知したときは、ブザー音、液晶画面、表示灯で通知されます。
故障受理操作を行うことで、ブザーが停止し、表示灯が点滅から点灯に変わります。
さらに、故障リセット操作をすることで、表示灯が消灯、または液晶画面の故障発生表示が消えます。

メ モ

制御入力、CX-SM1000 の故障受理キーの場合は、システム内のすべての故障検知出力パターンを一括で受理します。それ以外のキーの場合は、そのキーに割り当てられた故障検知出力パターンのみを受理します。

[CX-SM1000 の場合の例]

システム内の故障を検知すると、CX-SM1000 からブザー音が鳴り、状態表示灯が黄色で点滅します。



1 故障受理キーを押す。

ブザー音が止まり、状態表示灯が黄色の点灯に変わります。

2 原因を特定し、取り除く。

パソコンでブラウザーを起動して CX-SM1000 に接続し、「動作状態」＞「機器」または「ログ」＞「故障ログ」で故障内容を確認します。詳しくは、別冊のメンテナンス説明書をお読みください。

（例）

故障の原因が分かれば、故障箇所を直します。

3 故障箇所が改善されても異常表示が続く場合は、故障リセットキーを押す。

異常表示が消え、通常の状態に戻ります。

[CX-OP1700/RM1700 の場合の例]

CX-OP1700/RM1700 のダイレクトキーに割り当てられた故障検知出力パターン内の機器で故障が発生すると、CX-OP1700/RM1700 からブザー音が鳴り、液晶画面に故障発生画面が表示されます。

1 故障内容を確認し、受理ボタンを押す。

待ち受け画面に戻ります。

2 故障の原因を取り除く。

3 故障箇所が改善されても異常表示が続く場合は、故障リセットの機能が割り当てられたダイレクトキーを押す。

[CX-OP1500 の場合の例]

CX-OP1500 のダイレクトキーに割り当てられた故障検知出力パターン内の機器で故障が発生すると、CX-OP1500 からブザー音が鳴ります。

1 故障受理の機能が割り当てられたダイレクトキーを押す。

ブザー音が止まります。

2 原因を特定し、取り除く。

キーに割り当てられている故障箇所を点検し、直します。

3 故障箇所が改善されても異常表示が続く場合は、故障リセットの機能が割り当てられたダイレクトキーを押す。

通常の状態に戻ります。

[CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合の例]

自機のダイレクトキーに割り当てられた故障検知パターン内の機器で故障が発生すると、そのダイレクトキー横の状態表示灯が黄色で点滅します。

1 状態表示灯が黄色で点滅しているダイレクトキーを押す。

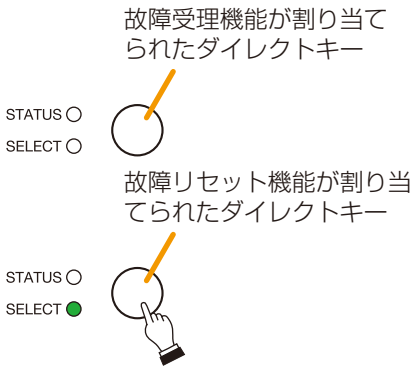
状態表示灯が黄色の点灯に変わります。

2 原因を特定し、取り除く。

キーに割り当てられている故障箇所を点検し、直します。

3 故障箇所が改善されても異常表示が続く場合は、故障リセットの機能が割り当てられたダイレクトキーを押す。

通常の状態に戻ります。



第９章

データの登録と書き出し

SD カードを使ったアップロードとダウンロード

SD カードを使用することで、設定データのアップロードとダウンロード、および履歴データのダウンロードができます。

ご注意

- 動作確認済み SD カード一覧に掲載の SD カードをご使用ください。動作確認済み SD カード一覧は、TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）で公開しています。
  パソコンでブラウザーを起動して上記 URL を入力し、表示された画面で品番を「CX-SM1000」と入力して検索してダウンロードしてください。
- 設定スイッチ 1 または設定スイッチ 2 をオフにしたときは、必ず SD カードを抜いてください。

メ モ

ネットワーク経由でアップロードまたはダウンロードすることもできます。詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「設定ファイルをアップロードする」「設定ファイルをダウンロードする」をお読みください。

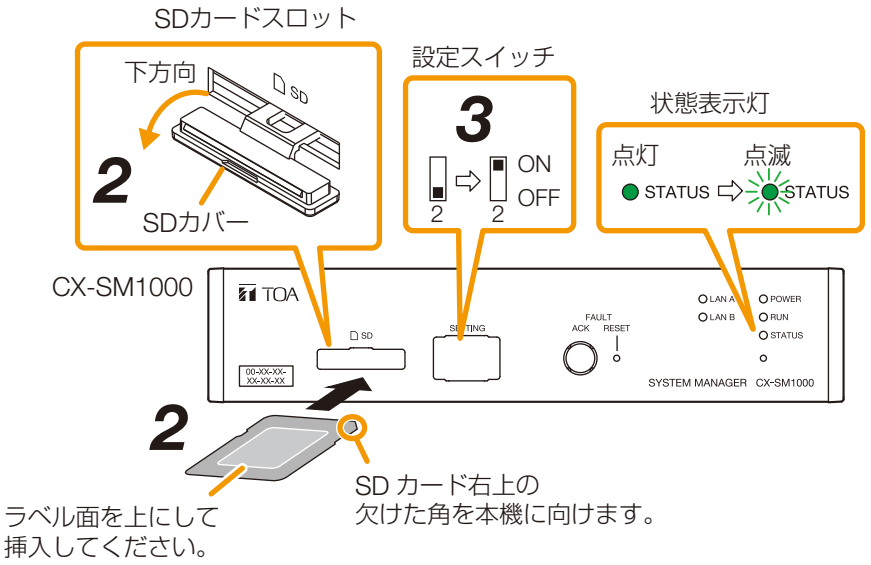
■ SD カードから CX-SM1000 へアップロードするとき

1 CX-1000 設定ソフトウェアで設定し、設定データを SD カードに保存する。

設定データの保存のしかたについて、詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書をお読みください。

2 SD カードを CX-SM1000 に挿入する。

SD カバーを外し、SD カードを奥まで差し込んでください。



3 CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 2 を OFF 側から ON 側にする。

SD カードの状態確認後、アップロードの準備が開始され、状態表示灯が低周期で緑色点滅を始めます。準備が完了すると点滅の周期が早くなり、SD カードからのアップロードが開始されます。状態表示灯が緑色点滅から緑色点灯に変わると、アップロードは完了です。

重　要

状態表示灯が緑色点滅しているときは、SD カードの抜き差しおよび設定スイッチの操作はしないでください。設定データが壊れる可能性があります。

4 **状態表示灯が緑色点滅から緑色点灯に変わった後に CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 2 を OFF 側に戻す。**

5 **CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 2 を OFF 側に戻した後に SD カードを CX-SM1000 から抜く。**

SD カードを軽く押し込んでから抜き、SD カバーを元に戻してください。

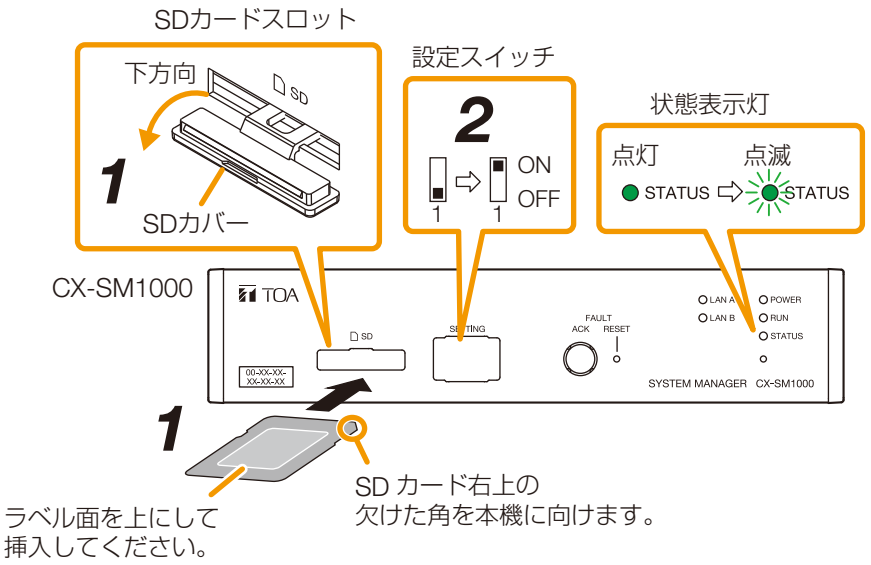
ご注意

SD カードを無理に引き抜かないでください。
また、設定スイッチを ON 側にしたまま SD カードを引き抜かないでください。
故障の原因となります。

■ CX-SM1000 から SD カードへダウンロードするとき

1 **SD カードを CX-SM1000 に挿入する。**

SD カバーを外し、SD カードを奥まで差し込んでください。



2 **CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 1 を OFF 側から ON 側にする。**

SD カードの状態確認後、ダウンロードの準備が開始され、状態表示灯が低周期で黄色点滅を始めます。準備が完了すると点滅の周期が早くなり、SD カードからのダウンロードが開始されます。状態表示灯が黄色点滅から黄色点灯に変わると、ダウンロードは完了です。

重　要

状態表示灯が黄色点滅しているときは、SD カードの抜き差しおよび設定スイッチの操作はしないでください。
設定データが壊れる可能性があります。

3 **状態表示灯が黄色点滅から黄色点灯に変わった後に CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 1 を OFF 側に戻す。**

CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 1 を OFF 側に戻すと、状態表示灯が黄色点灯から緑色点灯に変わります。

4 CX-SM1000 の設定スイッチのスイッチ 1 を OFF 側に戻した後に SD カードを CX-SM1000 から抜く。

SD カードを軽く押し込んでから抜き、SD カバーを元に戻してください。

ご注意

SD カードを無理に引き抜かないでください。
また、設定スイッチを ON にしたまま SD カードを引き抜かないでください。故障の原因となります。

メ モ

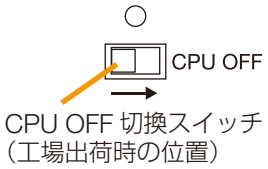
CX-SM1000 から SD カードへダウンロードを行った場合、設定ファイルと履歴ファイルが以下の場所に保存されます。
設定ファイル：
cx1000 フォルダー内に cx1000settings_yyyymmddhhmmss.cxsd が生成されます。
（例：cx1000settings_20260331191011.cxsd）

履歴ファイル：
cx1000 フォルダーに log フォルダーが生成され、log フォルダー内に動作履歴ファイルと故障履歴ファイルが生成されます。
動作履歴ファイルの名称は、cx1000_yyyymmddhhmmss_op.log となります。
（例：cx1000_20260331191011_op.log）
故障履歴ファイルの名称は、cx1000_yyyymmddhhmmss_fa.log となります。
（例：cx1000_20260331191011_fa.log）

第10章

故障かなと思ったら

故障かなと思ったら

症状	調べるところ	対処
ユニットが動作しない。	電源は正しく接続されていますか？	ユニットは PoE 給電では動作しません。AC アダプター AD-246 または電源ケーブルを正しく接続してください。
	機器前面のすべての表示灯が消灯したままになっていませんか？	電源を入れてください。
	機器前面のすべての表示灯が点灯、または周期的に点滅したままになっていませんか？	P. 2-21「CX-SM1000/RM1700/AF1062/PA1120/PA1240/CC1016 の状態表示灯」を確認して対処してください。
	CX-PA1120/PA1240 の CPU OFF 切換スイッチが CPU OFF 側になっていませんか？	CX-PA1120/PA1240 の CPU OFF 切換スイッチを下図のとおり工場出荷時の位置にしてください。  CPU OFF 切換スイッチ （工場出荷時の位置）
端末が動作しない。	PoE 対応のスイッチングハブは供給電力が足りていますか？	すべての端末の定格電力がまかなえる PoE スイッチングハブを使用してください。*1
	AC アダプターは指定のものを使用していますか？	AC アダプター AD-1215P を正しく接続してください。
	状態表示灯が消灯したままになっていませんか？	電源を入れてください。
	状態表示灯が周期的に点滅していませんか？	P. 2-21「CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の状態表示灯」を確認して対処してください。
CX-1000 設定ソフトウェアの機器検出で機器を検出できない。	それぞれの機器は CX-1000 設定ソフトウェアを使用するパソコンと同じネットワークに接続されていますか？	ルーターを介して別のネットワークにある機器は検出できません。同じローカルエリア内に接続してください。
	ウィルス検知ソフトウェアを使用していますか？	ウィルス検知ソフトウェアを一時的に無効にしてください。
CX-1000 設定ソフトウェアが CX-SM1000 に接続できない。	CX-1000 設定ソフトウェアを使用するパソコンがネットワークに正しく接続され、適切に設定されていますか？	パソコンの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを適切に設定し、正しく接続してください。*2
	CX-SM1000 の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ポート番号が適切に設定されていますか？	機器検出を行い、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを適切に設定してください。*2
	ルーターを介して別のネットワークを接続している場合、そのルーターが正しく設定されていますか？	ネットワーク管理者に、そのルーターが正しく設定されていることを確認してください。

症状	調べるところ	対処
SIP 電話または VoIP アダプターが動作しない。	SIP ID、パスワード、SIP サーバー（CX-SM1000）などが適切に設定されていますか？	適切に設定してください。詳しくは SIP 電話メーカーの取扱説明書をご確認ください。
	コーデックは適切に設定されていますか？	G.722、G.711（μ -law、a-law）以外は対応していません。詳しくは SIP 電話メーカーの取扱説明書をご確認ください。
ブラウザーによるメンテナンス画面が表示できない。	ブラウザーによる設定をするパソコンが正しくネットワークに接続されていますか？また、ブラウザーが正しく設定されていますか？	パソコンの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを適切に設定し、正しく接続してください。*2
	ブラウザーがプロキシを経由する設定になっていませんか？	ブラウザーがプロキシを経由する設定になっていると正しく表示できない場合があります。ネットワーク管理者にご相談ください。
ダイレクトキーを押しても反応しない。	CX-1000 設定ソフトウェアでダイレクトキーが正しく設定されていますか？	ダイレクトキーに割り当てる機能、名称を適切に設定し、設定アップロードを行ってください。*2
	液晶画面を正しくタッチしていますか？（CX-OP1700、CX-RM1700 のみ）	ダイレクトキーをタッチするときは、そのダイレクトキー以外の領域に触れないでください。
	ダイレクトキーをしっかり押していますか？（CX-CL1750、CX-CL1550 のみ）	ダイレクトキーを奥までしっかり押してください。
制御出力が動作しない。	CX-1000 設定ソフトウェアで正しく設定されていますか？	制御出力に割り当てる機能を適切に設定し、設定アップロードを行ってください。*2
発信通話の操作をしてもエラーになる。	機器登録は正しく行われていますか？	機器登録で機種名、IP アドレス、端末番号を正しく設定してください。*2
	ダイレクトキーにワンタッチダイヤル登録は設定されていますか？（ダイレクトキーにワンタッチダイヤルを登録した機器の場合）	ワンタッチダイヤル登録でダイヤルする番号も設定してください。*2
	発信通話の操作をしているときに、その機器に内蔵された音源を使って放送を送信していませんか？	放送の送信が完了してから操作をしてください。
着信しない。	状態表示灯は点灯していますか？	状態表示灯が点灯するまでお待ちください。点灯しない場合は IP アドレス、端末番号を適切に設定してください。*2

症状	調べるところ	対処
音声が出ない、または音が歪む。	ハンドセットケーブルは正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	ヘッドセットは正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	各種ユニットとアンプ、スピーカーなどが正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	音声入出力の音量が適切に設定されていますか？	音声入力用音量調節器、音声出力用音量調節器を適切に調節してください。*1
	音声入力レベルの切り換えが適切に設定されていますか？	入力設定スイッチ、入力レベル設定スイッチを適切に設定してください。*1
	音声に関する設定が適切ですか？	圧縮方式、サンプリング周波数を適切に設定してください。*2
	通話相手のマイク（ハンドセット）が正しく接続されていますか？	通話相手のハンドセットを正しく接続してください。
	通話相手のハンズフリー用マイク開口部がふさがれていませんか？	通話相手のマイク開口部をふさいでいる物を取り除いてください。
	ヘッドセットのミュートがオンになっていませんか？	ミュートをオフにしてください。詳しくはヘッドセットメーカーの取扱説明書をご確認ください。
	放送ストリームにマルチキャストを使用していませんか？	ルーターを介して別のネットワークに転送できていないかもしれません。ネットワーク管理者にご相談するか、ユニキャストを使用してください。
	非常断 24V 入力端子が正しく接続されていますか？	非常断 24V が有効の場合、非常断 24V 入力端子が正しく接続されていないと、– ∞に減衰されます。正しく接続するか、非常断 24V の有効無効を適切に設定してください。
音声に「プチッ」というノイズが入る、または途切れる。	ネットワークが混雑していませんか？ストリームログをご確認ください。	ネットワークの混雑が確認されたときは、ネットワーク管理者にご相談ください。
端末のハンドセットから音が出ない。	端末にハンドセットが正しく接続されていますか？	ハンドセットを正しく接続してください。
ビデオ通話ができない。	CX-1000 シリーズの端末を使用していますか？	CX-1000 シリーズ以外の端末はビデオ通話ができません。
	CX-1000 設定ソフトウェアでビデオを使用する設定にしていますか？	正しく設定し、設定アップロードを行ってください。*2
カメラの映像が映らない。	カメラの前に映像を遮る物はないですか？	遮る物を取り除いてください。
	カメラの設定は適切ですか？	カメラ側の設定を CX-1000 設定ソフトウェアの設定に合わせてください。CX-1000 設定ソフトウェアの圧縮方式が H.264 で、カメラ側が H.265 になっている場合、カメラの映像は表示されません。*2

症状	調べるところ	対処
機器の LINK/ACT 表示灯、SPEED 表示灯、または LAN 表示灯が点灯または点滅しない。	LAN ケーブルが正しく接続されていますか？	正しい種類のケーブルを接続し、適切なポートに接続してください。
	スイッチングハブは 100BASE-TX 対応のものを使用していますか？	100BASE-TX 対応のものを使用してください。
	スイッチングハブに電源が入っていますか？	スイッチングハブの電源を入れてください。
一部の機器が停止し、端末の LCD 画面または CX-SM1000 の Web メンテナンス画面に、温度異常を示すメッセージが表示された。	機器の周囲に高温の装置がある、または直射日光が当たっていませんか？ また、長時間のビデオ通話または IP カメラ映像の受信を行っていませんか？	熱源となる物から遠ざける、日光が当たらないようにするなど、設置環境を見直してください。 ビデオ通話または IP カメラ映像の受信を行っていた場合は、いったん止めて、しばらく機器を放置してください。

*1 詳しくは、別冊の設置説明書をお読みください。
*2 詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書をお読みください。

商品に関するお問い合わせ

お客様相談センター
受付 9:00～17:00
（土日、祝日除く）

固定電話 **0120-108-117**
携　帯 **0570-064-475**（有料）
F A X **0570-017-108**（有料）

IP電話はご利用いただけません。

個人情報の取扱方針は、弊社ホームページをご覧ください。（https://www.toa.co.jp/privacy.htm）

価格・在庫・修理・カタログに関するお問い合わせ

取扱店または営業所へご連絡ください。
最寄り営業所は TOA ホームページでご確認ください。
（https://www.toa.co.jp/）

TOA株式会社

202606